台太郎遺跡

－「フローラルアベニュー向中野２丁目」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書－

２０１５．９

徳清倉庫株式会社

盛岡市教育委員会

例　　言

1．本書は，岩手県盛岡市向中野二丁目６番２地内に所在する台太郎遺跡の発掘調査報告書である。
　台太郎遺跡第 80 次調査にかかる野外調査は，平成 25 年７月 22 日から 12 月２日まで実施し，調査面積は 1,155 ㎡である。室内整理作業は平成 25 年 12 月３日から平成 26 年６月 30 日まで行った。

2．本調査は，土地所有者である佐藤重昭氏（徳清倉庫株式会社　代表取締役社長）と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき，盛岡市遺跡の学び館が野外調査，出土資料整理及び報告書編集を実施した。本調査にかかる費用は，事業主体者である佐藤重昭氏から支出された。

3．本書は遺構及び遺物の実測図などの資料呈示を意図して，編集は花井正香が担当し，神原雄一郎，佐々木紀子，千田和文，室野秀文，菊地幸裕，津嶋知弘，鈴木俊輝が協力した。

4．遺構の平面位置は，日本測地系を用い，平面直角座標Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。

調査座標原点	Ｘ－35,500.000	＝	ＲＸ±0.000
	Ｙ＋26,500.000	＝	ＲＹ±0.000

5．高さは標高値をそのまま使用している。

6．土層図は堆積のあり方を重視し，線の太さを使いわけた。土層註記は層理ごとに本文でふれ，個々の層位については割愛した。なお，層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』(2013 小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業㈱発行）を参考にした。

7．遺構の名称及び記号は次のとおりである。 また「竪穴建物跡」の名称については，『発掘調査のてびき－集落遺跡発掘編－』(2010 文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編集）に倣っている。

遺　構	記号	遺　構	記号
竪穴建物跡	ＲＡ	土　　坑	ＲＤ
建　物　跡	ＲＢ	溝　　跡	ＲＧ

8．遺構番号は，公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下，「県埋文センター」という。）調査遺構番号との整合を図り，以下のとおりとした。
　本調査精査遺構：３桁または４桁の遺跡内連続番号
　　（基本的に県埋文センター調査遺構番号に連続，一部欠番あり）

9．使用した地図は国土交通省国土地理院発行の５万分の１「盛岡」「日詰」の地形図である。

10．土器の区分は，縄文土器・須恵器・あかやき土器・土師器・かわらけに分類した。「あかやき土器」の名称は，ロクロ使用の酸化焼成土器（坏類，甕類）に使用し，ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は「土師器」に分類した。

11．出土遺物の実測は，神原雄一郎，佐々木紀子が行った。

12．発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は，盛岡市遺跡の学び館で保管してある。

13．本調査の一部については，現地公開資料等により報告しているものがあるが，本書の記載内容をもって訂正する。

14.　調査体制　　－平成 25・26 年度－

［調査主体］	盛岡市教育委員会		
	教育長	千葉 仁一	
	教育部長	鷹觜 徹	
	教育次長	柴田 道明	（～平成 25 年度）
		豊岡 勝敏	（平成 26 年度）
［調査総括］	歴史文化課　遺跡の学び館		
	課長兼館長	袖上 寛	
	主幹兼館長補佐	千田 和文	（～平成 25 年度）
	館長補佐	北田 牧子	（平成 26 年度～）
［調　査］	副主幹	菊地 幸裕	（平成 26 年度～）
	文化財主査	室野 秀文	
	文化財主査	菊地 幸裕	（～平成 25 年度）
	文化財主査	津嶋 知弘	
	文化財主査	神原 雄一郎	（平成 25 年度大船渡市へ派遣）※資料整理
	文化財主任	花井 正香	（平成 26 年度大船渡市へ派遣）※調査・資料整理
	文化財調査員	佐々木 紀子	（～平成 25 年度）※資料整理
	文化財調査員	鈴木 俊輝	
	文化財調査員	樋下 理沙	（平成 26 年度～）
［管理・学芸］	主査	田山 淳一	（～平成 26 年度）
	主任	江本 敦史	（～平成 25 年度）
	文化財主任	千田 和文	（再任用：平成 26 年度）
	学芸調査員	山岸 佳澄	
	文化財調査員	木幡 里美	
	学芸調査員	山野 友海	

［発掘調査・室内整理作業］

阿部正幸，阿部有子，天沼芳子，泉山紀代子，伊藤敬子，内山陽子，長内理恵，
及川京子，春日真恵，川村久美子，熊谷あさ子，小林勢子，小松愛子，佐々木紀子，
佐藤和子，佐藤公一，佐野光代，谷藤貴子，千葉智子，千葉留里子，袴田英治，
日野杉節子，藤原亮子，細田幸美，山田聖子

［御指導・御協力］

岩手県教育委員会，公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
佐藤重昭，徳清倉庫株式会社，株式会社北進測量設計

（五十音順，敬称略）

目　　次

例　　言
目　　次
表　目　次
挿 図 目 次
写真図版目次

Ⅰ．遺跡の環境
　1．地理的環境 …… 1
　2．歴史的環境 …… 2
Ⅱ．調査内容
　1．これまでの調査 …… 4
　2．調査経過 …… 10
　3．遺跡の基本層序と遺構検出状況 …… 10
　4．検出された遺構と遺物
　（1）奈良時代の遺構・遺物 …… 11
　（2）平安時代の遺構・遺物 …… 14
　（3）古代以降の遺構・遺物 …… 41
Ⅲ．調査のまとめ …… 53

表　目　次

第１表　台太郎遺跡調査成果一覧 …… 9
第２表　出土遺物観察表　古代土器（1） …… 57
第３表　出土遺物観察表　古代土器（2） …… 58
第４表　出土遺物観察表　古代土器・縄文土器（3） …… 59
第５表　出土遺物観察表　土製品（1） …… 60
第６表　出土遺物観察表　土製品（2） …… 60
第７表　出土遺物観察表　石製品 …… 60
第８表　出土遺物観察表　鉄製品 …… 60
第９表　出土遺物観察表　磁器 …… 60

挿 図 目 次

第 1 図　台太郎遺跡位置図（1：100,000）……1
第 2 図　地形分類と周辺の遺跡分布 ……3
第 3 図　台太郎遺跡全体図（1：2,000）……5
第 4 図　台太郎遺跡第 80 次調査全体図 ……7
第 5 図　台太郎遺跡第 80 次調査全体図（溝跡，ピット）……8
第 6 図　ＲＡ671・672 竪穴建物跡 ……63
第 7 図　ＲＡ673 竪穴建物跡 ……64
第 8 図　ＲＡ674 竪穴建物跡 ……65
第 9 図　ＲＡ675 竪穴建物跡 ……66
第 10 図　ＲＡ676 竪穴建物跡 ……67
第 11 図　ＲＡ677 竪穴建物跡 ……68
第 12 図　ＲＡ678 竪穴建物跡 ……69
第 13 図　ＲＡ679・681 竪穴建物跡 ……70
第 14 図　ＲＡ680 竪穴建物跡 ……71
第 15 図　ＲＡ682・684・685 竪穴建物跡 ……72
第 16 図　ＲＡ683 竪穴建物跡 ……73
第 17・18 図　ＲＡ686 竪穴建物跡（1）・（2）……74・75
第 19 図　ＲＡ687 竪穴建物跡 ……76
第 20 図　ＲＡ688 竪穴建物跡 ……77
第 21 図　ＲＡ689・691 竪穴建物跡 ……78
第 22 図　ＲＡ690 竪穴建物跡 ……79
第 23 図　ＲＡ692・693 竪穴建物跡 ……80
第 24 図　ＲＡ694 竪穴建物跡 ……81
第 25 図　ＲＡ695 竪穴建物跡 ……82
第 26 図　ＲＡ696 竪穴建物跡 ……83
第 27 図　ＲＡ697・698 竪穴建物跡 ……84
第 28 図　ＲＡ699 竪穴建物跡 ……85
第 29 図　ＲＡ700 竪穴建物跡（Ⅰ期）……86
第 30 図　ＲＡ700 竪穴建物跡（Ⅱ期）……87
第 31 図　ＲＡ701 竪穴建物跡 ……88
第 32 図　ＲＢ142 掘立柱建物跡，ＲＤ2186～2189 土坑 ……89
第 33 図　ＲＤ2190～2197 土坑 ……90
第 34 図　ＲＤ2198～2204・2211 土坑 ……91
第 35 図　ＲＤ2205～2210・2212 土坑 ……92

第 36 図　R G616・618・619 溝跡 ……93
第 37 図　R G617 溝跡 ……94
第 38 図　R G620～622 溝跡 ……95
第 39 図　ピット土層断面 ……96
第 40 図　R A671～673 竪穴建物跡出土土器 ……99
第 41 図　R A674・679 竪穴建物跡出土遺物 ……100
第 42 図　R A675 竪穴建物跡出土遺物 ……101
第 43 図　R A676 竪穴建物跡出土土器 ……102
第 44 図　R A677 竪穴建物跡出土土器 ……103
第 45 図　R A678 竪穴建物跡出土土器 ……104
第 46 図　R A680～682 竪穴建物跡出土土器 ……105
第 47 図　R A683・685 竪穴建物跡出土土器 ……106
第 48 図　R A686 竪穴建物跡出土土器 ……107
第 49 図　R A687・688 竪穴建物跡出土遺物 ……108
第 50 図　R A690～694 竪穴建物跡出土遺物 ……109
第 51 図　R A695～698 竪穴建物跡出土土器 ……110
第 52 図　R A699・701 竪穴建物跡出土土器 ……111
第 53 図　R A700 竪穴建物跡出土遺物 ……112
第 54 図　R D2186・2187・2191・2212 土坑，R G621 溝跡，遺構外出土遺物 ……113

写　真　図　版

第 1 図版　盛南開発地区航空写真
第 2 図版　第 80 次調査区南全景，調査区北全景
第 3 図版　R A671～675・679 竪穴建物跡全景，R A674 竪穴建物跡貯蔵穴遺物出土状況，R A675 竪穴建物跡柱材検出状況
第 4 図版　R A676～678・680～683 竪穴建物跡全景，R A678 竪穴建物跡カマド全景
第 5 図版　R A684～691 竪穴建物跡全景
第 6 図版　R A692～698 竪穴建物跡全景，R A696 竪穴建物跡床下ピット遺物出土状況
第 7 図版　R A699～701 竪穴建物跡全景，R A700 竪穴建物跡Ⅱ期カマド全景，R B142 掘立柱建物跡全景，R D2186～2188 土坑全景
第 8 図版　R D2189～2196 土坑全景
第 9 図版　R D2197～2204 土坑全景
第 10 図版　R D2205～2212 土坑全景
第 11 図版　R G616～622 溝跡全景
第 12 図版　R A671～675・679 竪穴建物跡出土土器・土製品，R A675 竪穴建物跡出土土師器坏　墨書「木」，R A675 竪穴建物跡ピット２出土柱材

第 13 図版　ＲＡ676～678・680～683 竪穴建物跡出土土器，ＲＡ676 竪穴建物跡出土土師器坏　刻書「＋」
第 14 図版　ＲＡ686～688・690・692・694・695 竪穴建物跡出土土器，ＲＡ691 竪穴建物跡出土小刀
第 15 図版　ＲＡ673・696・697・699～701 竪穴建物跡出土土器，ＲＡ675・688・700 竪穴建物跡出土砥石，
　　ＲＤ2186・2191 土坑出土土器，ＲＧ621 溝跡出土土器
第 16 図版　ＲＤ2187 土坑出土土器，土製品，ＲＤ2212 土坑出土磁器染付「別當塚」，遺構外出土縄文土器，
　　調査風景，盛岡市立向中野小学校見学会

《遺物の表現について》

（1）　土器

ａ．出土土器の区分は，縄文土器・須恵器・あかやき土器・土師器・かわらけに大別した。

ｂ．縄文土器の拓本は 1/2 スケールとし，古代土器の実測図・拓本は 1/3 スケールとした。

ｃ．挿図の土器配列については，器種・器形・文様モチーフ及び施文技法でまとめた。

ｄ．土師器の黒色処理されたものは，網目（スクリーントーン）で表現した。

（2）　土製品・石製品・鉄製品・磁器

ａ．いずれも 1/2 スケールとし，場合によっては 1/3 スケールとしている。

ｂ．挿図の配列は出土した層位順とし，さらに器種ごとにまとめた。

（3）　挿図中の記号・番号は遺物の出土位置及び出土層位を表している。

（例）　ＲＡ871　Ｃ層　　→ＲＡ871 竪穴建物跡内埋土Ｃ層より出土

（例）　Ｈ２－Ｔ５　Ⅳ層
　　↓　↓　↓
　　※1　※2　※3

※1　調査座標原点ＲＸ±０　ＲＹ±０を起点として，Ｘ・Ｙ両軸を 50m 毎に区切る大グリッドを設定し，Ｘ軸線上を西から東へＡ・Ｂ・Ｃ…Ｗ・Ｘ・Ｙ（原点から東から西への場合は－Ａ・－Ｂ・－Ｃ…－Ｗ・－Ｘ・－Ｙ），Ｙ軸線上を北から南へ１・２・３…23・24・25（原点から南から北への場合は－１・－２・－３…－23・－24・－25）と付し，北西隅のこれらのアルファベットとアラビア数字の組合せを，大グリッドと呼称した（第３・４図）。

※2　大グリッドを２m 毎に細分割し，小グリッドを設定し大グリットの呼称を再び用いた。よって，大グリッド－小グリッドという組合せで，遺物の平面出土地点を２ｍごとに表示した。

※3　遺物の出土層位を表している。

《遺構の表現について》

遺構の挿図中，説明する当該遺構については，実線で表現した。なお説明遺構と切り合った遺構については一点鎖線で表現した。

Ⅰ　遺跡の環境

1　地理的環境

遺跡の位置　台太郎遺跡は，盛岡市街地より南西約２km の向中野地内に所在する（第１図）。かつては水田・畑・宅地などの農地が主体を占めていたが，近年は盛岡南新都市開発整備事業（以下，「盛南開発」という。）に係る土地区画整理事業のため，急速に宅地化が進められている。遺跡の範囲は東西約 800m，南北約 500m と推定され，標高は 119～123m である。現況は宅地，学校及び商業地である（第３図）。

地形・地質　盛岡市は東に北上山地，西に奥羽山脈を擁し，北西には岩手山（2,038m）を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は，構成する地質やその形成年代が異なるため，東西の地形の様相は大きく異なる。また，岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地形・地質に大きく影響を及ぼしている。

雫石川は奥羽山脈より東流し，その流れは鳥泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦（市内上太田）で急激に挟められ，その狭窄部を抜けて北上川と合流する。雫石川はこれまでに何度も流路を変えており，雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。台太郎遺跡はその沖積段丘上に立地している（第２図）。

この沖積段丘は，水成砂礫層を基底とし，その上層に水成シルト，さらに表土が覆っている。このシルト層は旧河道などの低地形ばかりでなく，微高地上にも堆積している。これは沖積段丘が，河道の定まらない雫石川の下刻が周辺山地からもたらす砂礫やシルトによって形成され，何度も堆積が繰り返されたことによるものである。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており，大きなものは４条，そのほかにも網目状に細かな旧河道が沖積段丘に広がっている。それらに画された微高地上に古代を中心とした遺跡が点在している。

第１図　台太郎遺跡位置図（1：100,000）

2　歴史的環境

周辺の遺跡　本遺跡の立地する沖積段丘上では，縄文時代～古墳時代にかけての遺構・遺物の発見は少なく，遺跡のほとんどは7世紀中葉以降の集落遺跡といえる。

縄文～弥生　縄文・弥生時代の遺構・遺物は，本宮熊堂A遺跡，台太郎遺跡及び細谷地遺跡で縄文時代晩期を中心とする竪穴建物跡や遺物包含層が検出されている。その他の各遺跡からは遺物が散見する程度であり，主体的なものではない。また，詳細な時期を特定する要素は乏しいが，飯岡才川遺跡など多くの遺跡で縄文時代の陥し穴が確認されている。

古　　代　古墳時代末，7世紀中葉の遺構・遺物は，数は多くはないが台太郎遺跡などで確認されている。これ以降集落が継続的に営まれる。奈良時代，8世紀中葉以降竪穴建物跡を主体とした集落跡が増加する。この時期の集落は，大型竪穴建物跡を中心としてその周囲に小～中型の竪穴建物跡が数棟ずつまとまりをもって分布する傾向がある。

9世紀，平安時代初頭の延暦22年(803)には，本遺跡の西方約1.2㎞に「志波城」(下太田方八丁他)が造営される。志波城は東北経営のために朝廷が造営した古代城柵であり，当時「蝦夷（エミシ）」と呼ばれていた人々の社会に大きな影響を与えたと考えられる。征夷大将軍であった坂上田村麻呂が朝廷の命を受け造営した志波城は，北側を流れる雫石川の度重なる洪水の被害を受け，およそ10年で文室綿麻呂の建議により徳丹城(矢巾町西徳田)に移転したことが記録に見られる。その後，徳丹城は9世紀中葉までにはその機能を停止し，本地域も含む北上盆地一帯は，鎮守府胆沢城(奥州市水沢区九蔵田)による一城統治の体制となる。以降，9 世紀中葉から本地域では竪穴建物跡を主体とした集落数が増加の一途をたどる。それにともない竪穴建物跡の規模の大小差は縮小するようになり，重複が著しく見られるようになる傾向がある。その中でも，向中野館遺跡の低湿地から古代の祭祀に関係すると考えられる遺物の出土や，飯岡沢田遺跡・飯岡才川遺跡の円形周溝墓群や火葬骨蔵器など，本地域内の集落機能の分化もみられる。また，9世紀後葉から10世紀中葉にかけては，地区の拠点的な集落も姿を現すようになる。細谷地遺跡では，微高地の南斜面に沿うように2×2間の総柱の掘立柱建物跡が東西に並立し，倉庫群が存在したと考えられる。また大宮北遺跡や，志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡で，規模の大きな官衙的な掘立柱建物を計画的に配置した集落も発見されており，在地有力者の拠点と考えられる。

中　　世　11～12世紀にかけての，様相ははっきりしないが，12世紀末～13世紀初頭頃のものと考えられるかわらけが，大宮遺跡の大溝跡から多量に出土している。13世紀後半には，台太郎遺跡で不整長方形の平面形となる居館が営まれ，地域を支配した豪族の存在が想定される。さらに同遺跡では，土坑墓群や宗教施設と考えられる遺構も検出されており，出土遺物から15世紀頃までの存続が考えられる。また向中野館遺跡や矢盛遺跡でも，堀跡が検出されており，出土遺物やその平面形から16世紀代を中心とする居館と考えられている。

近　　世　江戸時代には，雫石川は現在の流路となり，旧河道の東側には奥州道中（街道）や仙北組丁が開かれ，本地域は水田地帯に農家が点在する農村地帯となる。各遺跡からは曲屋などの掘立柱建物跡や土坑墓，南仙北遺跡では道路跡などの近世の遺構が発見されており，この姿は盛南開発が行われる直前の本地域の様子と大きく違いが無いものと考えられる。

第２図　地形分類と周辺の遺跡分布

Ⅱ　調査内容

1．これまでの調査

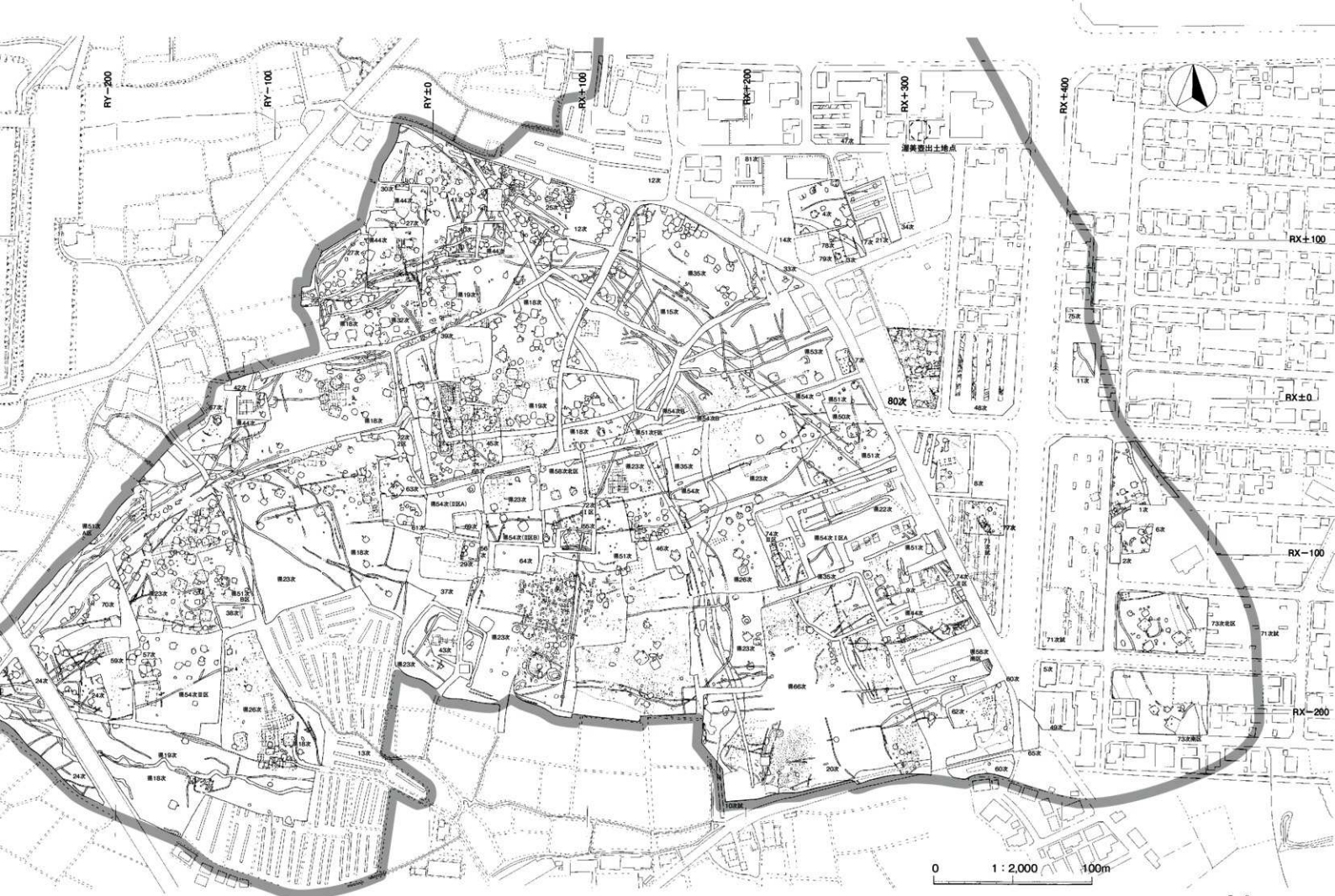
発見の経緯　台太郎遺跡は，昭和 60 年度の仙北西地区土地区画整理事業時の工事現場にて，平安時代の竪穴建物跡が発見され周知された遺跡である。平成５年度からは，盛南開発に伴う発掘調査が主体を占め，以後平成 26 年度末で 81 次にわたって調査されている。

これまでの県埋文センター・市教委の発掘調査により，７～10 世紀の古代集落，中世の居館を中心とした集落跡や墓域，近世の村落跡などが確認されている。

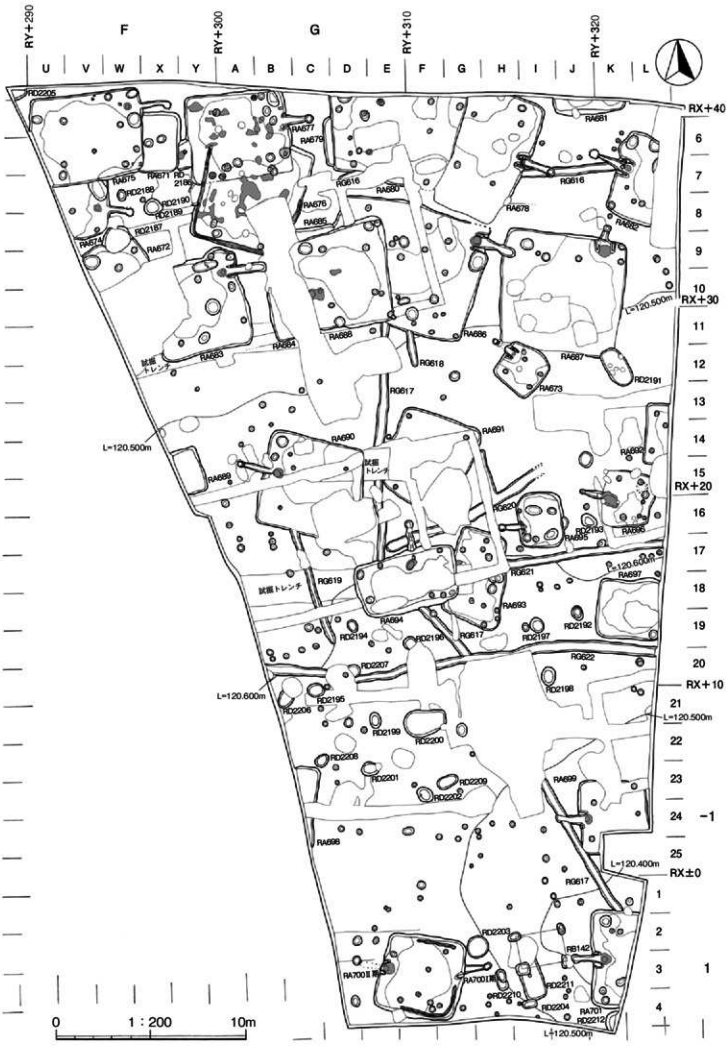
古　　代　古代（奈良・平安時代）の竪穴建物跡は平成 26 年度末で 700 棟以上を数え，そのほかに掘立柱建物跡（２×２間総柱）や大溝跡などが確認されており，当時の「志波（斯波）」地域最大の集落といえる。遺構の分布をみると，７世紀末～８世紀の竪穴建物跡は，いくつかの群をつくりながら南西部を除く遺跡全域に分布し，重複はみられない。それに対し，９～10 世紀の竪穴建物跡は，遺跡の西部と中央～北部の段丘縁辺部に分布が集中し，多くの重複がみられる。個別の竪穴建物跡の特徴をみると，７世紀末～８世紀は北西カマドが圧倒的で北東～南カマドもわずかにあるが，カマドの造り替えは少ない。９～10 世紀は北西～北カマド，南東カマドなどさまざまで，大型竪穴建物跡にカマドの造り替えが多い。

中　　世　中世（鎌倉～戦国時代）になると，12 世紀後半の渥美窯産の灰釉小型壺が遺跡北東より単独出土している。遺跡の立地状況と遺物の年代から推測すると，経筒外容器として経塚に納められていたものと考えられる。ほぼ同時期に，遺跡南東部では堀跡によって，方形に南北２つに区画して，その内側には掘立柱建物跡が並立する。堀跡からは奥州藤原氏と同時期の手捏ねのかわらけや渥美窯産の陶器が出土し，後述する居館に先行する施設と考えられる。13 世紀後半には，遺跡中央部に不整長方形プランの在地領主の居館が営まれ，周辺域にはこれに関連する区画溝や道路跡，掘立柱建物跡，竪穴跡等が分布している。また，遺跡南部には中世の土坑墓群，掘立柱建物跡，竪穴跡，さらに現在の「諏訪神社」の周囲を囲むような堀跡や，社殿または仏堂らしい掘立柱建物跡も確認されている。これらは出土した陶磁器の年代から 15 世紀頃まで存続したと考えられる。居館北東側には幅６m 内外で並行する道路側溝状の溝跡があり，この溝の東側には並行して区画整理工事前の道路も存在していた。この道は，遺跡北東部の段丘崖や居館の堀，周辺の区画溝とも並行しており，居館や周辺村落と並存していた道路跡と考えられる。また，本遺跡の南方には，向中野館遺跡（北館，南館）が存在しているが，館跡を構成する曲輪が方形を基調としたプランであることや，北館付近では堀や土橋，小さな曲輪などの複雑な配置であることから，およそ 16 世紀を中心とした年代が考えられる。

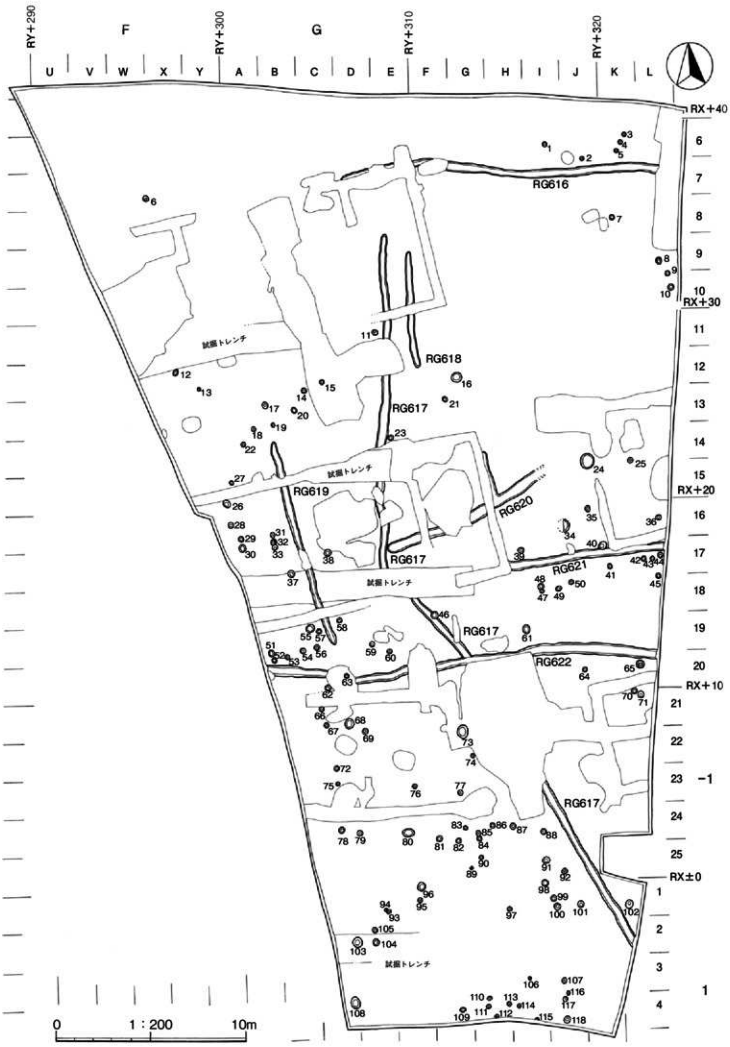
近　　世　近世（江戸時代）には雫石川は現在の流れとなり，旧河道の東側には奥州道中（街道）が通じ，城下の玄関口にあたる仙北組丁が開かれる。これにより向中野はこの町の郊外となった。この時代の遺構としては，掘立柱建物跡の曲屋跡や直屋跡などが遺跡内に点在するようになる。水田地帯の中に農家が点在する近世の「向中野村」の一部と考えられる。



第３図　台太郎遺跡全体図



第４図　台太郎遺跡第80次調査全体図



第５図　台太郎遺跡第80次調査全体図（溝跡,ピット）

次数	所在地	調査原因	面積(㎡)	期間	検出遺構・遺物	調査主体
1	向中野字台大郎7-1	土地区画整理	734	1985. 5. 24-6. 25	平安竪穴建物跡3, 土坑1, 溝跡1	市教委
2	向中野字台大郎7-1	土地区画整理	515	1985. 7. 1-7. 31	平安竪穴建物跡6, 竪穴跡1ほか	市教委
3	向中野字台大郎18-30	倉庫建設	125	1985. 11. 13-11. 30	奈良竪穴建物跡1, 平安溝1	市教委
4	向中野字台大郎18-3	共同住宅等	1, 130	1986. 6. 2-7. 29	竪穴建物跡(奈良7, 平安5)ほか	市教委
5	向中野字台大郎11-7, 71-7	個人住宅建築	59	1989. 5. 10-5. 11	平安竪穴建物跡1	市教委
6	向中野字台大郎7-1 外	個人住宅建築	302	1990. 5. 7-5. 26	平安竪穴建物跡7, 土坑12ほか	市教委
7	向中野字向中野36-3	個人住宅建築	138	1991. 4. 25-5. 8	奈良竪穴建物跡1, 溝2	市教委
8	向中野字台大郎12-2 外	事務所建設	830	1991. 6. 17-6. 27	竪穴建物跡(奈良5, 平安2, 古代3)ほか	市教委
9試掘	向中野字向中野40	小屋建築	50	1993. 5. 11	遺構・遺物なし	市教委
10試掘	向中野字向中野地内	盛南開発	1, 200	1995. 4. 4-4. 6	奈良竪穴建物跡6, 土坑7, 溝跡12ほか	市教委
11試掘	向中野字台大郎9-3 外	倉庫建設	320	1995. 6. 19-6. 27	**遺構・遺物なし**	市教委
12試掘	向中野字八日市場地内	盛南開発	5, 174	1995. 8. 4-11. 30	古代竪穴建物跡53, 土坑34, 溝跡58ほか	市教委
13試掘	向中野字八日市場1-45 外	盛南開発	4, 064	1996. 10. 14-10. 25	平安竪穴建物跡11, 土坑21, 溝跡38ほか	市教委
14	向中野字台大郎18-1	下水管埋設	25	1996. 11. 25-11. 29	平安竪穴建物跡1, 平安溝跡1	市教委
15	向中野字八日市場33-2 外	盛南開発	12, 906	1997. 4. 4-11. 26	竪穴建物跡(奈良10, 平安52), 土坑43ほか	県埋文
16	向中野字向中野36-1 外	盛南開発	790	1997. 8. 1-8. 29	奈良竪穴建物跡2, 溝跡2, 堀跡11ほか	県埋文
17試掘	向中野字向中野地内	下水管埋設	10	1997. 8. 23	**遺構・遺物なし**	市教委
18	向中野字向中野26-6 外	盛南開発	26, 404	1998. 4. 15-11. 20	竪穴建物跡(古墳～奈良4, 平安65)ほか	県埋文
19	向中野字向中野16-6 外	盛南開発	4, 755	1998. 7. 2-8. 31	奈良・平安竪穴建物跡20, 竪穴跡5ほか	県埋文
20	向中野字向中野地内	盛南開発	1, 400	1998. 9. 17-12. 21	古代掘立柱建物跡4, 柱列跡1, 土坑12ほか	市教委
21試掘	向中野字台大郎18-7	車庫建築	28	1998. 9. 25	**遺構・遺物なし**	市教委
22	向中野字八日市場39-1 外	警察宿舎建設	2, 500	1999. 9. 1-11. 2	縄文土坑1, 奈良竪穴建物跡1ほか	県埋文
23	向中野字向中野16-15	盛南開発	37, 800	1999. 4. 16-11. 15	竪穴建物跡(古墳～奈良35, 平安27)ほか	県埋文
24	向中野字向中野地内	盛南開発	3, 425	1999. 5. 6-7. 16	竪穴建物跡(奈良・平安20)ほか	市教委
25	向中野字八日市場地内	盛南開発	3, 674	1999. 7. 7-12. 15	竪穴建物跡(奈良・平安73)ほか	市教委
26	向中野字向中野16-15 外	盛南開発	13, 662	2000. 4. 19-10. 30	竪穴建物跡(古墳～奈良34, 平安34)ほか	県埋文
27	向中野字八日市場地内	盛南開発	2, 513	2000. 6. 12-11. 14	奈良・平安竪穴建物跡21, 土坑23ほか	市教委
28	向中野字八日市場地内	盛南開発	460	2000. 6. 29-9. 8	平安竪穴建物跡9, 掘立柱建物跡2ほか	市教委
29	向中野字向中野20-2	盛南開発	125	2000. 7. 19-8. 25	奈良竪穴建物跡1, 近世土坑3ほか	市教委
30	向中野字八日市場43-1	盛南開発	35	2000. 7. 25-7. 31	平安竪穴跡1, ピット	市教委
31	向中野字八日市場45-2	盛南開発	128	2000. 8. 1-8. 8	奈良・平安竪穴建物跡2, 溝跡2	市教委
32	向中野字八日市場42 外	盛南開発	1, 030	2000. 9. 18-10. 20	奈良・平安竪穴建物跡4, 土坑1ほか	市教委
33	向中野字八日市場50	盛南開発	695	2000. 9. 22-10. 13	古代竪穴建物跡3, 溝跡3	市教委
34試掘	向中野字2丁目4-1 外	共同住宅建設	156	2000. 11. 20-11. 22	古代竪穴建物跡3, 溝跡1	市教委
35	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	4, 394	2001. 4. 17-8. 2	竪穴建物跡(奈良5, 平安10), 土坑43ほか	県埋文
36	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	290	2001. 5. 22-6. 5	ピット4	県埋文
37	向中野字向中野20-1 外	盛南開発	872	2001. 5. 28-6. 22	奈良竪穴建物跡1, 土坑5, 溝跡2	市教委
38	向中野字向中野15-1, 3-4	盛南開発	309	2001. 6. 4-6. 15	**遺構・遺物なし**	市教委
39	向中野字向中野20-1 外	盛南開発	1, 302	2001. 8. 1-11. 2	奈良・平安竪穴建物跡12, 土坑10ほか	市教委
40	向中野字八日市場41-2	個人住宅建築	300	2001. 8. 1-9. 19	平安竪穴建物跡3, 土坑4, 竪穴跡1ほか	市教委
41	向中野字八日市場45-9	個人住宅建築	220	2001. 8. 2-9. 19	竪穴建物跡(奈良4, 平安2), 土坑3ほか	市教委
42	向中野字八日市場28-4	盛南開発	123	2001. 11. 26-12. 12	平安竪穴建物跡1, 土坑2, 溝跡3	市教委
43	向中野字向中野2-8	盛南開発	112	2001. 12. 10-12. 12	**遺構・遺物なし**	市教委
44	向中野字八日市場41-1	盛南開発	2, 907	2002. 4. 9-8. 5	竪穴建物跡(古墳～奈良11, 平安9)ほか	県埋文
43補	向中野字八日市場22 外	盛南開発	42	2002. 4. 22	**遺構・遺物なし**	市教委
45	向中野字八日市場30-2 外	盛南開発	1, 618	2002. 5. 7-8. 9	平安竪穴建物跡13, 竪穴跡4, 土坑36ほか	市教委
46	向中野字向中野35-2 外	盛南開発	334	2002. 10. 11-11. 12	奈良竪穴建物跡3	市教委
47試掘	向中野二丁目1-7	共同住宅建設	184	2003. 1. 11. 6	**遺構・遺物なし**	市教委
48試掘	向中野二丁目5-8・9	店舗建設	326	2002. 11. 21-11. 22	古代竪穴建物跡12, 土坑3, 溝跡6ほか	市教委
49試掘	向中野一丁目17-2の一部	共同住宅建設	48	2002. 12. 24-12. 25	**遺構・遺物なし**	市教委
50	向中野字向中野37-5 外	盛南開発	540	2003. 6. 2-11. 10	古代土坑2, 溝跡2, ピット	県埋文
51	向中野字八日市場8-4 外	盛南開発	6, 616	2003. 4. 11-11. 10	竪穴建物跡(縄文4, 奈良～平安22)ほか	県埋文
52	向中野字八日市場7-1 外	宿泊施設	595	2003. 8. 1-9. 3	平安竪穴跡1, 溝跡8	県埋文
53	向中野字向中野37-3 外	盛南開発	240	2004. 5. 6-6. 2	古代溝跡3, 土坑1	県埋文
54	向中野字向中野19 外	盛南開発	5, 052	2004. 4. 12-8. 6	竪穴建物跡(古墳～奈良8, 平安9)ほか	県埋文
55	向中野字向中野35-26	個人住宅建築	203	2004. 6. 7-7. 9	古墳～奈良竪穴建物跡1, 竪穴跡1ほか	市教委
56	向中野字向中野20-2 外	盛南開発	50	2005. 6. 20-6. 21	平安土坑1	市教委
57	向中野字向中野9 外	盛南開発	1, 047	2005. 6. 6-7. 5	平安竪穴建物跡6, 掘立柱建物跡2ほか	市教委
58	向中野字向中野40-16 外	盛南開発	3, 945	2006. 8. 7-11. 24	竪穴建物跡(奈良10, 平安1)ほか	県埋文
59	向中野字向中野9 外	盛南開発	1, 830	2007. 7. 5-9. 26	奈良竪穴建物跡3, 掘立柱建物跡2ほか	市教委
60	向中野字向中野40-8 外	盛南開発	791	2007. 8. 1-9. 6	土坑4, ピット	市教委
61	向中野字向中野17-4 外	盛南開発	610	2007. 10. 26-11. 16	奈良竪穴建物跡1, 土坑4, ピット	市教委
62	向中野字向中野40-7 外	盛南開発	862	2008. 6. 18-7. 9	土坑1, ピット	市教委
63	向中野字向中野17-1 外	盛南開発	1, 698	2008. 7. 3-10. 31	古代竪穴建物跡2, 竪穴跡1, 土坑4ほか	市教委
64	向中野字向中野21-2 外	盛南開発	621	2008. 11. 19-12. 12	土坑1	市教委
65	向中野字向中野40-16 外	盛南開発	330	2009. 4. 17	**遺構・遺物なし**	市教委
66	向中野字向中野42-25 外	盛南開発	11, 911	2009. 6. 1-11. 27	古代竪穴建物跡5, 掘立柱建物跡72ほか	県埋文
67	向中野字八日市場25-1 外	盛南開発	856	2009. 5. 7-7. 28	古代竪穴建物跡3, 溝跡2, 土坑3	市教委
68	向中野字八日市場30-1 外	盛南開発	1, 234	2009. 7. 1-11. 6	古代竪穴住居跡13, 竪穴跡3, 土坑10ほか	市教委
69	向中野字向中野18-4 外	盛南開発	76	2009. 10. 1	**遺構・遺物なし**	市教委
70	向中野字向中野13-1 外	盛南開発	1, 914	2009. 10. 21-12. 24	古代竪穴建物跡4, 竪穴跡4, 溝跡2	市教委
71試掘	向中野一丁目10・15 外	**店舗建設等**	**1, 341**	**2010. 8. 9-8. 12・18**	**古代竪穴建物跡32, 土坑7, 溝跡8ほか**	市教委
72	向中野字向中野35-34 外	盛南開発	**506**	**2010. 10. 21-12. 17**	**奈良竪穴建物跡1, 竪穴跡2, 土坑5ほか**	市教委
73試掘	**向中野一丁目15, 16-12 外**	**宅地造成**	**587**	**2011. 4. 4-4. 5**	**古代竪穴建物跡7, 溝跡2**	**市教委**
74	向中野字向中野38-1 外	盛南開発	**4, 360**	**2011. 5. 9-7. 21**	**平安竪穴建物跡8, 竪穴跡7, 土坑21ほか**	**市教委**
75試掘	**向中野一丁目9-19**	**共同住宅建設**	**1, 120**	**2011. 5. 30-7. 15, 9. 6-11. 11**	**竪穴建物跡(奈良7, 平安3), 土坑16ほか**	**市教委**
76試掘	**向中野二丁目6-2**	**宅地造成**	**21**	**2012. 11. 22**	**遺構・遺物なし**	**市教委**
77	**向中野二丁目7-2**	**宅地造成**	**177**	**2013. 3. 12-3. 13**	**古代竪穴建物跡10, 溝跡1**	**市教委**
78	**向中野二丁目7-2**	**店舗建設**	**516**	**2013. 5. 1-6. 4**	**平安竪穴建物跡2, 掘立柱建物跡1ほか**	**市教委**
78	**向中野二丁目3-11**	**個人住宅建築**	**55**	**2013. 6. 12-6. 21, 7. 4-7. 24**	**平安堀跡1, 古代土坑1, 溝跡1**	**市教委**
79	**向中野二丁目3-3**	**個人住宅建築**	**67**	**2013. 6. 12-6. 21, 7. 4-7. 24**	**奈良竪穴建物跡1, 土坑1ほか**	**市教委**
80	**向中野二丁目6-2**	**宅地造成**	**1, 155**	**2013. 7. 22-12. 2**	**竪穴建物跡(奈良4, 平安27), 土坑27ほか**	**市教委**
81試掘	**向中野二丁目3-8**	**賃貸住宅建築**	**63**	**2014. 10. 8**	**遺構・遺物なし**	**市教委**

第1表　台太郎遺跡調査成果

2．調査経過

試掘調査　平成24年11月，当市教育委員会において，当該地を含む向中野二丁目6番2（開発面積約1,628㎡）について土地所有者　佐藤重昭氏から宅地造成に関する事前協議が持たれた。この協議を受け，平成25年3月12・13日にかけて開発予定地内を試掘調査した結果（第76次調査），予定地内から古代の遺構・遺物が多数検出されたことから工事着手前の緊急発掘調査が必要とされた。

発掘調査　当該地については，戸建住宅用地の宅地造成として，平成25年6月19日付けで発掘届が提出され，平成25年7月16日，土地所有者　佐藤重昭氏と当市教育委員会教育長との間で「埋蔵文化財に関する協定書」が締結された。遺跡の学び館が本調査を実施し，調査期間は平成25年7月22日～12月2日，調査面積は1,155㎡である。

成果公開　土地所有者　佐藤氏の協力を得て，平成25年9月26日には報道機関に公開し，10月23日には盛岡市立向中野小学校3年生22名が総合学習の一環で見学に訪れた。

3．遺跡の基本層位と遺構検出状況

台太郎遺跡第80次調査区は，遺跡中央部から東に向かって緩やかに傾斜する遺跡東部に位置し，第8次調査区の北と第48次調査の西に隣接する。調査地は調査開始まで月極駐車場として使われ，盛土されている。調査区内は中央部がやや高く，北方向と南東方向に緩やかに傾斜する地形で，検出面の標高値は120.400～120.600m前後である。

基本層序　調査区内で確認された基本層序は以下のⅠ～Ⅳ層に大別される。Ⅰ層はa～d層に4細分され，Ⅰa～c層は砕石，礫及び土による盛土で，層厚は一定しないが約50～80㎝である。Ⅰd層は畑または水田の耕作土，Ⅱ層は古代遺物を微量に含む暗褐色土の漸移層である。Ⅰd層及びⅡ層は調査区内では部分的に確認された。Ⅲ層はやや粘性がある褐色～黄褐色シルト層（地山）で，その上面が遺構検出面である。これより下部は低位段丘を構成する砂礫層（Ⅳ層）となり，確認された遺構の底面等で確認している。Ⅳ層の下部は本調査で確認していないが，周辺の調査事例からシルト層と砂礫層の互層となることが確認されている。

検出状況　過去の農地開発時に削平されており，耕作土のⅠd層及びⅡ層を除去したⅢ層上面で検出作業が行われた。

検出遺構　検出された遺構は，奈良時代の竪穴建物跡4棟（ＲＡ671～673・679），土坑2基（ＲＤ2186・2187），平安時代の竪穴建物跡27棟（ＲＡ674～678・680～701），掘立柱建物跡1棟（ＲＢ142），土坑5基（ＲＤ2188～2192），古代以降の土坑20基（ＲＤ2193～2212），溝跡7条（ＲＧ616～622），ピット118口である（第4・5図）。

出土遺物の時代・時期は，平安時代（9世紀中葉～10世紀初頭）にかけての須恵器，土師器，あかやき土器が主体で，奈良時代（8世紀後葉）の土師器も出土している。その他，古代の土製品，石製品，鉄製品，近世～近代にかけての陶磁器も出土している。遺物総数は収納コンテナ（54cm×34cm×15cm）26箱分である。

4．検出された遺構と遺物

（1） 奈良時代の遺構・遺物

ＲＡ６７１竪穴建物跡（第６図）

位　置　調査区北西（Ｆ－１－Ｘ６区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　西－東 2.10m以上，南－北 3.20m　**重複関係**　ＲＡ675（新），ＲＤ2186（古）

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｄ層に大別され，Ｂ・Ｄ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む，黒色土と暗褐色土の混合土。粒状の焼土を少量含む。

Ｂ層－黒褐色土を主体とする層で，B_1層は粒状の黄褐色シルトを少量含み，B_2層は塊状の褐色シルトを多く含む。

Ｃ層－黒色土と黒褐色土の混合土で，粒状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。

Ｄ層－黄褐色シルトを主体とし，粒～塊状の暗褐色土を含む。D_3層は暗褐色土の割合が高い。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.36～0.38ｍで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，構築土（Ｌ層）はにぶい黄褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土を主体とし，塊状の黒褐色土を含む。層厚は 0.08～0.10ｍである。

カマド　不明（調査区外）

柱　穴　ピットを床面上に２口検出している。柱痕跡は確認されず，埋土はＥ層が暗褐色土に黄褐色シルトを含み，Ｆ層は暗褐色土を少量含むカーボン層である。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径 0.46～0.50ｍ，深さ 0.20ｍ，Ｐ２－径 0.40～0.42ｍ，深さ 0.18ｍである。

出土遺物（第 40 図 1～2）　１はロクロ未使用の小型の土師器坏で，内外黒色処理とヘラミガキが施され，平底風丸底である。２は土師器甕で，体部下半～底部にかけて欠損しており，頸部と体部の境に段が確認される。内面に輪積痕，外面に煤状炭化物が付着している。その他，土師器球胴甕の破片が出土している。

時　期　８世紀後葉

ＲＡ６７２竪穴建物跡（第６図）

位　置　調査区北西（Ｆ－１－Ｗ９区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　北西－南東 2.20ｍ以上，南西－北東 3.18ｍ以上（調査区外）

重複関係　ＲＤ2187（新）　**掘込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，少量のカーボン粒と粒状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。

Ｂ層－暗褐色土を主体とする層で，B_1層は小塊状の黄褐色シルトを多量含み，B_2層は粒～小塊状の明黄褐色シルトを少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.14～0.20mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，構築土（L層）はにぶい黄橙色シルトに粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。層厚は0.06～0.12mである。

カ マ ド　不明（調査区外）

貯 蔵 穴　埋土はC・D層に大別され，C層はさらに2層に細分される。C層は黒褐色土に塊状の黄褐色シルトを含み，下層ほどシルトの割合が多い。D層は暗褐色土を主体ににぶい黄褐色シルト小塊状を含む。平面形は不整な楕円形で，規模は径0.76～0.90m，床面からの深さ0.28mである。

柱　　穴　ピットを床面上に2口検出している。明確な主柱穴は不明であるが，柱痕跡はP2で確認された。柱痕跡埋土は黒色土主体に小塊状の暗褐色土を少量含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に黒褐色土粒を微量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.30～0.38m，深さ0.12m，P2－径0.28～0.30m，深さ0.16mである。

出土遺物（第40図3～4）　3・4は土師器甕である。3は頸部と体部の境にわずかに段が確認される。4は頸部と体部の境に段がなく，体部から口縁部に向かってやや外反する器形で，内外面に輪積痕がある。その他，土師器坏の破片が少量出土している。

時　　期　8世紀後葉

RA673竪穴建物跡（第7図）

位　　置　調査区中央北（G-1－H12区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　N50°W

規　　模　北西－南東2.40m，南西－北東2.44m　**重複関係**　RA687（新）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA～D層に大別され，C層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，少量のカーボン粒と粒状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。

B層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状の黄褐色シルトとカーボン塊を多く含む。

C層－黒褐色土を主体とする層で，C_1層は粒状の黄褐色シルトを含み，C_2層は塊状の黄褐色シルトを多量含む。

D層－黒色土を主体とし，粒状の暗褐色土，粒～小塊状のカーボン及び焼土粒を含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.21～0.24mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）はにぶい黄橙色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を含む。層厚は0.06～0.18mである。

カ マ ド　カマドは北西壁北寄りに位置し，煙道は刳り貫きのトンネル状で天井部が残存する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し，深くなっている。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ0.92m，幅0.22～0.24m，検出面からの深さ0.16～0.34mである。カマドはにぶい黄褐色シルトに粒状の黒褐色～暗褐色土と礫を含む混合土（$K_{1\cdot2}$層）で構築し，規模は南残存部が長さ0.32m，幅0.22m，高さ0.18m，北残存部が長さ0.52m，幅0.20m，高さ0.10mである。火床面（J_8層）は径0.26～0.30mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.08mである。カマド崩壊土（$J_{1\sim8}$層）は8層に細

分され，粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む暗褐色土である。$J_{4\cdot5}$層以外は焼土とカーボンを含み，とくに$J_{7\cdot8}$層は多量の焼土粒～塊とカーボン粒を含む。

柱　穴　床面上に主柱穴Ｐ１～４を検出している。柱痕跡はＰ３・４で確認され，柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に塊状の暗褐色土を多量含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に粒～小塊状の黒褐色土を少量含み，堅く締まっている。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.18m，深さ0.10m，Ｐ２－径0.18～0.22m，深さ0.12m，Ｐ３－径0.20～0.22m，深さ0.12m，Ｐ４－径0.20m，深さ0.10mである。

出土遺物（第40図5～8）　５は内面に黒色処理が施される土師器の坏で，体部下半に緩い段が確認され，丸底である。６は竪穴建物内の最終堆積層（Ａ層）から出土した手捏ねのかわらけで，周辺からの流入と考えられる。７は土師器小型甕で，口縁部と体部の境に段が確認される。体部の内外面に煤状の炭化物が付着する。８は土師器甕で，口縁部と体部の境に段が確認され，底面には木葉痕が残る。

時　期　８世紀中葉

ＲＡ６７９竪穴建物跡（第13図）

位　置　調査区北（G-１－Ｃ６区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　北－南2.57m，西－東0.48m以上　**重複関係**　ＲＡ680（新）

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－暗褐色土を主体とする層で，A_1層は粉～粒状の褐色シルトを含み，A_2層は粒～小塊状の黄褐色シルトを多量含む。

Ｂ層－暗褐色土粒を僅かに含む黒色土。

Ｃ層－黒褐色土を主体とする層で，粒～塊状の黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.13mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，構築土（Ｌ層）は黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色～黒褐色土を多く含む。層厚は0.06mである。

出土遺物（第41図1～5）　１～３は土師器の坏で，内面に黒色処理が施される。１は体部下半に段があり，底部は丸底で底面に「＋」と墨書される。２は体部下半に緩い稜を持つ丸底である。３は平底でヘラミガキが全面に施される。４・５は土師器甕で，口縁部と体部の境に段を持ち，体部内面に輪積痕が確認される。４は体部外面に炭化物が付着する。

時　期　８世紀中葉

ＲＤ２１８６土坑（第32図）

位　置　調査区北西（F-１－Ｙ６区）　**平面形**　不整円形か

規　模　長軸－上端1.50m，下端1.25m，残存部短軸－下端0.73m

重複関係　ＲＡ671・677（新）　**掘込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は粉～粒状のにぶい黄褐色シルトを微量含み，

A_2層は微量のカーボン粒・焼土塊，粒～小塊状の黄褐色シルトを多く含む。

B層－黄褐色シルトを主体とし，粒状の黒色土を含む。

C層－黒色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.17～0.22mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦であるが，中央に土師器甕を倒立の状態で埋設し，その南西には熱浸透層が確認される。掘方埋土（L層）は褐色～黄褐色シルトと暗褐色土の混合土である。甕内部の埋土（D層）は微量のにぶい黄褐色シルト粒を含む黒褐色土と暗褐色土の混合土で，土師器甕の体・底部破片を含む。熱浸透層は厚さ0.08mで，にぶい赤褐色を呈す。

出土遺物（第54図1）　1は土坑底面に倒立の状態で設置されていた土師器甕でほぼ完形である。頸部と体部の境に段を持ち，体部外面には煤状炭化物，内面には輪積痕が確認される。その他，土坑底面から内面に黒色処理を施す土師器坏の破片が出土している。

時　期　8世紀

ＲＤ２１８７土坑（第32図）

位　置　調査区北西（F－1－W8区）　**平面形**　不整楕円形

規　模　長軸－上端1.72m，下端1.32m，短軸－上端1.53m，下端1.25m

重複関係　ＲＡ672（古）　**掘込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｄ層に大別され，Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粉～粒状の黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を微量含む。

Ｂ層－暗褐色土を主体とする層で，B_1層は少量の礫と粉～塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含み，B_2層は小塊状の黄褐色シルトを含む。

Ｃ層－塊状の黒褐色土とカーボン・焼土粒を多く含む，にぶい黄褐色シルト。

Ｄ層－褐色シルトを主体とし，粒～塊状の暗褐色土とカーボン粒を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.10～0.27mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　中央がやや深くなる。

出土遺物（第54図2～4）　2・3は土師器甕である。2は口縁部～体部上半を欠損し，体部外面には煤状炭化物，内面は輪積痕が確認され，底面には木葉痕が残る。3は体部下半～底部を欠損し，頸部と体部の境に段を持つ。4は土製の紡錘車である。断面は台形で，中央部に穿孔が施される。その他，D層から内面黒色処理を施す土師器坏の破片が出土している。

時　期　8世紀

（２）　平安時代の遺構・遺物

ＲＡ６７４竪穴建物跡（第８図）

位　置　調査区北西（F－1－V7区）　**平面形**　方形か　**主軸方向**　E6°S

規　模　東－西2.60m以上（調査区外），北－南2.90m以上　**重複関係**　ＲＡ675（新）

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ層は３層，Ｃ層は２層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とする層で，$A_{1\cdot3}$層は粉～粒状の褐色シルトを微量，A_2層は塊状の黄褐色シルトを含む。$A_{1\cdot2}$層はカーボン粒を少量含む。

B層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを多量，粒状のカーボンと焼土を少量含む。

C層－黄褐色土を主体とする層で，C_1層は粒状の黒褐色土を含み，C_2層は小塊状の黒褐色土を多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.16～0.30mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）は明黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を少量含む。層厚は0.06～0.28mである。

カ マ ド　カマドは東壁南寄りに位置し，基底部は残存せず，火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって傾斜し深くなり，一部オーバーハングする。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.36m，幅0.26～0.38m，検出面からの深さ0.20～0.44mである。火床面（$J_{9\cdot10}$層）は径0.32～0.36mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.10mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて明赤褐色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim8}$層）は8層に細分され，粒～小塊状のカーボン及び焼土を多く混入し，粒～塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む黒褐色土である。

貯 蔵 穴　カマド北に構築される。埋土はD～G層に大別され，G層はさらに2層に細分される。D層は暗褐色土に塊状の黄褐色シルトを含む。E層は焼土を多量に含む暗赤褐色土で，ミニチュア土器が出土している。F層はカーボンを多量に含む，暗褐色土と明黄褐色シルトの混合土で土錘が出土している。G層は塊状の明黄褐色シルトを含む暗褐色土で，G_2層の方が明黄褐色シルトの割合が多い。平面形は不整な楕円形で，規模は径0.86～1.16m，床面からの深さ0.23mである。

柱　　穴　床面上に主柱穴P1・2を検出している。柱痕跡はP1で確認され，柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に塊状の暗褐色土を含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に小塊状の黒褐色土を少量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.22～0.24m，深さ0.18m，P2－径0.20m，深さ0.15mである。

出土遺物（第41図6～12）　6はあかやき土器の坏で，底部は回転糸切無調整である。7は内面に黒色処理が施される土師器坏で，底部は回転糸切無調整である。8は内外面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器高台付坏で，底面に菊花文が確認される。9はあかやき土器の小型甕である。底部は回転糸切無調整で，内外面の全体に煤状炭化物が付着している。10・11はミニチュアの土製品で，それぞれ甕型，舟型である。12は土錘で，形状は杏仁型で穿孔される。その他，土師器甕の破片，少量の須恵器坏・甕・壺の破片が出土している。

時　　期　9世紀後葉

ＲＡ６７５竪穴建物跡（第９図）

位　　置　調査区北西（F－1－V5区）　**平 面 形**　長方形　**主軸方向**　E5°N

規　　模　東－西6.00m，北－南4.62m　**重複関係**　RA671（古），RA674（古）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　土　A～E層に大別され，A・C・D層はさらに2層に細分される。A・B層は人為堆積，それ以外は自然堆積である。

A層－にぶい黄褐色シルト粒～塊状を含む，黒色土と黒褐色土の混合土。カーボン粒と焼土粒～塊状を多量に含む。A_2層の方がにぶい黄褐色シルトの割合が多い。

B層－暗褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒～塊，焼土粒を含む。

C層－暗褐色土とにぶい黄褐色シルトの混合土で，塊状の黄褐色シルトを含む。C_2層は黄褐色シルトの割合が多い。カーボン粒，焼土粒を少量含む。

D層－暗褐色土を主体とし，粒～塊状の黄褐色シルトを含む。下層は黄褐色シルトの割合が少なく，焼土を少量含む。

E層－黄褐色シルトを主体とし，塊状の黒褐色土を多く含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.38～0.40mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）は2層に細分される。L_1層は明黄褐色シルトを主体とし，粒～塊状の暗褐色土を含む。L_2層は黒褐色土と塊状の黄褐色シルトの混合土である。いずれもカーボン粒，焼土粒を含む。層厚は0.10～0.24mである。

カ マ ド　カマドは東壁北に位置し，基底部は残存せず，火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなる。煙出しはやや南に構築され，煙道と煙出しの南側はオーバーハングしている。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.50m，幅0.22～0.44m，検出面からの深さ0.34～0.40mである。火床面（$J_{8\sim9}$層）は径0.34～0.36mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.08mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim7}$層）は7層に細分され，粒～塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む暗褐色土である。$J_{1\cdot5}$層以外は焼土とカーボンを含み，とくに$J_{3\cdot7}$層は多量の焼土・カーボン粒を含む。

貯 蔵 穴　カマド北及び南に2基構築される。貯蔵穴1は東壁北隅にあり，埋土（F層）は焼土とカーボンを含む黒褐色土を主体とする。にぶい黄褐色シルトの含有率で3層に細分される。平面形は不整な楕円形で，規模は径0.46～0.56m，床面からの深さ0.20mである。貯蔵穴2は東壁中央やや北寄りにあり，埋土はG・H層に大別され，各層はさらに2層に細分される。G層は粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む黒褐色土で，G_1層の方が黄褐色シルトの含有率が高く，土師器破片を含む。H層は黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を含む。H_1層の方が暗褐色土の含有率が低く，カーボン粒を少量含む。平面形は不整な円形で，規模は径0.84m，床面からの深さ0.34mである。

柱　穴　床面上に9口検出し，主柱穴はP1～4である。P5は浅いが梁を支える支柱の可能性がある。柱痕跡はP1・2・4で確認され，P2は柱材が残存する(写真：第3・12図版)。柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に塊状の褐色シルトを微量含む。掘方埋土は褐色～黄褐色シルトを主体に小塊状の暗褐色土を少量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.28～0.32m，深さ0.20m，P2－径0.26～0.30m，深さ0.19m，P3－径0.28～0.30m，深さ0.16m，P4－径0.32～0.37m，深さ0.36m，P5－径0.20～0.24m，深さ0.14m，P6－径0.36～0.40m，深さ0.23m，P7－径0.40～0.54m，深さ0.20m，P8－径0.40～0.46

m，深さ 0.18m，Ｐ９－径 0.28～0.30m，深さ 0.57mである。

出土遺物（第 42 図 1～16）　1～7はあかやき土器の坏で，底部は回転糸切無調整である。8～12は土師器の坏で，内面は黒色処理が施される。8は底部を回転糸切後，ヘラケズリを施し，9～12 は回転糸切無調整である。10 は体部外面に墨書文字「木」が認められる。13・14は内面に黒色処理が施される土師器高台付坏である。13は底部～高台が残存し，リング状の高台部を底部に接着する。底面には菊花文の痕跡が認められる。14は高台を欠損し，内面の一部に剥離，底面に菊花文が確認される。15 は須恵器壺で，口縁部～頸部を欠損し，底部に高台が付く。16 は溶岩質安山岩製の砥石である。磨面が４面あり，短冊形である。図示してないが，Ｂ・Ｃ層から刀子の切先と刃部の小破片，Ｃ層からあかやき土器高台付坏の破片，L_3層から小塊状の鉄滓２点が出土している。須恵器坏の破片が若干出土する。

時　期　９世紀後葉

ＲＡ６７６竪穴建物跡（第 10 図）

位　置　調査区北（G-１－Ａ６区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　北西－南東 5.62m，北東－南西 6.16m　**重複関係**　ＲＡ677（古），ＲＤ2190（古）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面　**カ マ ド**　不明

埋　土　Ａ～Ｃ層に大別され，Ａ層はさらに３層に細分される。

Ａ層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で，にぶい黄褐色シルトを含む。A_1層は粉～粒状，A_2層は塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。カーボン粒・焼土粒を少量含む。

Ｂ層－炭化した建築部材（組材・壁板材）など，多量のカーボンを含む焼土層。焼失家屋の可能性がある。

Ｃ層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状の褐色シルトを含む。部分的に被熱を受け，明赤褐色を呈する。カーボン粒，焼土粒を少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.31～0.34mで，外傾して立ち上がる。壁際には幅 0.06～0.16m，深さ 0.10～0.19mの周溝がめぐる。埋土（Ｄ層）は黒褐色土を主体とし，小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。底面には小規模なピットが確認され，壁面部材の据え方の可能性がある。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。床構築土は確認されず，掘り込んだ地山褐色～黄褐色シルト層（Ⅲ層）を床面としている。また，焼失時の被熱を受けて，床面の一部が赤褐色～橙色を呈している（Ｌ層）。

柱　穴　床面上に５口検出し，主柱穴はＰ１～４である。柱痕跡はＰ２～４で確認される。柱痕跡埋土は黒褐色土を主体とし，粉～粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。掘方埋土は褐色～黄褐色シルトを主体に粒～小塊状の暗褐色土を含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径 0.38m，深さ 0.10m，Ｐ２－径 0.28～0.34m，深さ 0.38m，Ｐ３－径 0.40～0.47m，深さ 0.15m，Ｐ４－径 0.40～0.48m，深さ 0.13m，Ｐ５－径 0.28～0.45m，深さ 0.12mである。

出土遺物（第 43 図 1～8）　1・2はあかやき土器の坏である。2は底部回転糸切無調整で，外面にタール状の付着物が認められる。3～5は土師器坏で，いずれも内面が黒色処理される。

3・4は底部回転糸切後，底面にヘラナデが施される。4は底面に刻書「＋」が確認される。5は底面が回転ヘラケズリである。6は土師器甕の体部下半～底部を欠損している。7・8は須恵器長頭瓶で，体部下半～底部を欠損する。7は内外面に自然釉が確認され，8は内外面に煤状炭化物が付着する。図示していないが，床面近くのC層から須恵器坏・甕の破片が出土している。またC層から内面にタール状の付着物が観察されるあかやき土器坏の破片が出土し，2とともに灯明皿として使われた可能性がある。

時　期　9世紀後葉

ＲＡ６７７竪穴建物跡（第11図）

位　置　調査区北（F－1－V5区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　E4°N

規　模　東－西5.50m，北－南4.54m　**重複関係**　RA676（新），RD2190（古）

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　A～C層に大別され，A層は3層に，C層は2層に細分される。

A層－暗褐色土を主体とし，A_1層は粒状の黄褐色シルトを少量，A_2層は粒～塊状のにぶい黄橙色シルトを多量，A_3層は粒状の褐色シルトを微量含む。カーボン粒，焼土粒を少量含む。

B層－炭化した建築部材（組材・壁板材）など，多量のカーボンを含む焼土層。焼失家屋の可能性がある。

C層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。C_1層はにぶい黄褐色シルトの含有率が高い。少量のカーボン粒，微量の焼土粒を含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.25～0.31mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（M層）は2層に細分される。M_1層はにぶい黄褐色シルトを主体とし，粒状の暗褐色土を少量含む。M_2層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で，塊状の黄褐色シルトを多く含む。層厚は0.04～0.30mである。また，焼失時の被熱を受けて，床面の一部がにぶい赤褐色を呈している（L層）。

カマド　カマドは東壁やや北寄りに位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し，深くなっている。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.38m，幅0.28～0.42m，検出面からの深さ0.24～0.53mである。カマドは黄褐色シルトに小塊状の黒褐色～暗褐色土の混合土（$K_{1\sim3}$層）で構築し，規模は北残存部が長さ0.26m，幅0.23m，高さ0.19m，南残存部が長さ0.33m，幅0.26m，高さ0.22mである。火床面（$J_{13\cdot14}$層）は径0.37～0.41mの不整円形で，熱浸透層は厚さ0.05mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて明赤褐色～橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim12}$層）は12層に細分され，粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む黒褐色～暗褐色土である。J_3層はカマド天井部が崩壊した層で，藁材のようなスサが混入している。崩壊土は煙出しから煙道，さらに火床面と床面の一部の範囲を覆っている。

貯蔵穴　東壁際に2基構築される。貯蔵穴1は東壁北隅にあり，埋土はB・C層である。平面形は不整な楕円形で，規模は径0.53～0.86m，床面からの深さ0.27mである。貯蔵穴2は東壁中央やや南寄りにあり，埋土はC_2層，にぶい黄褐色シルトを含む黒褐色土のD層に

大別される。平面形は不整な円形で，底面に小ピット状の窪みがある。規模は径 0.54m，床面からの深さ0.25mである。

柱　穴　床面上に９口検出し，主柱穴はＰ１～４である。柱痕跡はＰ３・４で確認され，柱痕跡埋土は黒褐色土を主体に小塊状の褐色シルトを少量含む。掘方埋土はにぶい黄褐色シルトを主体に小塊状の暗褐色土を含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.38～0.53m，深さ0.20m，Ｐ２－径0.40～0.43m，深さ0.15m，Ｐ３－径0.42～0.47m，深さ0.37m，Ｐ４－径0.34～0.38m，深さ0.55m，Ｐ５－径0.32～0.35m，深さ0.16m，Ｐ６－径0.23～0.27m，深さ0.17m，Ｐ７－径0.30～0.32m，深さ0.20m，Ｐ８－径0.27～0.33m，深さ0.14m，Ｐ９－径0.23～0.38m，深さ0.14mである。

出土遺物（第44図1～9）　１～４は土師器の坏で，内面に黒色処理とヘラミガキが施される。１は胎土に雲母を含み，底面にヘラケズリが施される。２は底部回転糸切無調整，３は回転糸切後にヘラケズリを施し，胎土に少量の雲母を含む。４は底部回転糸切後，底面をヘラナデで平滑に整えている。５・６は土師器甕で，体部下半～底部が残存する。いずれも底面は砂底で，６は体部下半が膨らみ，底部が張り出す器形である。７・８は須恵器長頸瓶である。７は外面に自然釉，内外面に焼成時の弾けが認められる。８は口縁部を欠損し，外面に自然釉が付着する。９は須恵器小型壺で，体部下半～底部を欠損する。その他，図示していないが，あかやき土器坏の破片，僅かであるが須恵器坏の破片が出土している。

時　期　９世紀後葉

ＲＡ６７８竪穴建物跡（第12図）

位　置　調査区北（Ｇ-１－Ｈ６区）　**平面形**　長方形　**主軸方向**　Ｅ26°Ｓ

規　模　南東－北西4.00m以上，南西－北東6.78m　**重複関係**　ＲＡ680（新），ＲＧ616（新）

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒色土を主体とする層で，A_1層は暗褐色土粒を少量含み，A_2層は多量の暗褐色土粒～塊状を含む。

Ｂ層－黒褐色土を主体とし，にぶい黄褐色～褐色シルトを小塊状に含む。多量のカーボン粒～塊，少量の焼土粒を含む。

Ｃ層－粒～塊状の黒褐色～暗褐色土を多く含む，にぶい黄褐色シルト。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.18～0.20mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で中央～北に硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）は粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む，黒褐色土と暗褐色土の混合土である。層厚は0.13～0.20mである。

カマド　カマドは南東壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し，深くなっている。規模は南東壁から煙出しの先端までの長さ 1.60m，幅 0.30～0.48m，検出面からの深さ 0.18～0.28mである。カマドはにぶい黄褐色シルトに粒～小塊状の黒褐色土を含む混合土（$K_{1,2}$層）で構築し，構築材として礫と土師器甕を使用している。規模は北残存部が長さ0.68m，幅0.36m，高さ0.19m，南残存部が長さ0.55m，幅0.30m，高さ0.20mである。火床面（J_{11}層）は径0.16～0.30mの不整

楕円形で，熱浸透層は厚さ0.06mである。カマド支脚は火床面中央に円礫を据え，その北に土師器小型甕と甕底部を伏せて用いている。カマド崩壊土（$J_{1\sim10}$層）は10層に細分され，粒～塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む暗褐色土である。J_9層はカマド天井部が崩壊した層である。$J_{1\sim8}$層のいずれも焼土とカーボンを含み，とくに$J_{2\sim5}$層は土師器甕破片を含む。なお，この崩壊土は煙出しから煙道，さらに火床面と床面の一部の範囲を覆っている。

柱　穴　ピットを床面上に5口検出しており，主柱穴はＰ１～４である。柱痕跡はＰ４で確認され，柱痕跡埋土は黒色土を主体に粉～粒状の黄褐色シルトを少量含む。掘方埋土は黄褐色シルトを主体に塊状の黒褐色土を多く含み，堅く締まっている。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.26m，深さ0.17m，Ｐ２－径0.20～0.22m，深さ0.08m，Ｐ３－径0.31m，深さ0.10m，Ｐ４－径0.24m，深さ0.12m，Ｐ５－径0.35～0.45m，深さ0.19mである。

出土遺物（第45図1～5）　１は土師器小型甕，２は土師器甕の底部で，カマドの支脚に転用されたものである。ともに底面は砂底である。３～５は底部が張り出す土師器甕である。３は外面の体部上半に煤状炭化物が付着し，体部内面には輪積痕が認められ，底面は砂底である。４は内外面に炭化物が付着し，底面には木葉痕が残る。５はカマド基底部の構築材として転用され，底面は砂底である。図示してないが，内外黒色処理の土師器坏破片，あかやき土器坏・甕破片，僅かに須恵器坏，刀子刃部の破片が出土している。

時　期　９世紀後葉

ＲＡ６８０竪穴建物跡（第14図）

位　置　調査区北（G-１－Ｅ６区）　**平面形**　不整方形　**主軸方向**　－

規　模　北－南4.75m以上，東－西7.16m　**掘込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

重複関係　ＲＡ679・678（古），ＲＧ616（新）　**カマド**　不明

埋　土　Ａ～Ｄ層に大別され，Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒色土を主体とし，粒～小塊状の明黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。

Ｂ層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で，B_1層は粒状の褐色シルトを多量に含み，B_2層は塊状の黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。

Ｃ層－黒色土を主体とし，粒～塊状の褐色シルトを含む。

Ｄ層－塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む，暗褐色土。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.31～0.34mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）は黄褐色シルトを主体とし，塊状の黒色～黒褐色土を含む。層厚は0.11～0.13mである。床面の南西で，長軸0.35m，短軸0.28m，厚さ0.08mの不整な楕円形を呈する熱浸透層（Ｊ層）を確認した。中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて橙色を呈し，その直上から土師器坏や被熱した礫が出土している。

柱　穴　ピットを床面上に12口検出し，明確な主柱穴は不明である。柱痕跡はＰ５・11・12で確認される。Ｐ１の埋土（Ｅ層）から多量の焼土粒～小塊とともに被熱した獣骨の砕片が多量に出土している。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.70m（調査区外），深さ0.05m，Ｐ２－径0.34m，深さ0.18m，Ｐ３－径0.20m，深さ0.12m，Ｐ４－径0.18～0.20

m，深さ 0.09m，Ｐ５－径 0.31m，深さ 0.23m，Ｐ６－径 0.28～0.30m，深さ 0.10m，Ｐ７－径 0.26m，深さ 0.09m，Ｐ８－径 0.24m，深さ 0.10m，Ｐ９－径 0.30～0.36m，深さ 0.11m，Ｐ10－径 0.25～0.27m，深さ 0.13m，Ｐ11－径 0.32～0.37m，深さ 0.39m，Ｐ12－径 0.44～0.49m，深さ 0.44mである。

出土遺物（第 46 図 1～4）　1はあかやき土器坏で，底部は回転糸切無調整，外面に煤状炭化物が付着する。2は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で，底部は回転糸切後にヘラナデを施す。3は土師器甕で，体部半ばで最大径を持ち，底部が張り出す器形である。底面にはヘラケズリが施されるが，木葉痕の一部が残存する。4は須恵器大甕で体部～底部を欠損する。体部の内外面に平行タタキを施す。その他，あかやき土器甕の破片，須恵器坏・壺の各破片が少量出土している。

時　期　9世紀後葉

ＲＡ６８１竪穴建物跡（第 13 図）

位　置　調査区北東（G－1－J・K５区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　北－南 0.88m以上（調査区外），西－東 3.84m　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面　**カ マ ド**　不明

埋　土　Ａ～Ｅ層に大別され，Ｂ・Ｃ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－少量の暗褐色土粒を含む黒褐色土で，粒状のカーボン・焼土を少量含む。

Ｂ層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，小塊状の褐色シルトを多く含む。B_1層の方が褐色シルトの含有率が高い。

Ｃ層－暗褐色土を主体とする層で，C_1層は粒状の褐色シルトを多量に含み，C_2層は粉～粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。

Ｄ層－黒褐色土を主体とし，小塊状の暗褐色土を微量含む。焼土粒を少量含む。

Ｅ層－にぶい黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.40～0.47mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）は粒～小塊状の黒褐色土を僅かに含む，褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は 0.07～0.10mである。

出土遺物（第 46 図 5・6）　5・6は土師器坏で内面に黒色処理とヘラミガキが施される。5は底部を欠損し，6は底部回転糸切後にヘラケズリを施す。その他，土師器甕の破片，少量の須恵器坏・甕，あかやき土器坏の小破片が出土している。

時　期　9世紀中葉～後葉

ＲＡ６８２竪穴建物跡（第 15 図）

位　置　調査区北東（G－1－K・L６区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　W24°N

規　模　北西－北東 2.26m以上，南西－北東 4.62m　**重複関係**　ＲＧ616（新）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ｂ・Ｃ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－粉～粒状のにぶい黄褐色シルトを僅かに含む，黒色土と黒褐色土の混合土。カー

ボン粒を微量含む。

B層－黒褐色土を主体とし，粒状の暗褐色土を含む。カーボン・焼土を少量含む。B_1層の方が暗褐色土の含有率が高い。

C層－暗褐色土を主体とする層で，C_1層は塊状のにぶい黄褐色シルトを多量に含み，C_2層は黄褐色シルト粒を少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.16～0.22mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦であるが，北に向かって緩やかに傾斜する。東に硬化面が広がる。構築土（L層）は黄褐色シルトを主体とし，粒～塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.05mである。

カ マ ド　カマドは北西壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって細くなり，緩やかに傾斜し深くなる。煙道の一部と煙出しはオーバーハングしている。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ 1.68m，幅 0.14～0.40m，検出面からの深さ0.17～0.45mである。カマドは褐色シルトと黒褐色土の混合土（K層）で構築し，構築材として礫とあかやき土器甕の破片を使用している。規模は南残存部が長さ0.78m，幅0.35m，高さ0.04～0.11m，北残存部が長さ0.90m，幅0.44m，高さ0.10～0.14mである。火床面（J_{10}層）は径0.50～0.58mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.08mである。カマド支脚は火床面西にあかやき土器甕を伏せて用いている。カマド崩壊土（$J_{1\sim9}$層）は9層に細分され，カーボンと焼土を含む暗褐色土である。J_2層はカマド天井部が崩壊した層で，粒～塊状の白色粘土を多量に含む。煙出し内のJ層には礫が多数含まれる。

貯 蔵 穴　北隅に構築される。埋土はD・E層に大別され，E層はさらに2層に細分される。D層は塊状の暗褐色土を多く含む褐色シルトである。多量のカーボン粒～塊を含む。E層は小塊状の黄褐色シルトを含む暗褐色土で，E_2層の方が黄褐色シルトの割合が多い。平面形は不整な楕円形で，規模は径0.51～0.68m，床面からの深さ0.18mである。

柱　　穴　ピットを床面上に6口検出しており，主柱穴はP1である。柱痕跡は確認できない。埋土はF・G層に大別される。F層は黒褐色土を主体に小塊状の暗褐色土を含む。G層は暗褐色土を主体ににぶい黄褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.26～0.29m，深さ0.14m，P2－径0.34～0.37m，深さ0.33m，P3－径0.20～0.22m，深さ0.12m，P4－径0.18m，深さ0.10m，P5－径0.22～0.82m以上，深さ0.08m，P6－径0.48～0.63m，深さ0.08mである。

出土遺物（第46図7～14）　7～10は須恵器坏で，7・9・10は底部回転糸切無調整である。11は土師器坏で，口縁部と内面にヘラミガキが施され，内面は黒色処理である。底部は回転糸切無調整である。12・13はあかやき土器甕である。12は体部下半～底部を欠損し，カマドの支脚として転用されたものである。口縁部の内面に炭化物が付着する。13は口縁部～体部上半が残存し，カマド基底部の構築材として使用されている。14は土師器甕で，口縁部～体部上半が残存するが，全体的に摩滅している。図示していないが，あかやき土器坏，須恵器大甕・壺の破片も出土している。

時　　期　9世紀中葉

ＲＡ６８３竪穴建物跡（第16図）

位　　置　調査区北西（Ｆ－１－Ｙ10区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　Ｅ７°Ｎ

規　　模　北東－南西4.88m，北西－南東4.95m　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｅ層に大別され，Ａ・Ｂ・Ｄ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－暗褐色土を主体とする層で，A_1層は粉～粒状の褐色シルトと粉状の灰白色火山灰を少量含み，A_2層は粒～小塊状の黄褐色シルトと微量の灰白色火山灰を含む。

Ｂ層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，カーボン・焼土粒を少量含む。B_1層は粒状のにぶい黄褐色シルトを少量に含み，B_2層は粒～塊状の黄褐色シルトを多量含む。

Ｃ層－暗褐色土を主体とし，塊状の黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒を多量含む。

Ｄ層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の黄褐色シルトを含む。少量のカーボン粒～小塊，微量の焼土粒を含む。D_1層の方が黄褐色シルトの含有率が高い。

Ｅ層－暗褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒，焼土粒～塊を多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.29～0.34mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，中央に硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）は塊状の暗褐色土を多量に含む，黄褐色シルトと灰黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.18～0.24mである。

カ マ ド　カマドは東壁北に位置する。煙道平面形は溝状で，火床面から煙道に向かって一旦高くなり，煙道から煙出しに向かって傾斜し深くなる。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ1.70m，幅0.37～0.50m，検出面からの深さ0.20～0.40mである。カマドは小塊状の暗褐色土を少量含む，にぶい褐色シルトと黄褐色シルトの混合土（Ｋ層）で構築し，北残存部では構築材として礫を使用している。規模は北残存部が長さ0.42m，幅0.17m，高さ0.10～0.17m，南残存部が長さ0.52m，幅0.22m，高さ0.08～0.13mである。火床面（$J_{13\cdot14}$層）は径0.42～0.52mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.09mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて明赤褐色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim12}$層）は12層に細分され，暗褐色土を主体とし，黒褐色土，褐色シルト及び焼土が混合する。J_1層はカマド天井部が崩壊した層で，小塊状の白色～黄褐色粘土を多量に含む。$J_{3\cdot4\cdot7\sim12}$層はカーボン粒を多く含む。

貯 蔵 穴　カマドの北側の北東隅に構築される。埋土（Ｆ層）は塊状の黒褐色土を多く含むにぶい黄褐色シルトである。小量のカーボン粒，焼土小塊を含む。平面形は不整な楕円形で，規模は径0.31～0.44m，床面からの深さ0.18mである。

柱　　穴　ピットを床面上に８口検出しており，主柱穴はＰ１～３である。柱痕跡は確認できない。埋土はＧ・Ｈ層に大別される。Ｇ層は黒褐色土を主体に小塊状の褐色シルトを僅かに含む。Ｈ層は暗褐色土を主体ににぶい褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.29～0.43m，深さ0.10m，Ｐ２－径0.27m，深さ0.20m，Ｐ３－径0.24～0.28m，深さ0.08m，Ｐ４－径0.52～1.34m，深さ0.22m，Ｐ５－径0.27～0.30m，深さ0.11m，Ｐ６－径0.35m，深さ0.12m，Ｐ７－径0.75～0.78m，深さ0.16m，Ｐ８－径0.47～0.63m，深さ0.15mである。

出土遺物（第 47 図 1～9）　1・2はあかやき土器の坏である。底部は回転糸切無調整で，2は口縁部に歪みが生じている。3はあかやき土器高台付坏である。4～7は土師器坏である。4～6は内面が黒色処理され，内面全体にヘラミガキを施す。4は外面に墨書痕が認められ，底部回転糸切無調整である。5は底面にヘラケズリを施し，外面に煤状炭化物が付着する。6は底部回転糸切後，ヘラケズリによる再調整が認められる。7は内外の器面に黒色処理とヘラミガキが施される。8は底面に木葉痕が残る土師器甕で，頸部の短長化が認められ，口縁部が緩く外反する。9は須恵器壺である。図示していないが，B層からミニチュア土器の小破片，D_3層から椀型滓が出土している。

時　　期　9世紀後葉

ＲＡ６８４竪穴建物跡（第 15 図）

位　　置　調査区中央北（G－1－B10・11区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　　模　北西－南東3.00m以上，南西－北東0.52m以上　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA～C層に大別され，A・B層はさらに2層に細分される。

A層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で，A_1層は粒状の黄褐色シルトと粉状の灰白色火山灰を微量含み，A_2層は粒～小塊状の黄褐色シルトと小量の灰白色火山灰を含む。

B層－暗褐色土を主体とする層で，B_1層は小塊状の褐色シルトを多量含み，B_2層は粒状の褐色～黄褐色シルトを含む。

C層－黒色土を主体とする層で，小塊状の黄褐色～明黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.37mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，構築土（L層）はにぶい黄褐色～黄褐色シルトを主体とし，粒～塊状の黒褐色土を多く含む。層厚は0.10mである。

出土遺物　図示していないが，あかやき土器坏・甕，土師器坏・甕の破片が出土している。

時　　期　9世紀後葉

ＲＡ６８５竪穴建物跡（第 15 図）

位　　置　調査区中央北（G－1－C8区）　**平 面 形**　方形か　**主軸方向**　－

規　　模　北西－南東0.63m以上，南西－北東2.00m以上　**重複関係**　ＲＡ686・688（新）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA～D層に大別され，A層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は粉～粒状の褐色シルトを微量含み，A_2層は粒～小塊状の黄褐色シルトを少量含む。

B層－小塊状のにぶい黄褐色シルトを多量に含む，暗褐色土と黒褐色土の混合土。焼土粒を少量含む。

C層－黒褐色土を主体とし，小塊状の暗褐色土を多量含む。カーボン粒を多く含む。

D層－暗褐色土主体に多量の褐色～にぶい黄褐色シルトを粒～塊状に含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.21mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，構築土（L層）はにぶい黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.15～0.24mである。

出土遺物（第47図10）　10はあかやき土器の小型甕である。体部下半～底部が残存し，底部は回転糸切無調整である。その他，土師器甕の破片が少量出土している。

時　期　9世紀

ＲＡ６８６竪穴建物跡（第17・18図）

位　置　調査区中央北（G－1－F９区）　**平面形**　長方形　**主軸方向**　E22°S

規　模　南東－北西8.32m，南西－北東6.46m　**掘込面**　削平

検出面　Ⅲ層上面　**重複関係**　ＲＡ685（古），ＲＡ687・688（新），ＲＧ618（新）

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は粉～粒状のにぶい黄褐色シルトと焼土粒を微量含み，A_2層は粒～小塊状の黄褐色シルトを多量含む。

Ｂ層－粒状の明黄褐色シルトを含む，暗褐色土と黒褐色土の混合土。カーボン粒，焼土粒を少量含む。

Ｃ層－褐色シルトを主体とし，粒～塊状の黒褐色土を多く含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.16～0.20mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦であるが，南に緩やかに傾斜する。中央とカマド付近に硬化面が広がる。構築土（L層）は塊状の黄褐色シルトと黒褐色土の混合土である。層厚は0.06～0.12mである。

カマド　カマドは北東隅の東壁に位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなる。規模は北西壁から煙出しの先端までの長さ1.20m，幅0.30～0.48m，検出面からの深さ0.16～0.26mである。カマドは褐色シルトに粒～小塊状の暗褐色土と礫の混合土（$K_{1\cdot2}$層）で構築している。規模は北残存部が長さ0.69m，幅0.21m，高さ0.10m，南残存部が長さ0.80m，幅0.41m，高さ0.06～0.10mである。火床面（$J_{10\cdot11}$層）は径0.55mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.14mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて明赤褐色～橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim9}$層）は９層に細分され，黒褐色～暗褐色土を主体とし，褐色～黄褐色シルト及び焼土が混合する。J_1層はカマド天井部が崩壊した層で，粒～小塊状の白色粘土を多量に含む。$J_{6\cdot9}$層はカーボン粒～小塊を多く含む。

貯蔵穴　カマド南に隣接して構築される。埋土はＤ・Ｅ層に大別される。Ｄ層は粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む黒褐色土である。少量のカーボン・焼土粒を含む。Ｅ層は小塊状の褐色シルトを多く含む暗褐色土である。平面形は不整な楕円形で，規模は径0.86～1.06m，床面からの深さ0.15mである。

柱　穴　ピットを床面上に20口検出しており，主柱穴はＰ１～４である。柱痕跡はＰ２・４・12で確認され，柱痕跡埋土（Ｆ層）は黒褐色土を主体に粉～粒状の褐色シルトを少量含む。掘方埋土（Ｇ層）は黄褐色シルトを主体に塊状の暗褐色～黒褐色土を多く含み，堅く締まっている。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.14～0.18m，深さ0.06m以上，Ｐ２－径0.46m，深さ0.35m，Ｐ３－径0.28～0.30m，深さ0.38m，Ｐ４－径0.14m，深さ

0.26m，P５－径0.14～0.18m，深さ0.13m，P６－径0.22～0.26m，深さ0.10m，P７－径0.28～0.32m，深さ0.32m，P８－径0.20～0.22m，深さ0.29m，P９－径0.28～0.30m，深さ0.28m，P10－径0.19m，深さ0.12m，P11－径0.28～0.70m，深さ0.15m，P12－径0.20～0.22m，深さ0.68m，P13－径0.64～0.70m，深さ0.20m，P14－径0.18～0.23m，深さ0.12m，P15－径0.22～0.26m，深さ0.17m，P16－径0.24～0.26m，深さ0.24m，P17－径0.20m，深さ0.14m，P18－径0.23～0.26m，深さ0.12m，P19－径0.23～0.28m，深さ0.19m，P20－径0.26～0.30m，深さ0.09mである。

出土遺物（第48図1～7）　１～４は須恵器坏である。１～３の底部切り離しは回転糸切無調整，４は回転糸切後にヘラナデによる再調整を施す。１・３は重ね焼きの痕跡が観察される。５・６は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で，底部は回転糸切無調整である。５は底面に刻書「＋」が観察される。７は土師器甕で，焼成前に粘土を貼り付けて補修した痕跡が体部内面に確認される。その他，あかやき土器坏・甕，砂底の土師器甕，少量であるが須恵器大甕・壺，刀子の破片が出土している。

時　期　９世紀後葉

ＲＡ６８７竪穴建物跡（第19図）

位　置　調査区北東（G－１－１・J10区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　N11°E

規　模　北東－南西6.08m，北西－南東6.58m　**掘込面**　削平

検出面　Ⅲ層上面　**重複関係**　ＲＡ673・686（古），ＲＤ2191（新）

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は微量の褐色シルト粉～粒状と焼土粒を少量含み，A_2層は粒～小塊状の褐色～黄褐色シルトを多量含む。

Ｂ層－黒色土を主体とし，粒～塊状の暗褐色土を含む。

Ｃ層－粒～小塊状の黒褐色土を多く含む，にぶい黄褐色シルト。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.10～0.11mで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦であるが，南東に緩やかに傾斜する。中央から北東に硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）は小塊状の黒褐色土を多く含む，褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.10～0.17mである。

カマド　北壁の北東隅に位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙道に向かって傾斜し，煙出しでは更に深くなる。規模は北壁から煙出しの先端までの長さ0.84m，幅0.28～0.34m，検出面からの深さ0.12～0.25mである。カマドは褐色シルト，粒～小塊状の黒褐色土及び塊状の灰白色～灰黄色粘土の混合土（K_1層）で構築する。カマド西残存部は礫を構築材として使用し，掘方埋土（K_2層）はにぶい黄褐色シルトに少量の黒褐色土を含む。規模は西残存部が長さ0.68m，幅0.30m，高さ0.04～0.07m，東残存部が長さ0.59m，幅0.25m，高さ0.05～0.09mである。火床面（J_8層）は径0.60～0.62mの不整円形で，熱浸透層は厚さ0.08mである。カマド崩壊土（$J_{1\sim7}$層）は７層に細分され，粒～塊状の褐色～黄褐色シルトと焼土粒を含む暗褐色土である。J_6層はカマド天井部が崩壊した層で，粒～小塊状の白色粘土を含む。$J_{2\cdot7}$層はカーボン粒，J_5層は礫を含む。

貯 蔵 穴　北西隅近くに構築される。埋土はD・E層に大別され，E層は2層に細分される。D層は黒褐色土と褐色土の混合土で，粒状のにぶい黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を少量含む。E層は暗褐色土を主体とする層で，E_1層は多量の明黄褐色シルト塊とカーボン，焼土粒を微量含み，E_2層は粒状の褐色シルトを少量含む。平面形は不整な円形で，規模は径0.54～0.60m，床面からの深さ0.20mである。

柱　　穴　ピットを床面上に7口検出しており，主柱穴はP1～4である。柱痕跡はP3で確認され，柱痕跡埋土（G層）は黒褐色土を主体に粒状の暗褐色土を微量含む。掘方埋土（H層）はにぶい黄褐色シルトを主体に小塊状の暗褐色土を含み，堅く締まっている。各ピットの規模・深さは，P1－径0.22～0.24m，深さ0.12m，P2－径0.24～0.28m，深さ0.11m，P3－径0.24～0.30m，深さ0.22m，P4－径0.23m，深さ0.12m，P5－径0.40～0.42m，深さ0.24m，P6－径0.32～0.38m，深さ0.11m，P7－径0.28～0.31m，深さ0.10mである。

出土遺物（第49図1～8）　1は須恵器坏である。重ね焼き痕が観察され，底部の切り離しは回転糸切無調整である。2～5はあかやき土器坏で，底部回転糸切無調整である。3は内面に煤状炭化物が認められる。6はあかやき土器小型甕，7はあかやき土器甕である。いずれも口縁部～体部上半のみ残存する。8は土師器甕で，体部下半～底部を欠損する。図示していないが，内面黒色処理の土師器坏，須恵器大甕・壺の破片が出土している。

時　　期　9世紀後葉

ＲＡ６８８竪穴建物跡（第20図）

位　　置　調査区中央北（G-1－D9・10区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　　模　南西－北東4.92m，南東－北西5.38m　**掘 込 面**　削平

検 出 面　Ⅲ層上面　**重複関係**　ＲＡ685・686（古），ＲＧ617（新）

埋　　土　自然堆積でA～E層に大別され，A・B・D層はさらに2層に細分される。各層は灰白色火山灰を微～少量含み，なかでもA_2層は含有率が高い。

A層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。A_1層の方がにぶい黄褐色シルトの含有率が高い。

B層－黒褐色土を主体とする層で，B_1層は多量のにぶい黄褐色シルト粒～塊と焼土・カーボン粒を少量含み，B_2層は粒状の褐色シルトと焼土粒を微量含む。

C層－小塊状の褐色～黄褐色シルトを多量含む，暗褐色土と黒褐色土の混合土。焼土粒を微量含む。

D層－暗褐色土を主体とする層で，D_1層はにぶい黄褐色シルト粒～小塊と少量のカーボン粒を含み，D_2層は粉～粒状の黄褐色シルトと焼土粒を多く含む。

E層－暗褐色土を主体とし，粒状の灰黄褐色シルトを多く含む。焼土粒を多量に含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.28～0.30mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で中央に硬化面が広がる。構築土（L層）は小塊状の黒褐色土を多く含む，褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.05～0.09mである。

カ マ ド　カマドは不明であるが，床面の西中央で確認した熱受透層はカマド火床面の可能性があ

る。熱浸透層（$J_{1\cdot2}$層）は残存部長軸0.70m以上，短軸0.62mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.11mである。部分的に強い被熱を受けて橙色を呈し，堅く焼き締まっている。

柱　穴　ピットを床面上に9口検出しており，主柱穴はＰ１～４である。Ｐ５・６は東壁の両隅にあり，支柱の可能性がある。柱痕跡はＰ３・６で確認され，柱痕跡埋土（Ｆ層）は黒褐色土を主体に粒状の暗褐色土を微量含む。掘方埋土（Ｇ層）はにぶい黄褐色シルトを主体に粒～塊状の褐色シルトを含み，堅く締まっている。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.25～0.28m，深さ0.14m，Ｐ２－径0.35m，深さ0.19m，Ｐ３－径0.33m，深さ0.24m，Ｐ４－径0.30～0.34m，深さ0.20m，Ｐ５－径0.24～0.32m，深さ0.39m，Ｐ６－径0.32～0.34m，深さ0.20m，Ｐ７－径0.48～0.57m，深さ0.23m，Ｐ８－径0.44～0.55m，深さ0.14m，Ｐ９－径0.66～0.68m，深さ0.19mである。その他，床面の中央で，長軸0.62m，短軸0.22mの不整な楕円形を呈する熱浸透層（Ｊ′層）を検出した。熱浸透層の厚さは0.06mである。

出土遺物（第49図9～12）　9・10は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器の坏である。9は底部を回転糸切後にヘラナデによる再調整を施す。内面に煤状炭化物の付着が観察される。11は土師器高台付坏で，内面に黒色処理とヘラミガキが施され，リング状の高台部を底部に接着する。底面には菊花文の痕跡が認められる。12は砂質凝灰岩製の砥石である。磨面は2面で，切創も観察される。その他，あかやき土器坏・高台付坏・甕，内外面黒色処理の土師器坏，土師器甕，須恵器大甕の破片が出土している。

時　期　9世紀後葉～10世紀初頭

ＲＡ６８９竪穴建物跡（第21図）

位　置　調査区東（Ｆ－１－Ｘ14区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　南西－北西1.26m以上（調査区外），南東－北西2.44m　**重複関係**　なし

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面　**カマド**　不明

埋　土　Ａ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに2層に細分される。

Ａ層－黒色土を主体とする層で，A_1層は塊状の黄褐色シルトを多量に含み，A_2層は粒～小塊状の褐色シルトと焼土粒を少量含む。

Ｂ層－にぶい黄褐色～黄褐色シルトを主体とし，小塊状の黒褐色土を微量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.23～0.27mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で，構築土（Ｌ層）は小塊状の黒色土を少量含む，褐色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.10～0.13mである。

出土遺物　図示していないが，あかやき土器坏，土師器坏・甕，須恵器大甕の破片が出土している。

時　期　9世紀

ＲＡ６９０竪穴建物跡（第22図）

位　置　調査区中央（Ｇ－１－Ｂ・Ｃ15区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　W16°N

規　模　北西－南東5.35m，南西－北東5.10m　**重複関係**　ＲＧ619（新）

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でA～C層に大別され，A層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は粒～小塊状の暗褐色土を含み，A_2層は多量のにぶい黄褐色シルト粒，カーボン小塊と焼土粒を少量含む。

B層－小塊状の黄褐色シルトを少量含む，暗褐色土と黒褐色土との混合土。

C層－褐色シルトを主体とし，粒～塊状の暗褐色土を多量，粒状のカーボンと焼土を少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.13～0.17mで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で中央から北に硬化面が広がる。構築土（L層）はにぶい黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。層厚は0.04～0.07mである。

カ マ ド　カマドは西壁中央に位置し，基底部は残存せず，火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し，煙出しでは深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.56m，幅0.20～0.29m，検出面からの深さ0.19～0.48mである。火床面（$J_{9\sim10}$層）は径0.47～0.58mの不整円形で，熱浸透層は厚さ0.10mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて明赤褐色～橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim8}$層）は8層に細分され，粒～小塊状のカーボン及び焼土を多く混入し，粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む暗褐色土である。J_4層は拳大の礫を多量に含む。

貯 蔵 穴　北西隅に構築される。埋土（D層）は黒褐色土を主体とし，小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。少量のカーボン・焼土粒，土師器，あかやき土器破片を含む。平面形は不整な円形で，規模は径0.53～0.57m，床面からの深さ0.06mである。

柱　穴　ピットを床面上に5口検出しており，主柱穴はP1～3である。柱痕跡は確認されず，埋土（E層）は黒褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色～褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.18m，深さ0.23m，P2－径0.18m，深さ0.10m，P3－径0.16m，深さ0.30m，P4－径0.37m，深さ0.09m，P5－径0.16～0.20m，深さ0.05mである。

出土遺物（第50図1～5）　1～3はあかやき土器坏である。1・3の底部切り離しは回転糸切無調整である。また3は口縁部に歪みがある。4は土師器坏で，内面は黒色処理され，内面全体にヘラミガキを施す。5は土師器小型甕である。体部下半～底部を欠損し，内面には煤状の炭化物が観察される。その他，あかやき土器甕，内外黒色処理の土師器坏，砂底の土師器甕，僅かであるが須恵器坏の破片が出土している。

時　期　9世紀後葉

ＲＡ６９１竪穴建物跡（第21図）

位　置　調査区中央（G-1－F14区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　北東－南西4.85m，北西－南東4.37m　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面　**カ マ ド**　不明

埋　土　自然堆積でA～C層に大別される。

A層－黒褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを僅かに含む。

B層－暗褐色土と黒褐色土との混合土で，少量のカーボン粒と粒～小塊状の黄褐色シルトを多く含む。

C層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多量に含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.13～0.19mで，緩やかに外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦であるが，北から南に向かって緩やかに傾斜する。構築土（L層）はにぶい黄褐色シルトと黄褐色シルトとの混合土で，小塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.09～0.13mである。

柱　穴　床面上に主柱穴P１～３を検出している。柱痕跡は確認されず，埋土（$D_{1\cdot2}$層）は黒褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを少量含む。下層は褐色シルトの割合が少ない。各ピットの規模・深さは，P１－径0.20～0.23m，深さ0.10m，P２－径0.20～0.23m，深さ0.09m，P３－径0.24m，深さ0.06mである。

出土遺物（第50図6）　6は小刀で切先～刃部のみ残存する。切先以外，刀身の刃と棟はほぼ直線で平行となる形状である。図示していないが，あかやき土器坏・甕，土師器坏・甕，フイゴ羽口及び釘の破片が出土している。　**時　期**　9世紀中葉～後葉

ＲＡ６９２竪穴建物跡（第23図）

位　置　調査区東（G－１－L14区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　北－南3.20m，西－東1.23m以上（調査区外）　**重複関係**　なし

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面　**カマド**　不明

埋　土　自然堆積でA～C層に大別され，A・B層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土と暗褐色土との混合土で，A_1層は僅かな黄褐色シルト粒，多量のカーボン小塊，少量の焼土粒を含み，A_2層はにぶい黄褐色シルト小塊と微量の焼土粒を含む。

B層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。B_1層の方がにぶい黄褐色シルトの含有率が高い。

C層－黒褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.26mで，直立気味に立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦であるが，南から北に向かって緩やかに傾斜し，硬化面が確認される。構築土（L層）は黄褐色シルトを主体とし，塊状の黒褐色～暗褐色土を含む。層厚は0.05～0.15mである。

柱　穴　ピットを床面上に3口検出しており，主柱穴はP１・３である。柱痕跡は確認されず，埋土（$D_{1\cdot2}$層）は黒褐色土を主体とし，D_1層は小塊状の暗褐色土を微量含む。D_2層はにぶい黄褐色シルト粒を少量含む。各ピットの規模・深さは，P１－径0.21m，深さ0.10m，P２－径0.23～0.25m，深さ0.20m，P３－径0.23～0.25m，深さ0.11mである。

出土遺物（第50図7～10）　7・8はあかやき土器の坏である。9は須恵器坏である。底部の切り離しは回転糸切無調整である。10は土師器甕で，内面が摩滅している。その他，あかやき土器甕，内面黒色処理の土師器坏，砂底の土師器甕の各破片が少量出土している。

時　期　9世紀後葉

ＲＡ６９３竪穴建物跡（第 23 図）

位　　置　調査区中央（G－1－G17・18 区）　**平 面 形**　長方形　**主軸方向**　－

規　　模　北西－南東 2.82m，南西－北東 4.75m　**重複関係**　ＲＡ694（新）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別される。

Ａ層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，小塊状の褐色シルトを少量含む。少量のカーボン粒を含み，堅く締まっている。

Ｂ層－暗褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。カーボン粒，焼土粒～小塊を含む。

Ｃ層－黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは 0.07～0.11m で，外傾して立ち上がる。

床の状態　中央がやや高いが，ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（Ｌ層）はにぶい黄橙色シルトと黄褐色シルトの混合土で，小塊状の暗褐色土を少量含む。層厚は 0.07～0.15m である。

カ マ ド　カマドは不明であるが，西壁中央の床面で確認した熱浸透層はカマド火床面の可能性がある。熱浸透層（$J_{1\cdot2}$層）は残存部長軸 0.50m，残存部短軸 0.22m の不整楕円形で，熱浸透層は厚さ 0.08m である。西側は強い被熱を受けて明赤褐色を呈し，焼き締まっている。

柱　　穴　ピットを床面上に 12 口検出しており，主柱穴はＰ１～３である。埋土はＤ・Ｅ層に大別される。Ｄ層は黒褐色土を主体に粒～小塊状の暗褐色土，褐色シルトを僅かに含む。Ｅ層は暗褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径 0.23m，深さ 0.11m，Ｐ２－径 0.30～0.33m，深さ 0.10m，Ｐ３－径 0.22～0.24m，深さ 0.10m，Ｐ４－径 0.21～0.27m，深さ 0.09m，Ｐ５－径 0.31～0.36m，深さ 0.08m，Ｐ６－径 0.19～0.21m，深さ 0.05m，Ｐ７－径 0.26m，深さ 0.06m，Ｐ８－径 0.43～0.52m，深さ 0.10m，Ｐ９－径 0.44～0.52m，深さ 0.18m，Ｐ10－残存部径 0.28～0.32m，深さ 0.09m，Ｐ11－径 0.22m，深さ 0.15m，Ｐ12－径 0.23～0.25m，深さ 0.07m である。

出土遺物（第 50 図 11）　11 はあかやき土器の坏で，底部を欠損している。図示していないが，あかやき土器坏，土師器坏・甕及び須恵器甕の破片が少量出土している。

時　　期　９世紀中葉～後葉

ＲＡ６９４竪穴建物跡（第 24 図）

位　　置　調査区中央（G－1－E17・18 区）　**平 面 形**　長方形　**主軸方向**　Ｎ７°Ｗ

規　　模　北西－南東 3.15m，南西－北東 5.42m

重複関係　ＲＡ693（古），ＲＧ617・620（新）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　Ａ～Ｅ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，A_1層は粉～粒状の黄褐色シルトを微量含み，A_2層は粉状の黄褐色～明黄褐色シルトを少量含む。各層とも堅く締まるが，A_1層はより堅い。

Ｂ層－暗褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。径 0.03～0.06m の

礫を少量含む。

C層－粉～粒状の黄褐色シルトを僅かに含む，黒色土と暗褐色土の混合土。

D層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多量含む。

E層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，粒～小塊状の褐色シルトを含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.21～0.44mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）は褐色シルトと黄褐色シルトの混合土で，粒～小塊状の暗褐色土を多く含む。層厚は0.08～0.11mである。南東隅で礫が確認されたが，使用痕等はなく，自然石である。

カ マ ド　カマドは北壁やや東寄りに位置し，基底部は残存せず，支脚と火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙道に向かって高くなり，煙出しに向かって一部深くなるがほぼ平坦である。規模は北壁から煙出しの先端までの長さ1.63m，幅0.28～0.40m，検出面からの深さ0.15～0.17mである。火床面（$J_{6\cdot7}$層）は径0.36～0.68mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.06mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて明赤褐色を呈し堅く焼き締まっている。カマド支脚は火床面北端に長さ0.34mの礫を直立させ，下部を床面に埋めて用いている。支脚を据えるための掘方埋土（K層）は暗褐色土とにぶい黄橙色シルトの混合土である。カマド崩壊土（$J_{1\sim5}$層）は5層に細分され，粒～小塊状の褐色～にぶい黄褐色シルトを含む黒褐色土である。$J_{1\cdot4}$層は粒～小塊状の焼土とカーボンを多量含む。

柱　　穴　床面上に6口検出し，主柱穴はP1～3である。柱痕跡は確認されず，埋土はF層が黒褐色土を主体に少量の黄褐色シルト粒を含む。G層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.25～0.27m，深さ0.16m，P2－径0.24m，深さ0.08m，P3－径0.18～0.23m，深さ0.12m，P4－径0.33～0.46m，深さ0.09m，P5－径0.31m，深さ0.11m，P6－径0.20～0.23m，深さ0.10mである。

出土遺物（第50図12・13）　12はあかやき土器坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。13は土師器高台付坏の底部～高台部分である。内面は摩滅し，底面はナデ調整を施す。その他，あかやき土器甕，土師器坏・甕及び須恵器大甕・壺の破片が出土している。またA・E層からフイゴ羽口の小破片，床面から安山岩製の砥石が出土している。

時　　期　9世紀後葉

RA695竪穴建物跡（第25図）

位　　置　調査区中央（G-1－H・I16区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　W0°

規　　模　西－東2.42m，南－北2.95m　**重複関係**　グリッドピットP34（古）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA～D層に大別され，A・D層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土を主体とし，A_1層は小塊状の暗褐色土を少量，A_2層は粒状の黒褐色土を多量含む。

B層－暗褐色土とにぶい黄褐色～黄褐色シルトの混合土で，少量のカーボン粒，焼土粒

～小塊を含む。

C層－黒褐色土を主体とし，小塊状のにぶい黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。

D層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で，塊状の黄褐色シルトを含む。D_2層は黄褐色シルトの割合が多い。カーボン粒～小塊を少量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.28～0.31mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がる。構築土（L層）は明黄褐色シルトと褐色シルトの混合土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を含む。層厚は0.13～0.23mである。

カ マ ド　カマドは西壁やや南寄りに位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなり，一部オーバーハングする。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.14m，幅0.22～0.38m，検出面からの深さ0.33～0.52mである。カマドは粒状の黒褐色土を多く含む，にぶい褐色シルトと黄褐色シルトの混合土（K層）で構築し，南残存部では構築材として礫を使用している。規模は南残存部が長さ0.20m，幅0.26m，高さ0.09m，北残存部が長さ0.12m，幅0.16m，高さ0.06mである。火床面（J_8層）は径0.26～0.30mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.04mである。カマド崩壊土（$J_{1\sim7}$層）は7層に細分され，粒～小塊状のカーボン及び焼土を多く混入し，粒～塊状の褐色～黄褐色シルトを含む黒褐色～暗褐色土である。J_1層はカマド天井部が崩壊した層で，$J_{2\cdot4\cdot6}$層は拳大の礫を多量に含む。

貯 蔵 穴　カマド南，南西隅に構築される。埋土（E層）は黒褐色土と褐色土の混合土で，粒～小塊状の明黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を少量含む。平面形は不整な円形で，規模は径0.37～0.45m，床面からの深さ0.07mである。

柱　穴　床面上に5口検出し，主柱穴はＰ１～４である。柱痕跡は確認されず，埋土はF層が黒褐色土を主体に粉～粒状の黄褐色シルトを僅かに含む。G層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で，塊状の褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは，Ｐ１－径0.26～0.28m，深さ0.15m，Ｐ２－径0.49～0.83m，深さ0.23m，Ｐ３－径0.34～0.47m，深さ0.16m，Ｐ４－径0.47～0.53m，深さ0.16m，Ｐ５－径0.20m，深さ0.12mである。

出土遺物（第51図1～5）　1・2は須恵器の坏である。2の底部切り離しは回転糸切無調整である。3はあかやき土器坏である。4・5は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で，5の底部切り離しは回転糸切無調整である。図示していないが，あかやき土器甕，土師器甕の破片，僅かに土師器高台付坏の小破片が出土している。

時　期　9世紀中葉

ＲＡ６９６竪穴建物跡（第26図）

位　置　調査区東（G－1－K15・16区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　W14°N

規　模　北西－南東2.65m，南西－北東3.00m　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でA・B層に大別される。

A層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。

B層－暗褐色土を主体とし，小塊状の黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.03～0.05mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で南に硬化面が広がる。構築土（L層）は黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を含む。層厚は0.10～0.19mである。

カ マ ド　カマドは西壁中央に位置し，基底部は残存せず，火床面のみ残る。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって細くなり，煙出しでは深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.23m，幅0.18～0.32m，検出面からの深さ0.13～0.16mである。火床面（$J_{7\sim8}$層）は径0.74～0.76mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.08mである。その中央部は周辺と比較して，強い被熱を受けて橙色を呈し堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim6}$層）は6層に細分され，粒～小塊状のカーボン及び焼土を多く混入し，粒～塊状のにぶい黄褐色シルトを含む黒褐色～暗褐色土である。

柱　　穴　ピットを床面上に7口検出し，主柱穴はP1～4である。柱痕跡は確認されず，埋土はC層が黒褐色土を主体とし，粒状の暗褐色土とカーボン・焼土粒を少量含む。D層は暗褐色土と黒褐色土の混合土で，塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.31m，深さ0.13m，P2－径0.22m，深さ0.14m，P3－径0.20～0.26m，深さ0.19m，P4－径0.17m，深さ0.11m，P5－径0.18m，深さ0.17m，P6－径0.17～0.19m，深さ0.11m，P7－径0.33～0.37m，深さ0.09mである。その他，北東隅で床構築土を精査中に床面下からピットを確認した。底面に須恵器長頸瓶の口縁部～頸部を伏せている。土器内には多量のカーボン粒～塊を含む褐色～黄褐色シルト（F層）が充填され，埋土（E層）は粒～小塊状の暗褐色土を含むにぶい黄褐色シルトである。平面形は不整な円形で，規模は径0.52～0.57m，床面からの深さ0.12mである。

出土遺物（第51図6～8）　6はあかやき土器の坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。7はあかやき土器鉢で，体部下半～底部を欠損する。胎土に雲母を含む。8は床面下のピットから出土した須恵器長頸瓶で，口縁部～頸部が残存する。内外面に自然釉が確認される。その他，あかやき土器甕，土師器坏・甕及び須恵器坏・大甕・壺の破片が出土している。

時　　期　9世紀中葉～後葉

ＲＡ６９７竪穴建物跡（第27図）

位　　置　調査区東（G－1－K18・19区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　　模　東－西3.20m以上（調査区外），北－南3.05m　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA～E層に大別され，D・E層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，粉～粒状の黄橙色シルトを僅かに含む。

B層－粒～小塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多く含む，暗褐色土と褐色シルトの混合土。

C層－黒色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルト，カーボン・焼土粒を少量含む。

D層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で，D_1層は粒状の褐色シルトを微量含み，D_2層は小塊状のにぶい黄褐色シルトとカーボン粒を少量含む。

E層－暗褐色土を主体とし，塊状の褐色シルトを含む。E_2層の方が褐色シルトの含有

率が非常に高い。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.34～0.37mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦で硬化面が広がり，中央東には特に堅い面が確認される。構築土（L層）はにぶい黄褐色～黄褐色シルトを主体とし，塊状の黒褐色～暗褐色土を多く含む。層厚は0.17～0.22mである。

カ マ ド　カマドは不明であるが，北東でカマド崩壊土（J層）の一部を確認している。カマド崩壊土は暗褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄橙色シルトと多量のカーボン・焼土粒～塊を含む。

柱　穴　ピットを床面上に1口検出している。柱痕跡は確認されず，埋土（F層）は黒褐色土を主体とし，粒～塊状の黄褐色シルトを少量含む。カーボン粒と焼土粒～塊を含む。規模は径0.44～0.46m，深さは0.12mである。

出土遺物（第51図9～17）　9・10は須恵器の坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。11～14はあかやき土器の坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。12・14は口縁部に歪みがあり，14は胎土に砂礫を多く含む。15は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器坏で，体部下端と底面にヘラケズリが施される。16・17は土師器甕で，体部下半～底部を欠損する。その他，あかやき土器甕の破片と僅かに土師器高台付坏の破片が出土している。

時　期　9世紀中葉

ＲＡ６９８竪穴建物跡（第27図）

位　置　調査区南西（G－1－B23・24区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　西－東1.25m以上（調査区外），南－北4.21m以上（調査区外）　**重複関係**　なし

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でA～D層に大別され，A層はさらに2層に細分される。

A層－黒褐色土と暗褐色土の混合土で，A_1層は粒～小塊状の褐色シルトを微量含み，A_2層は塊状のにぶい黄褐色シルト，カーボン粒及び焼土粒～塊を少量含む。

B層－にぶい黄褐色～黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を含む。

C層－暗褐色土を主体とし，粒状の黄褐色シルトを少量含む。

D層－粒～小塊状の黒褐色～暗褐色土を微量含む，にぶい黄褐色シルト。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.17～0.27mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　中央が若干高いが，ほぼ平坦である。床構築土は確認されず，掘り込んだ地山褐色～黄褐色シルト層（Ⅲ層）を床面としている。

出土遺物（第51図18）　18はあかやき土器坏である。内外面は摩滅している。

時　期　9世紀

ＲＡ６９９竪穴建物跡（第28図）

位　置　調査区南東（G－1－J・K24区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　W3°S

規　模　西－東3.57m，南－北3.88m　**重複関係**　RG617（新）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でA～C層に大別され，A層はさらに3層に細分される。

A層－暗褐色土を主体とし，粒～塊状の黒褐色土を含む層で，焼土粒を少量含む。3層に細分され，下層ほど黒褐色土の割合が高い。

B層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の褐色シルトを含む層で，カーボン粒と焼土塊を多く含む。他の埋土と比較して，軟らかい。

C層－小塊状の黒褐色土を少量含む褐色シルトで，カーボン粒を微量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.10～0.12mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦である。構築土（L層）は小塊状の暗褐色土を少量含む，にぶい黄橙色シルトと黄褐色シルトの混合土である。層厚は0.04～0.10mである。

カ マ ド　カマドは西壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し，深くなっている。火床面から煙道半ばまでは平坦で，途中から煙出しに向かって傾斜し深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.34m，幅0.33～0.35m，検出面からの深さ0.14～0.22mである。カマドは褐色～黄褐色シルトに粒～小塊状の暗褐色土を含む混合土（$K_{1,2}$層）で構築している。規模は南残存部が長さ0.25m，幅0.32m，高さ0.09m，北残存部が長さ0.48m，幅0.30m，高さ0.09mである。火床面（J_9層）は径0.39～0.41mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.10mである。西側は強い被熱を受けて明赤褐色を呈し，焼き締まっている。カマド崩壊土（$J_{1\sim8}$層）は8層に細分され，暗褐色土を主体とし，黒褐色土，褐色～黄褐色シルト及び焼土が混合する。J_3層はカマド天井部が崩壊した層である。J_4層は粒～塊状のカーボンを多く含み，J_4層は礫を少量含む。なお，この崩壊土は煙出しから煙道，さらに火床面と床面の一部の範囲を覆っている。

柱　穴　ピットを床面上に4口検出しており，主柱穴はP1～3である。柱痕跡は確認されず，埋土（D層）が黒色～黒褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを少量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.26m，深さ0.08m，P2－径0.24～0.28m，深さ0.07m，P3－径0.24～0.28m，深さ0.02m，P4－径0.18～0.20m，深さ0.06mである。

出土遺物（第52図1～6）　1は須恵器坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。2はあかやき土器坏で，底部を欠損する。3・4は土師器坏で，内面に黒色処理とヘラミガキが施される。3の底面にはヘラケズリが施され，重焼痕が観察される。5・6はあかやき土器甕である。図示していないが，土師器甕の破片，僅かに土師器高台付坏の破片が出土している。

時　期　9世紀中葉

ＲＡ７００竪穴建物跡（第29・30図）

位　置　調査区南（G1－E・F3区）　**平面形**　方形　**主軸方向**　－

規　模　南東－北西4.38m，北東－南西4.38m　**重複関係**　なし

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でA～E層に大別され，C・E層はさらに2層に細分される。A～C層は径0.04～0.12mの礫を少量含む。

A層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土と焼土粒を少量含む。

B層－暗褐色土を主体とし，小塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む。少量のカーボン粒，多量の焼土粒～小塊状を含む。

C層－暗褐色土を主体に黒色土を塊状に含む混合土で，C_1層は粒状のにぶい黄褐色シルトとカーボン・焼土粒を少量含み，C_2層は少量のカーボン粒～塊，塊状の褐色シルトを多量含む。

D層－暗褐色土を主体とし，褐色シルト粒を多量に含む。

E層－黒褐色土を主体とする層で，E_1層は粒～塊状の褐色シルトとカーボン粒を含み，E_2層は塊状の黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.30～0.37mで，外傾して立ち上がる。部分的ではあるが，北，南及び東壁の壁際には幅0.07～0.15m，深さ0.05～0.08mの周溝がめぐる。埋土（F層）は黒褐色土を主体とし，粒状の暗褐色土とにぶい黄褐色シルトを少量含む。北壁を除く周溝の底面には小規模なピットが確認され，壁面部材の握え方の可能性がある。

床の状態　ほぼ平坦で，中央を主として硬化面が広がる。構築土（L層）は明黄褐色シルトと褐色シルトの混合土を主体とし，塊状の暗褐色土を少量含む。層厚は0.05～0.09mである。

カ マ ド　カマドは2時期（Ⅰ・Ⅱ期）あり，平面形や残存状況，埋土の状況などから，西（Ⅱ期）→東（Ⅰ期）の順で造り替えが行われている。Ⅱ期カマドについては，廃棄後も基底部等を壊さずに残している。

Ⅰ期のカマドは東壁北寄りに位置する。煙道平面形は不整な溝状で，煙出しに向かって徐々に浅くなり，煙出し底面で最も浅くなる。規模は東壁から煙出しの先端までの長さ1.43m，幅0.21～0.34m，検出面からの深さ0.10～0.18mである。カマドは人為的に壊されており，南基底部のみ残存する。カマド基底部は褐色シルトに粒～小塊状の暗褐色土を含む混合土（K層）で構築し，規模は南残存部が長さ0.51m，幅0.30m，高さ0.08～0.16mである。明確な火床面は確認できない。カマド崩壊土（$J_{1\sim7}$層）は褐色シルト粒～塊状を含む黒褐色～暗褐色土である。J_3層は多量の灰黄色粘土粒～塊を多く含み，$J_{3\cdot5}$層はカマド周辺の広範囲に広がり，床面を覆っている。

Ⅱ期のカマドは西壁中央に構築される。煙道は刳り貫きのトンネル状で天井部が残存する。煙道平面形は南にやや屈曲する溝状で，火床面から煙出しに向かって傾斜し，煙出し底面で最も深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.06m，幅0.23～0.41m，検出面からの深さ0.22～0.60mをはかる。カマドはにぶい黄橙色シルトとにぶい黄褐色シルトの混合土（K'層）で構築している。規模は南残存部が長さ0.33m，幅0.23m，高さ0.22m，北残存部が長さ0.34m，幅0.17m，高さ0.12mである。火床面は径0.56mの不整な円形を呈し，熱浸透層は厚さ0.07mである。西側は強い被熱を受けて橙色を呈し，堅く焼き締まっている。カマド崩壊土（J'層）は暗褐色土や褐色シルトを含む黒褐色土を主体とし，9層に細分される。J'_3層はカマド天井部が崩壊した層である。煙出し底面に堆積したJ'_8層から底部を欠損したあかやき土器甕が出土している。

柱　穴　その他ピットを床面上に8口検出しており，主柱穴はP1～4である。柱痕跡は認められず，埋土（G層）が黒褐色土を主体とし，褐色シルト粒状を少量含む。各ピットの規模・深さは，P1－径0.20～0.22m，深さ0.10m，P2－径0.22m，深さ0.10m，P3－径

0.25m，深さ0.09m，P4－径0.26～0.28m，深さ0.10m，P5－径0.22m，深さ0.10m，P6－径0.20～0.24m，深さ0.12m，P7－径0.26～0.30m，深さ0.09m，P8－径0.33m，深さ0.10mである。

出土遺物（第53図1～9）　1・3はあかやき土器の坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。1は内外面に煤状炭化物が付着し，3は胎土に砂粒を多く含む。2は須恵器坏で，底部は回転糸切無調整である。外面に火襷，内面に重ね焼き痕が観察される。4は内面に黒色処理とヘラミガキが施される土師器高台付坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。5・6はあかやき土器甕である。5はⅡ期カマドの煙出しから出土し，内外面に煤状炭化物が付着する。7は体部下半～底部を欠損する土師器小型甕である。8は土師器甕でほぼ完形に近い。9は砂質凝灰岩製の砥石である。短冊形で4面の使用痕と切創が観察される。この他，土師器坏，あかやき土器小型甕及び須恵器大甕の破片が出土している。

時　　期　9世紀中葉

ＲＡ７０１竪穴建物跡（第31図）

位　　置　調査区南（Ｇ１－Ｊ２・３区）　**平 面 形**　方形　**主軸方向**　Ｗ５°Ｎ

規　　模　西－東2.39m以上（調査区外），南－北5.15m　**重複関係**　ＲＧ617（新）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　Ａ～Ｄ層に大別され，Ａ・Ｃ層はさらに3層に細分される。Ｂ層は人為堆積，それ以外は自然堆積である。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は少量の褐色シルト塊を含み，A_2層は褐色シルト粒を僅かに含む。A_3層は粒～塊状のにぶい黄褐色シルトを多量に含む。

Ｂ層－粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む，暗褐色土と黒褐色土の混合土。少量の焼土粒，多量の拳大の円礫・角礫を含む。礫の一部には被熱を受けて赤変化したものが確認される。

Ｃ層－暗褐色土を主体とし，粒～塊状のにぶい黄褐色～黄褐色シルトを多く含む。3層に細分され，下層ほどにぶい黄褐色～黄褐色シルトの割合が高くなる。

Ｄ層－黒褐色～暗褐色土を主体とし，塊状の褐色シルトを少量含む。カーボン粒，焼土粒～塊を多量に含む。

壁の状態　検出面から床面までの深さは0.21～0.24mで，外傾して立ち上がる。

床の状態　ほぼ平坦であるが，カマド付近が若干凹んでおり，硬化面も確認される。構築土（Ｌ層）は黄褐色シルトを主体とし，小塊状の暗褐色土を多く含む。層厚は0.04～0.21mである。

カ マ ド　カマドは西壁中央に位置する。煙道平面形は不整な溝状で，火床面から煙出しに向かって緩やかに傾斜し深くなる。規模は西壁から煙出しの先端までの長さ1.24m，幅0.25～0.41m，検出面からの深さ0.22～0.36mである。カマドはにぶい黄橙色シルト，暗褐色土及び粒～塊状の灰白色～灰黄色粘土との混合土（$K_{1\cdot2}$層）で構築している。規模は南残存部が長さ0.48m，幅0.40m，高さ0.08～0.14m，北残存部が長さ0.47m，幅0.24m，高さ0.07～0.12mである。火床面（$J_{9\cdot10}$層）は径0.54～0.59mの不整楕円形で，熱浸透層は厚さ0.10mである。カマド崩壊土（$J_{1\sim8}$層）は8層に細分され，カーボンと焼土を含

む黒褐色～暗褐色土である。J_2層はカマド天井部が崩壊した層で，$J_{3\cdot5\cdot7}$層はカーボンと焼土を多量に含む。

貯蔵穴　北西隅に構築される。埋土はE～G層に大別され，F層はさらに2層に細分される。E層は粒状の褐色シルトを少量含む黒褐色土で，多量のカーボン・焼土粒を含む。F層は暗褐色土に小塊状の褐色シルトを多く含み，F_2層は割合が多い。G層は塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含み，他の埋土と比較して軟らかい。平面形は不整な円形で，規模は径0.55～0.60m，床面からの深さ0.25mである。

柱穴　ピットを床面上に5口検出しており，主柱穴はP1・2で柱痕跡も確認される。柱痕跡埋土（H層）は暗褐色土を主体に粒状の褐色シルトを微量含む。掘方埋土（I層）は黄褐色シルトを主体に小塊状の黒褐色土を含み，堅く締まりがある。各ピットの規模・深さは，P1－径0.30m，深さ0.15m，P2－径0.23m，深さ0.18m，P3－径0.38～0.41m，深さ0.13m，P4－径0.35～0.60m以上，深さ0.22m，P5－径0.20～0.23m，深さ0.07mである。

出土遺物（第52図7～12）　7はあかやき土器の坏である。8・9は土師器坏で，内面に黒色処理とヘラミガキが施される。9の底部切り離しは回転糸切無調整である。10～12は土師器甕である。11は体部下半～底部が残存し，内面に煤状炭化物が観察され，底面はヘラケズリ調整を施す。その他，砂底の土師器甕，僅かに須恵器坏・甕，あかやき土器甕の各破片が出土している。

時期　9世紀後葉

ＲＢ１４２掘立柱建物跡（第32図）

位置　調査区南（G1－H・I2・3区）　**平面形**　桁行1間×梁行1間の東西棟

棟方向　N10°W　**重複関係**　RD2211（新）

規模　桁行1間（総長1.85m・6尺1寸），梁行1間（総長2.47m・8尺1寸）

掘込面　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

柱間寸法　P1～4の4口で構成される。梁間柱間はP1・P2間－2.47m（8尺1寸），P3・P4間－2.42m（8尺）である。桁行柱間はP2・P3間－1.84m（6尺），P4・P1間－1.85m（6尺1寸）である。

柱穴　建物を構成するすべての柱穴より柱痕跡が確認された。柱痕跡径は0.15～0.21m，掘方径は0.40～0.69mをはかる。柱痕跡埋土は黒褐色土を主体ににぶい黄褐色～褐色シルト粒を少量含む。掘方埋土は褐色シルトを主体に粒～塊状の黒褐色土を含み，締まりがある。各柱穴の規模・深さはP1－径0.40～0.59m，深さ0.29m，P2－径0.33～0.53m，深さ0.27m，P3－径0.68m，深さ0.23m，P4－径0.61～0.69m，深さ0.15mである。平面形はP3が不明であるが，P1・2は不整長方形，P4は不整方形を呈する。

出土遺物　図示していないが，あかやき土器坏，土師器坏の小破片が出土している。

時期　9世紀

ＲＤ２１８８土坑（第 32 図）

位　　置　調査区北西（Ｆ－１－Ｗ７区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端 0.59m，下端 0.47m，短軸－上端 0.45m，下端 0.29m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は少量の褐色シルト塊を含み，A_2層は少量の焼土粒と粒～小塊状の褐色シルトを多く含む。

Ｂ層－にぶい黄褐色シルトを主体とし，小塊状の暗褐色土を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.41m で，直立気味に外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　図示していないが，あかやき土器坏・甕，土師器坏・甕及び須恵器坏の破片が出土している。

時　　期　９世紀

ＲＤ２１８９土坑（第 32 図）

位　　置　調査区北西（Ｆ－１－Ｘ７・８区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端 1.00m，下端 0.68m，短軸－上端 0.85m，下端 0.65m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒～塊状の暗褐色土を微量含む。

Ｂ層－暗褐色土を主体とする層で，B_1層は粒～塊状の黄褐色シルトを多く含み，B_2層はにぶい黄褐色シルト塊を微量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.33m で，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　Ｂ層からあかやき土器坏・甕，土師器坏・甕，須恵器坏・大甕の小破片が出土している。

時　　期　９世紀

ＲＤ２１９０土坑（第 33 図）

位　　置　調査区北西（Ｆ－１－Ｙ７区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　残存部長軸－上端 1.12m，下端 1.03m，残存部短軸－上端 0.46m，下端 0.40m

重複関係　ＲＡ676・677（新）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は微量の焼土粒と黄褐色～明黄褐色シルト粒～小塊を多く含み，A_2層は粒状のにぶい黄橙色シルト塊を少量含む。

Ｂ層－黒色土を主体とし，塊状の黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.20m で，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　Ｂ層から土師器坏・甕・球胴甕の小破片が出土している。　**時　　期**　９世紀

ＲＤ２１９１土坑（第 33 図）

位　　置　調査区東（G－１－K12 区）　**平 面 形**　不整長方形

規　　模　長軸－上端 2.18m，下端 2.07m，短軸－上端 1.08m，下端 1.05m

重複関係　ＲＡ687（古）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別される。

Ａ層－粉～粒状の褐色シルトを僅かに含む，黒色土と黒褐色土の混合土。

Ｂ層－黄褐色シルトを主体とし，塊状の黒褐色土を含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.13m で，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物（第 54 図 5）　5はあかやき土器坏で，底部切り離しは回転糸切無調整である。その他，図示していないが，あかやき土器甕，内外黒色処理の土師器坏，土師器甕及び須恵器大甕の破片が出土している。

時　　期　9 世紀後葉

ＲＤ２１９２土坑（第 33 図）

位　　置　調査区東（G－１－J18・19 区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端 0.74m，下端 0.39m，短軸－上端 0.53m，下端 0.30m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ・Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は粒～小塊状の黄褐色シルトと微量の焼土粒を含み，A_2層は粒状の褐色シルトを微量含む。

Ｂ層－暗褐色土を主体とし，塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。B_2層の方がにぶい黄褐色シルトの割合が高い。

Ｃ層－黒色土を主体とし，小塊状の褐色シルトを含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.45m で，外傾して立ち上がる。

底の状態　やや丸みを帯びる。

出土遺物　Ａ層から少量の須恵器壺の破片，Ｂ層からあかやき土器甕，土師器甕の小破片が出土している。

時　　期　9 世紀

（３）　古代以降の遺構・遺物

ＲＤ２１９３土坑（第 33 図）

位　　置　調査区東（G－１－Ｊ16 区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端 0.80m，下端 0.57m，短軸－上端 0.66m，下端 0.35m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別される。

Ａ層－黒色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を微量含む。

B層－黒褐色土を主体とし，粒状の黄橙色シルトを多量含む。
C層－暗褐色土を主体とし，塊状の褐色シルトを多く含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.24mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　A層からフイゴ羽口の破片，B層から土師器甕の小破片が出土している。

時　　期　古代

ＲＤ２１９４土坑（第33図）

位　　置　調査区中央（G-1－D19区）　**平 面 形**　不整円形

規　　模　長軸－上端0.65m，下端0.52m，短軸－上端0.55m，下端0.45m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA～C層に大別される。
A層－粒～小塊状の褐色シルトを微量に含む黒褐色土。
B層－小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む黒色土。
C層－粒状の黒褐色土を少量含む暗褐色土。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.15mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　A層から土師器甕の小破片が出土している。

時　　期　古代

ＲＤ２１９５土坑（第33図）

位　　置　調査区中央南（G-1－C20区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端0.83m，下端0.73m，短軸－上端0.68m，下端0.55m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA・B層に大別され，A層はさらに2層に細分される。
A層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は明黄褐色シルト塊を多量含み，A_2層は粒～小塊状のにぶい黄褐色シルト塊を微量含む。
B層－暗褐色土を主体とし，粒状の黒褐色土を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.20mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　B層からあかやき土器甕の小破片が出土している。

時　　期　古代

ＲＤ２１９６土坑（第33図）

位　　置　調査区中央（G-1－E19区）　**平 面 形**　不整円形か

規　　模　長軸－上端0.72m，下端0.52m，残存部短軸－上端0.53m，下端0.41m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA・B層に大別される。

A層－にぶい黄橙色シルトを主体とし，塊状の黒褐色土を多量含む。

B層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状の褐色シルトを含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.15mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦であるが，西に向かって僅かに傾斜する。

出土遺物　A層からあかやき土器坏の摩滅した小破片が出土している。

時　期　古代

ＲＤ２１９７土坑（第33図）

位　置　調査区中央東（G－１－Ｈ・Ｉ19区）　**平面形**　不整円形

規　模　長軸－上端0.79m，下端0.49m，短軸－上端0.72m，下端0.53m

重複関係　なし　**掘込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積で，黒褐色土を主体とする単層である。にぶい黄褐色シルトの包含率で２層に細分され，A_1層は粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトとカーボン粒を微量含み，A_2層は塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.10mで，緩やかに外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　なし　**時　期**　古代

ＲＤ２１９８土坑（第34図）

位　置　調査区中央南（G－１－Ｉ９区）　**平面形**　不整楕円形

規　模　長軸－上端0.94m，下端0.65m，短軸－上端0.88m，下端0.49m

重複関係　なし　**掘込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土と微量の焼土粒を含む。

Ｂ層－小塊状のにぶい黄褐色シルトを多く含む暗褐色土。下層ほどにぶい黄褐色シルトの割合が高くなる。B_1層はカーボン粒，砂，安山岩を少量含み，B_2層はカーボン粒～小塊を含む。

Ｃ層－黒褐色土を主体とし，塊状の褐色シルトを多量含む。径0.04mの小礫を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.30mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　緩く湾曲する。

出土遺物　A層からあかやき土器甕と土師器甕の小破片，B_1層から安山岩製の砥石破片が出土している。

時　期　古代

ＲＤ２１９９土坑（第34図）

位　置　調査区中央南（G－１－Ｄ７区）　**平面形**　不整楕円形

規　模　長軸－上端0.76m，下端0.52m，短軸－上端0.58m，下端0.37m

重複関係　なし　**掘込面**　削平　**検出面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でA～C層に大別される。
A層－黒褐色土を主体とし，粉～粒状の暗褐色土を僅かに含む。
B層－明黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土と焼土粒を微量含む。
C層－黒褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを少量含む。
壁の状態　検出面から底面までの深さは0.15mで，緩やかに外傾して立ち上がる。
底の状態　ほぼ平坦である。
出土遺物　A層から内面が黒色処理された土師器坏の小破片が出土している。
時　　期　古代

ＲＤ２２００土坑（第34図）

位　　置　調査区中央南（G-1－E・F７区）　**平 面 形**　不整楕円形
規　　模　長軸－上端2.23m，下端2.03m，短軸－上端1.50m，下端1.20m
重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面
埋　　土　自然堆積でA・B層に大別される。
A層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土，少量のカーボン粒及び多量の焼土粒～小塊を含む。
B層－暗褐色土を主体とし，小塊状のにぶい褐色シルトを多く含み，焼土粒を少量含む。
壁の状態　検出面から底面までの深さは0.14mで，緩やかに外傾して立ち上がる。
底の状態　ほぼ平坦である。
出土遺物　A層からあかやき土器坏破片，内面が黒色処理された土師器坏の小破片が出土している。
時　　期　古代

ＲＤ２２０１土坑（第34図）

位　　置　調査区中央南（G-1－D５・６区）　**平 面 形**　不整楕円形
規　　模　長軸－上端0.88m，下端0.72m，短軸－上端0.75m，下端0.57m
重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面
埋　　土　自然堆積でA・B層に大別され，B層はさらに２層に細分される。
A層－黒褐色土を主体とし，小塊状の褐色シルトを多く含む。
B層－暗褐色土を主体とし，にぶい黄褐色シルトを含む。混入土の黄褐色シルトについては，B_1層は微量の粒状で鉄滓を含み，B_2層は多量の粒状である。
壁の状態　検出面から底面までの深さは0.24mで，外傾して立ち上がる。
底の状態　ほぼ平坦である。
出土遺物　B層からあかやき土器坏破片と小規模な椀型滓，僅かに土師器坏・甕の小破片が出土している。
時　　期　古代

ＲＤ２２０２土坑（第34図）

位　　置　調査区中央南（G-1－E23区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端 0.88m，下端 0.60m，短軸－上端 0.75m，下端 0.46m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とする層で，A_1層は小塊状の褐色シルトと少量のカーボン粒～小塊を含み，A_2層は微量のカーボン小塊，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを微量含む。

Ｂ層－黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を多量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.20mで，緩やかに外傾して立ち上がる。

底の状態　やや丸みを帯びる。

出土遺物　A_2層から少量のあかやき土器坏破片，土師器坏・甕の小破片が出土している。

時　　期　古代

ＲＤ２２０３土坑（第 34 図）

位　　置　調査区南（Ｇ１－Ｇ２区）　**平 面 形**　不整円形

規　　模　長軸－上端 1.15m，下端 1.04m，短軸－上端 1.09m，下端 1.00m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積で，黒褐色土を主体とする単層で２層に細分される。A_1層は多量のカーボン粒，塊状の暗褐色土を含み，A_2層は小塊状のにぶい黄褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.11mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　なし　**時　　期**　古代

ＲＤ２２０４土坑（第 34 図）

位　　置　調査区南（Ｇ１－Ｈ４区）　**平 面 形**　不整長方形

規　　模　長軸－上端 0.72m，下端 0.65m，短軸－上端 0.38m，下端 0.26m

重複関係　ＲＤ2211（新）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　人為堆積でＡ～Ｄ層に大別され，Ａ・Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－明黄褐色シルトを主体とする層で，A_1層は塊状のにぶい黄褐色シルトを含み，A_2層は粒～小塊状の褐色シルトを多量含む。

Ｂ層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を含む。B_1層は暗褐色土の混入度が高い。

Ｃ層－黒褐色土を主体とし，塊状の褐色シルトを少量含む。

Ｄ層－にぶい黄褐色シルトを主体とし，粒～塊状の暗褐色土を多く含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.40mで，直立気味に立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　なし　**時　　期**　古代

ＲＤ２２０５土坑（第 35 図）

位　　置　調査区北西（Ｆ－１－Ｔ４区）　**平 面 形**　不整楕円形か

規　　模　長軸－上端 0.75m以上，下端 0.68m以上，短軸－上端 0.55m以上，下端 0.47m以上

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積で，黒褐色土と暗褐色土の混合土で２層に細分される。A_1層は粒～塊状の黄褐色シルトを含み，A_2層は小塊状の褐色シルトを多量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.17m で，外傾して立ち上がる。

底の状態　緩やかな起伏がある。

出土遺物　なし　**時　　期**　古代以降

ＲＤ２２０６土坑（第 35 図）

位　　置　調査区西（Ｇ－１－Ｂ20・21 区）　**平 面 形**　不整楕円形か

規　　模　残存部長軸－上端 0.69m，下端 0.63m，短軸－上端 0.74m，下端 0.65m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積で，粒～塊状の黄褐色シルトを含む，黒褐色土と黒色土の混合土で２層に細分される。A_2層の方が黄褐色シルトの割合が非常に高い。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.10m で，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　Ａ層から土師器甕，僅かにあかやき土器甕の各小破片が出土している。

時　　期　古代以降

ＲＤ２２０７土坑（第 35 図）

位　　置　調査区中央南（Ｇ－１－Ｄ20 区）　**平 面 形**　不整楕円形か

規　　模　長軸－上端 0.70m，下端 0.39m，残存部短軸－上端 0.48m，下端 0.25m

重複関係　ＲＧ622（新）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－暗褐色土を主体とする層で，A_1層は粉状のにぶい黄褐色シルトを僅かに含み，A_2層は粒～小塊状の黄褐色シルトを含む。

Ｂ層－褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を多量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.24m で，外傾して立ち上がる。

底の状態　中央がやや深くなる。

出土遺物　なし　**時　　期**　古代以降

ＲＤ２２０８土坑（第 35 図）

位　　置　調査区南西（Ｇ－１－Ｃ22 区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　　模　長軸－上端 0.79m，下端 0.67m，短軸－上端 0.55m，下端 0.44m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別される。

A層－黒色土を主体とし，粒～小塊状の褐色シルトを少量含む。
B層－粒～塊状の黄褐色シルトを少量含む，暗褐色土と黒褐色土の混合土。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.10mで，緩やかに外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　なし　**時　期**　古代以降

ＲＤ２２０９土坑（第 35 図）

位　置　調査区中央南（G－1－F23 区）　**平 面 形**　不整楕円形

規　模　長軸－上端 1.10m，下端 1.00m，短軸－上端 0.60m，下端 0.50m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別される。
Ａ層－褐色シルトを主体とし，少量のカーボン粒，粒～小塊状の暗褐色土を多く含む。
Ｂ層－暗褐色土を主体とする層で，塊状の褐色シルトを含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.10mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　なし　**時　期**　古代以降

ＲＤ２２１０土坑（第 35 図）

位　置　調査区南（Ｇ１－Ｇ３区）　**平 面 形**　不整長方形

規　模　長軸－上端 1.07m，下端 0.92m，短軸－上端 0.51m，下端 0.42m

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　土　自然堆積でＡ～Ｄ層に大別され，Ｂ層は２層，Ｃ層は３層に細分される。
Ａ層－黒色土を主体とし，少量のにぶい黄褐色シルト粒と微量のカーボン粒を含む。
Ｂ層－暗褐色土を主体とする層で，B_1層は粒～塊状の黄褐色シルトとカーボン小塊を多量含み，B_2層は塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。
Ｃ層－黒褐色土を主体とする層で，粒～塊状の暗褐色土，カーボン・焼土を含む。C_3層は暗褐色土の割合が高く，下層ほどしまりがなく，軟らかい。
Ｄ層－暗褐色土を主体とし，粒～小塊状の褐色シルトを少量含む。多量のカーボン小塊，少量の砂礫を含む。しまりがなく，軟らかい。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.37～0.58mで，直立気味に立ち上がる。北東隅の壁面上部に被熱を受けて赤変化した熱浸透層が確認される。

底の状態　北に掘り込みがあり，底面は凹凸である。

出土遺物　Ａ層からあかやき土器甕の摩滅した破片が出土している。

時　期　古代以降

ＲＤ２２１１土坑（第 34 図）

位　置　調査区南（Ｇ１－Ｈ３・４区）　**平 面 形**　不整長方形

規　模　残存部長軸－上端 1.81m，下端1.70m，短軸－上端1.14m，下端0.99m

重複関係　ＲＤ2204（古）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，にぶい黄褐色シルトを含む。混入土のにぶい黄褐色シルトについて，A_1層は小量の粒状，A_2層は微量の粒～塊状である。

Ｂ層－褐色シルトを主体とし，塊状の黒色土を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.17～0.22ｍで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦であるが，南東に向かって若干傾斜する。

出土遺物　Ａ層からあかやき土器坏破片，僅かに土師器坏・甕の小破片が出土し，Ａ・Ｂ層ともに磁器碗，肥前焼碗の各破片が出土している。

時　　期　近世

ＲＤ２２１２土坑（第35図）

位　　置　調査区南東（Ｇ１－Ｊ４・５区）　**平 面 形**　不整楕円形か

規　　模　長軸－上端1.10ｍ以上，下端0.90ｍ以上，短軸－上端0.50ｍ以上，下端0.32ｍ以上

重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ａ層は３層，Ｂ層は２層に細分される。

Ａ層－暗褐色土と黒褐色土の混合土で，粒～小塊状の褐色シルトを少量含む。カーボン粒～小塊を含む。A_2層は褐色シルトの割合が一番高い。

Ｂ層－にぶい黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を多く含む。B_1層は微量の焼土粒を含み，B_2層は暗褐色土の包含率が高い。

Ｃ層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.39～0.47ｍで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物（第54図6）　６は将棋駒状の磁器で，４面に染付で「別當塚」と描かれる。その他，Ａ層からあかやき土器坏・小型甕，須恵器坏及び土師器甕，Ｂ層からあかやき土器坏と土師器坏の各小破片が出土している。またＢ層から磁器碗の破片が出土している。

時　　期　近世

ＲＧ６１６溝跡（第36図）

位　　置　調査区北

平 面 形　東西方向にやや屈曲しながらのびる。

規　　模　総延長14.18ｍ以上，上端幅－0.29～0.46ｍ，下端幅－0.17～0.37ｍ

重複関係　ＲＡ678・680・682（古）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積で，黒褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む単層である。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.07～0.11ｍで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦であるが，西側に向かって徐々に深くなる。

出土遺物　あかやき土器坏・甕，土師器坏・甕及び須恵器大甕の小破片が出土している。

時　　期　古代以降

ＲＧ６１７溝跡（第 37 図）

位　　置　調査区中央北～南東

平 面 形　北側は南北にやや屈曲しながら，南側は北西から南東にほぼ直線状にのびる（調査区外）。

規　　模　総延長 25.65m以上，上端幅－0.29～0.54m，下端幅－0.20～0.40m

重複関係　ＲＡ686・688・694・699・701（古），ＲＧ622（新）

掘 込 面　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別され，Ｂ層はさらに２層に細分される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒状の暗褐色土を微量含む。

Ｂ層－黒褐色土を主体とする層で，B_1層は小塊状の褐色シルトを多量含み，B_2層は粒～小塊状のにぶい黄褐色シルトを含む。

Ｃ層－褐色シルトを主体とし，小塊状の暗褐色土を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.05～0.10mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　Ａ層から須恵器坏，あかやき土器坏・甕及び土師器坏・甕の摩滅した小破片が出土している。その他，磁器碗の破片も出土している。

時　　期　近世

ＲＧ６１８溝跡（第 36 図）

位　　置　調査区中央北

平 面 形　南北方向にほぼ直線状にのびる。

規　　模　総延長 5.56m，上端幅－0.28～0.38m，下端幅－0.20～0.29m

重複関係　ＲＡ686（古）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積で，粒状の黄褐色シルトを少量含む，黒褐色土と暗褐色土の混合土である。カーボン粒を少量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.04～0.06mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　あかやき土器坏，土師器甕の破片が出土している。

時　　期　古代以降

ＲＧ６１９溝跡（第 36 図）

位　　置　調査区中央西

平 面 形　北西～南東方向にほぼ直線状にのびる。

規　　模　総延長 8.98m，上端幅－0.28～0.46m，下端幅－0.14～0.31m

重複関係　ＲＡ690（古）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を微量含む。

Ｂ層－にぶい黄褐色シルトを主体とし，塊状の暗褐色土を多量含む。

Ｃ層－暗褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを僅かに含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは0.09～0.11mで，外傾して立ち上がる。
底の状態　ほぼ平坦である。
出土遺物　A層からあかやき土器坏・甕，須恵器大甕の摩滅した破片が出土している。
時　　期　古代以降

ＲＧ６２０溝跡（第38図）

位　　置　調査区中央
平 面 形　南西から北東にほぼ直線状にのび，東側では北方向に分岐する。
規　　模　総延長6.72m，上端幅－0.42～0.62m，下端幅－0.27～0.52m
重複関係　ＲＡ694（古）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面
埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別され，Ａ層はさらに２層に細分される。
Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒～小塊状の暗褐色土を含む。A_1層は暗褐色土の割合が非常に高い。
Ｂ層－黒色土を主体とし，粒～小塊状の褐色～黄褐色シルトを多く含む。
壁の状態　検出面から底面までの深さは0.07～0.18mで，外傾して立ち上がる。
底の状態　ほぼ平坦である。
出土遺物　Ａ層から土師器坏・甕，須恵器坏・壺の破片，Ｂ層からあかやき土器甕，土師器坏・甕の破片が出土しているが，いずれも摩滅している。その他，Ａ層から肥前焼の青磁皿，湯呑碗の破片が出土している。
時　　期　近世

ＲＧ６２１溝跡（第38図）

位　　置　調査区中央～東
平 面 形　東西方向にほぼ直線状にのびる（調査区外）。
規　　模　総延長8.13m以上，上端幅－0.34～0.46m，下端幅－0.25～0.34m
重複関係　なし　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面
埋　　土　自然堆積でＡ・Ｂ層に大別される。
Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒状の褐色シルトを僅かに含む。
Ｂ層－黄褐色シルトを主体とし，粒～小塊状の黒褐色土を多く含む。
壁の状態　検出面から底面までの深さは0.05～0.10mで，外傾して立ち上がる。
底の状態　ほぼ平坦である。
出土遺物（第54図7）　７はあかやき土器の小型坏で，体部下半～底部が残存する。底部の切り離しは静止糸切無調整である。その他，あかやき土器甕，土師器坏・甕，肥前焼の茶碗，染付手塩皿の各破片がＡ層から出土している。
時　　期　近世

ＲＧ６２２溝跡（第 38 図）

位　　置　調査区中央南

平 面 形　東西方向にやや屈曲しながら，直線状にのびる（調査区外）。

規　　模　総延長 17.56m以上，上端幅－0.30～0.62m，下端幅－0.21～0.45m

重複関係　ＲＤ2207，ＲＧ617（古）　**掘 込 面**　削平　**検 出 面**　Ⅲ層上面

埋　　土　自然堆積でＡ～Ｃ層に大別される。

Ａ層－黒褐色土を主体とし，粒状のにぶい黄褐色シルトを少量含む。

Ｂ層－塊状の黄褐色シルトを少量含む，黒色土と暗褐色土の混合土。

Ｃ層－褐色シルトを主体とし，粒状の黒褐色土を微量含む。

壁の状態　検出面から底面までの深さは 0.07～0.14mで，外傾して立ち上がる。

底の状態　ほぼ平坦である。

出土遺物　Ａ層からあかやき土器甕，須恵器長頸瓶の破片が出土しているほか，肥前焼の染付碗と湯呑碗の破片が出土している。

時　　期　近世

ピット群（第５・39 図）

調査区の北西を除くほぼ全域から 118 口のピット（Ｐ１～118）が検出されている。検出面はⅢ層上面である。埋土は黒褐色土や暗褐色土が主体となるものが多い。柱痕跡が認められるピットはＰ３・５・28・65・72・73・79・81・84・85・103・118 である。またピットから出土した遺物は須恵器，あかやき土器，土師器，陶磁器の小破片で摩滅しているものが多い。各ピットの規模及び検出面からの深さは以下のとおりである。

Ｐ１－径 0.20m，深さ 0.9m・Ｐ２－0.22m，深さ 0.11m・Ｐ３－径 0.25m，深さ 0.14m・Ｐ４－径 0.21m，深さ 0.18m・Ｐ５－径 0.22m，深さ 0.14m・Ｐ６－径 0.25m，深さ 0.19m・Ｐ７－径 0.27m，深さ 0.13m・Ｐ８－径 0.33m，深さ 0.30m・Ｐ９－径 0.26m，深さ 0.13m・Ｐ10－径 0.22m，深さ 0.24m・Ｐ11－径 0.24m，深さ 0.13m・Ｐ12－径 0.32m，深さ 0.14m・Ｐ13－径 0.16m，深さ 0.08m・Ｐ14－径 0.26m，深さ 0.10m・Ｐ15－径 0.19m，深さ 0.12m・Ｐ16－径 0.49m，深さ 0.08m・Ｐ17－径 0.32m，深さ 0.27m・Ｐ18－径 0.23m，深さ 0.09m・Ｐ19－径 0.18m，深さ 0.11m・Ｐ20－径 0.29m，深さ 0.11m・Ｐ21－径 0.25m，深さ 0.10m・Ｐ22－径 0.24m，深さ 0.10m・Ｐ23－径 0.22m，深さ 0.11m・Ｐ24－0.80m，深さ 0.10m・Ｐ25－径 0.22m，深さ 0.10m・Ｐ26－径 0.36m，深さ 0.13m・Ｐ27－径 0.21m，深さ 0.09m・Ｐ28－径 0.28m，深さ 0.16m・Ｐ29－径 0.28m，深さ 0.11m・Ｐ30－径 0.38m，深さ 0.06m・Ｐ31－径 0.22m，深さ 0.17m・Ｐ32－径 0.35m，深さ 0.14m・Ｐ33－径 0.30m，深さ 0.27m・Ｐ34－残存部径 0.79m，深さ 0.11m・Ｐ35－径 0.35m，深さ 0.11m・Ｐ36－径 0.28m，深さ 0.20m・Ｐ37－径 0.34m，深さ 0.15m・Ｐ38－径 0.33m，深さ 0.16m・Ｐ39－径 0.28m，深さ 0.22m・Ｐ40－径 0.43m，深さ 0.29m・Ｐ41－径 0.25m，深さ 0.12m・Ｐ42－径 0.30m，深さ 0.09m・Ｐ43－径 0.23m，深さ 0.17m・Ｐ44－径 0.26m，深さ 0.13m・Ｐ45－0.24m，深さ 0.06m・Ｐ46－径 0.34m，深さ 0.07m・Ｐ47－径 0.19m，深さ 0.16m・Ｐ48－径 0.28m，深さ 0.17m・Ｐ49－径 0.26m，深さ 0.07m・Ｐ50－径 0.22m，深さ 0.07m・Ｐ51－径 0.31m，深さ 0.13m・Ｐ52－径 0.25m，深さ 0.21m・Ｐ53－径 0.23m，深さ 0.13m・Ｐ54－径

0.28m，深さ0.20m・P55－径0.43m，深さ0.22m・P56－径0.25m，深さ0.14m・P57－径0.24m，深さ0.17m・P58－径0.25m，深さ0.10m・P59－径0.26m，深さ0.15m・P60－径0.23m，深さ0.18m・P61－径0.43m，深さ0.10m・P62－径0.28m，深さ0.17m・P63－径0.24m，深さ0.09m・P64－径0.25m，深さ0.14m・P65－径0.43m，深さ0.24m・P66－径0.25m，深さ0.21m・P67－径0.25m，深さ0.28m・P68－径0.50m，深さ0.17m・P69－径0.26m，深さ0.13m・P70－径0.25m，深さ0.08m・P71－径0.31m，深さ0.07m・P72－径0.30m，深さ0.14m・P73－径0.67m，深さ0.14m・P74－径0.20m，深さ0.10m・P75－径0.23m，深さ0.16m・P76－径0.23m，深さ0.20m・P77－径0.27m，深さ0.08m・P78－径0.27m，深さ0.12m・P79－径0.25m，深さ0.13m・P80－径0.62m，深さ0.15m・P81－径0.30m，深さ0.16m・P82－径0.25m，深さ0.18m・P83－径0.20m，深さ0.08m・P84－径0.25m，深さ0.26m・P85－径0.25m，深さ0.20m・P86－径0.23m，深さ0.22m・P87－径0.30m，深さ0.16m・P88－径0.28m，深さ0.10m・P89－径0.17m，深さ0.11m・P90－径0.20m，深さ0.07m・P91－径0.31m，深さ0.09m・P92－径0.23m，深さ0.12m・P93－径0.25m，深さ0.22m・P94－径0.19m，深さ0.12m・P95－径0.23m，深さ0.07m・P96－径0.41m，深さ0.12m・P97－径0.24m，深さ0.09m・P98－径0.33m，深さ0.10m・P99－径0.29m，深さ0.06m・P100－径0.36m，深さ0.16m・P101－径0.30m，深さ0.13m・P102－径0.47m，深さ0.23m・P103－径0.48m，深さ0.15m・P104－径0.30m，深さ0.09m・P105－径0.20m，深さ0.12m・P106－径0.14m，深さ0.09m・P107－径0.22m，深さ0.21m・P108－径0.58m，深さ0.15m・P109－径0.26m，深さ0.16m・P110－径0.21m，深さ0.19m・P111－0.23m，深さ0.25m・P112－径0.22m，深さ0.10m・P113－径0.22m，深さ0.14m・P114－径0.18m，深さ0.20m・P115－径0.20m，深さ0.09m・P116－径0.19m，深さ0.17m・P117－径0.26m，深さ0.10m・P118－径0.30m，深さ0.30m

遺構外遺物

調査区内の竪穴建物跡埋土や床構築土中から縄文時代の遺物が僅かに出土している。本遺跡の立地する沖積段丘上では縄文時代の遺構・遺物の発見は極めて少ないが，過去の調査で縄文時代晩期を中心とする遺構が確認されている。本調査で縄文土器の破片が出土したのは，ＲＡ683・686竪穴建物跡であり，いずれも周辺からの流入とみられる。

出土遺物（第54図8）　８は縄文時代晩期の深鉢で，頸部～体部上半である。頸部は無文で，体部にはＬＲ単節縄文を横位に施す。外面には煤状炭化物，内面には輪積痕が観察される。

Ⅲ　調査のまとめ

台太郎遺跡第80次調査の結果，奈良時代の竪穴建物跡４棟（ＲＡ671～673・679），土坑２基（ＲＤ2186・2187），平安時代の竪穴建物跡 27 棟（ＲＡ674～678・680～701），掘立柱建物跡１棟（ＲＢ142），土坑５基（ＲＤ2188～2192），古代以降の土坑 20 基（ＲＤ2193～2212），溝跡７条（ＲＧ616～622），ピット 118 口が検出された。

遺構・遺物

奈良時代

奈良時代の竪穴建物跡は調査区中央から北に点在し，出土遺物から８世紀中葉の年代が考えられるのは，ＲＡ673・679 竪穴建物跡である。また，８世紀後葉（もしくは８世紀後葉～９世紀前葉）と考えられるのは，ＲＡ671・672 竪穴建物跡である。その後の９世紀代の竪穴建物群の構築によって住居の平面形が確認できるのは，ＲＡ673 竪穴建物跡のみである。規模は一辺 2.4mの小型住居で，カマドは北西方向に構築され，本遺跡で検出されている奈良時代の竪穴建物跡の主たるカマド方向と共通する。カマド基底部は礫を構築材として使用し，煙道は刳り貫き式のトンネル状である。

出土遺物や遺構の重複関係から奈良時代（８世紀）と考えられる土坑はＲＤ2186・2187 である。ＲＤ2186 土坑の底面には土師器甕が倒立の状態で埋設し，その周辺には熱浸透層が認められ，土坑内で火を焚いた可能性が考えられる。ＲＤ2187 土坑からは土師器坏・甕とともに土製紡錘車が出土している。

平安時代

平安時代の竪穴建物跡は，調査区内のほぼ全域に広がっている。９世紀中葉と考えられるのは，ＲＡ682・695・697・699・700 の５棟である。規模は小型住居のＲＡ695 竪穴建物跡が一辺 2.4～2.9m，中型住居のＲＡ682・697・699・700 竪穴建物跡が一辺 3.0～4.3mである。ＲＡ700 竪穴建物跡は東西に煙道があり，カマドの造り替え（西→東）が認められる。カマド方向は，北西カマドがＲＡ682・700（Ⅱ期）竪穴建物跡，西カマドがＲＡ695・697 竪穴建物跡，東カマドはＲＡ700（Ⅰ期）竪穴建物跡，またＲＡ697 竪穴建物跡はカマド未検出であるが，建物内のカマド崩壊土から東カマドと想定される。ＲＡ682・695 竪穴建物跡のカマド基底部は小礫を構築材として使用している。ＲＡ700 竪穴建物跡は壁際の一部に周溝があり，カマドの煙道は刳り貫き式のトンネルである。

９世紀中葉～後葉の年代が考えられる竪穴建物跡は，ＲＡ681・691・693・696 の４棟である。規模は小型住居のＲＡ696 竪穴建物跡が一辺 2.6～3.0m，中型住居のＲＡ681・691・693 竪穴建物跡が一辺 3.8～4.8mである。カマド方向が確認できるのは，北西カマドのＲＡ696 竪穴建物跡のみであるが，ＲＡ693 竪穴建物跡内のカマド火床面の可能性がある熱浸透層の位置と建物の平面形から北西カマドと想定される。いずれもカマドは人為的に壊されている。ＲＡ696 竪穴建物跡の床構築土を精査中に北東隅の床面下からピットを検出し，その底面には炭化物とともに須恵器長頸瓶の口縁部～頸部を伏せて埋納した事例が確認された。住居内の埋納方角，床下に存在することから建物構築時の地鎮と考えられる。

９世紀後葉と考えられる竪穴建物跡は，ＲＡ674・675・676・677・678・680・683・

684・686・687・690・692・694・701 の 14 棟で，本調査で検出した竪穴建物の主体を占める。8 世紀中葉から 9 世紀中葉にかけて，竪穴建物跡の重複は認められないが，9 世紀後葉になると重複が認められ，とくに調査区北では重複が激しい。規模は中型住居のＲＡ674・675・676・677・678・683・690・692・694・701 竪穴建物跡が一辺 3.2～6.1ｍ，大型住居のＲＡ680・686・687 竪穴建物跡が一辺 6.1～8.3ｍである。一辺 3.0ｍ未満の小型住居は確認されない。カマド方向は，東カマドがＲＡ674・675・677・683 竪穴建物跡，南東カマドがＲＡ678・686 竪穴建物跡，北東カマドがＲＡ687 竪穴建物跡，北西カマドがＲＡ690 竪穴建物跡，北カマドがＲＡ694 竪穴建物跡，西カマドがＲＡ701 竪穴建物跡と多岐にわたる。このうち，ＲＡ677・678・683・686・687・701 竪穴建物跡はカマド基底部が残存し，ＲＡ678 竪穴建物跡は構築材として礫と土師器甕，ＲＡ683・686・687 竪穴建物跡は礫を使用している。基底部が残存しないカマドは意図的に壊していると考えられる。ＲＡ676・677 竪穴建物跡は，床面近くに炭化した建築部材や多量のカーボンを含む焼土層が一面に広がっており，焼失家屋の可能性が考えられる。ＲＡ675 竪穴建物跡から墨書で「木」と記された土師器坏が出土している。この「木」銘墨書・刻書土器は第18・23・51・54次調査でも出土しており，本遺跡を代表する文字とされている。南に位置する細谷地遺跡では「大」，西側に位置する本宮熊堂Ｂ遺跡では「成」の文字が出土し，これらは他の遺跡で出土していないことが挙げられる。また，主柱穴のピット２には柱材が残存し，残存長 71.5cm，最大径８cm で，先端部を削って尖らせている。樹種は未鑑定で不明である。

9 世紀後葉～10 世紀初頭の年代が考えられるのは，ＲＡ688 竪穴建物跡である。十和田ａ火山灰（西暦 915 年降灰）と考えられる灰白色火山灰が，二次堆積であるが埋土上層から床面までの各層に含まれている。隣接する遺構との切り合い関係では，ＲＡ685 竪穴建物跡（９世紀代）とＲＡ686 竪穴建物跡（９世紀後葉）より新しい。規模は一辺５ｍ前後の中型住居で，カマドは検出されていないがカマド火床面の可能性がある熱浸透層の位置と建物の平面形から西もしくは南西カマドと想定される。

調査区南で 9 世紀と考えられるＲＢ142 掘立柱建物跡を検出している。１×１間の東西棟で，北北西に傾きをもつ。同様の傾きのある竪穴建物跡は周辺では認められず，建物の性格も不明である。9 世紀の年代が考えられる土坑はＲＤ2188・2189・2190・2191・2192 の５基で，調査区中央から北に分布する。規模やタイプは多岐にわたり，個々の用途は異なっていると考えられる。

古代以降　ＲＡ673 竪穴建物跡の最終堆積層から流れ込みと考えられる手捏ねのかわらけ破片が出土し，年代は 12 世紀と考えられる。12 世紀後半には遺跡南東部で堀跡による区画施設が営まれ，遺跡北東部では経塚の経筒外容器の可能性がある渥美産の灰釉小型壺が出土しており，それらとの関連性が考えられる。

ま と め　調査事例の少ない遺跡東部での調査で，奈良時代（８世紀中葉～後葉），平安時代（９世紀中葉～10 世紀初頭）の竪穴建物跡が合計 31 棟確認され，総数 700 棟を超えた。本調査では平安時代の複数の竪穴建物跡が重なり合っており，建物跡が密集する遺跡西部，中央～北部と同様な傾向が認められ，遺跡東部の集落の様相を明らかにできた。

表

				形態		出土		寸法(cm)※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		器種等・特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	口径・体径・底径 / 器高・口径・体径	口径・器高		外面	内面	
40	1	12	RA671	土師器	坏	F-1・X8	B	3.2	10.6	-	-	/	3.3	ヘラミガキ、黒色処理 ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理 体部下端ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	底面、非ロクロ、独土に墨痕者と
40	2	12	″	土師器	甕	F-1・X6	B	-	17.6	15.8	-	1.1	/	—	口縁部ヨコナデ ヘラケズリ 体部ヘラケズリ 粗面・ヘラミガキ 未定	口縁部ヘラナデ	口縁部、独土に墨痕者と、輪積痕、外面煤状炭化物
40	3	12	RA672	土師器	甕	貯蔵穴、F-1・V9	D	-	21.0	20.6	-	1.0	/	—	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
40	4	12	″	土師器	甕	F-1・W9	B	-	27.2	24.2	-	1.1	/	—	体部上半ハケメ	口縁部一体部上半ハケメ	輪積痕
40	5	12	RA673	土師器	坏	G-1・I12	床面	4.7	16.0	-	-	/	3.4	丸底	上半部ハケメ ヘラミガキ 体部下半ヘラケズリ、粗面	ヘラミガキ、黒色処理	底面、図分中下厚式、非ロクロ
40	6	15	″	かわらけ	—	G-1・I12	A	-	9.4	-	-	/	/	—	体部下半ヘラケズリ	—	12世紀、手づくね
40	7	12	″	土師器	小型鍋	ガマ底面、G-1・H12	K1	-	16.0	17.2	-	0.9	/	—	口縁部ナデ、体部ハケメ ヘラケズリ ヘラミガキ 粗面	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ ヘラナデ	底面、独土に墨痕者と、輪積痕、内外面煤状炭化物
40	8	12	″	土師器	甕	G-1・I12	L	27.7	18.7	17.4	6.7	1.1	0.7	木葉痕	口縁部ナデ、体部ハケメ ヘラミガキ 粗面	口縁部ナデ、体部ヘラナデ	底面
41	1	12	RA679	土師器	坏	G-1・D5	C	5.8	9.1	-	-	/	1.6	丸底、ヘラナデ、指痕「十」	上半部ハケメ ヘラミガキ 体部下半ハケメ ヘラケズリ、粗面	ヘラミガキ、黒色処理	底面、図分中下厚式、非ロクロ
41	2	12	″	土師器	坏	G-1・C6	B	4.6	16.8	-	-	/	3.7	丸底、ヘラケズリ	上半部ハケメ ヘラミガキ 体部下端ヘラケズリ、粗面	ヘラミガキ、黒色処理	底面、図分中下厚式、非ロクロ
41	3	12	″	土師器	坏	G-1・D5	B	4.3	14.8	-	8.3	1.8	3.4	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理	底面、非ロクロ
41	4	12	″	土師器	甕	G-1・C6	B	20.3	16.7	14.5	6.9	1.2	0.8	刺殺	口縁部ナデ ヘラミガキ、体部ハケメ	口縁部ナデ、体部ハケメ	底面、輪積痕
41	5	12	″	土師器	甕	G-1・D6	B	-	15.0	14.4	-	1.0	/	—	口縁部ハケメ ナデ、体部ハケメ ヘラミガキ、粗面	口縁部ヘラナデ ハケメ	底面、輪積痕
41	6	12	RA674	あかやき土器	坏	Pit.2、F-1・V9	埋土	4.8	-	-	5.2	/	/	回転糸切無調整	—	—	全体に煤減
41	7	12	″	土師器	坏	F-1・W8	L	5.5	14.8	-	5.5	2.7	2.7	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ、黒色処理 (一部黒ナビ)	全体に煤減
41	8	12	″	土師器	高台付坏	貯蔵穴、F-1・V7	F	5.5	8.0	-	6.4	1.3	1.5	菊花文	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラミガキ、黒色処理	
41	9	12	″	あかやき土器	小型甕	貯蔵穴、F-1・V7	D	8.1	10.8	10.6	5.5	1.0	1.3	回転糸切無調整	—	—	全体に煤状炭化物
42	1	12	RA675	あかやき土器	坏	貯蔵穴12、F-1・W6	G1	5.4	14.0	-	5.0	2.8	2.6	回転糸切無調整	—	—	
42	2	12	″	あかやき土器	坏	F-1・W4	L2	5.3	14.2	-	5.3	2.7	2.7	回転糸切無調整	—	—	
42	3	12	″	あかやき土器	坏	F-1・W5	L1	5.4	14.8	-	5.5	2.7	2.7	回転糸切無調整	—	—	全体に煤減
42	4	12	″	あかやき土器	坏	F-1・V5	D2	4.4	14.1	-	5.5	2.6	3.2	回転糸切無調整	—	—	
42	5	12	″	あかやき土器	坏	F-1・W6	A2	5.9	16.3	-	7.1	2.3	2.8	回転糸切無調整	—	—	
42	6	12	″	あかやき土器	坏	貯蔵穴12、F-1・W6	G1	5.0	15.3	-	6.5	2.4	3.1	回転糸切無調整	—	—	
42	7	12	″	あかやき土器	坏	F-1・W6	A1	5.8	(14.1)	-	5.7	(2.5)	(2.4)	回転糸切無調整	—	—	
42	8	12	″	土師器	坏	F-1・V5	L1	5.1	14.0	-	4.6	3.0	2.7	手持ヘラケズリ	体部下端手持ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理 (一部黒ナビ)	
42	9	12	″	土師器	坏	F-1・V8	L2	5.4	13.8	-	6.2	2.2	2.5	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ、黒色処理 (黒ナビ)	
42	10	12	″	土師器	坏	Pit.6、F-1・W5	N	4.9	13.6	-	6.0	2.3	2.8	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ、黒色処理	外面墨書「木」
42	11	12	″	土師器	坏	F-1・W5	B1	5.1	14.4	-	6.1	2.4	2.8	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ、黒色処理	
42	12	12	″	土師器	坏	F-1・V5	A	4.8	14.0	-	5.8	2.4	2.9	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ、黒色処理 (黒ナビ)	
42	13	12	″	土師器	高台付坏	F-1・X8	床面	-	-	-	7.7	/	/	菊花文	—	ヘラミガキ、黒色処理	
42	14	12	″	土師器	高台付坏	F-1・W5	床面	-	13.0	-	-	/	/	菊花文	—	ヘラミガキ、黒色処理	
42	15	12	″	須恵器	蓋	ガマ下、F-1・X5	J5	-	-	16.0	10.0	/	/	—	体部下半ヘラケズリ	—	
43	1	-	RA676	あかやき土器	坏	G-1・C6	C	5.4	14.2	-	-	/	2.8	糸底	—	—	
43	2	13	″	あかやき土器	坏	G-1・A6	A	4.4	13.1	-	6.2	2.1	3.0	回転糸切無調整	—	—	外面タール状付着物
43	3	13	″	土師器	坏	No.1、F-1・V8	床面	-	-	-	5.8	/	/	ヘラナデ	体部下半回転ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	
43	4	13	″	土師器	坏	No.2、G-1・A8	床面	6.1	14.8	-	7.2	2.1	2.4	刺殺「十」、ヘラナデ	体部下端ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理 (黒ナビ)	
43	5	13	″	土師器	坏	G-1・B6	C	5.5	16.4	-	6.4	2.6	3.0	回転ヘラケズリ	—	ヘラミガキ、黒色処理	独土に墨痕者と
43	6	13	″	土師器	甕	No.3、G-1・A8	床面	-	17.4	18.2	-	1.0	/	—	口縁部ナデ、体部ヘラナデ ヘラケズリ	口縁部ナデ、体部ヘラナデ	
43	7	13	″	須恵器	長頸瓶	G-1・C8	C	-	11.1	14.6	-	0.8	/	—	—	—	内外面自然釉
43	8	13	″	須恵器	長頸瓶	Pit.3、F-1・Y8	E2	-	11.2	18.8	-	0.6	/	—	体部下半ヘラケズリ	—	内外面煤状炭化物
44	1	13	RA677	土師器	坏	埋溝、G-1・B5	J2	4.4	13.9	-	6.2	2.2	3.2	ヘラケズリ	—	ヘラミガキ、黒色処理 (一部黒ナビ)	全体に煤減、独土に墨痕者と
44	2	13	″	土師器	坏	貯蔵穴1、G-1・B5	C2	6.9	16.4	-	5.2	3.2	2.4	回転糸切無調整	ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理	
44	3	13	″	土師器	坏	G-1・B5	B	5.0	13.9	-	6.5	2.1	2.8	回転糸切+ヘラケズリ	体部下端手持ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理 (一部黒ナビ)	独土に墨痕者と
44	4	13	″	土師器	坏	Pit.1、G-1・B5	E1	-	-	-	6.5	/	/	ヘラナデ	体部下端ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	
44	5	13	″	土師器	甕	埋出し、G-1・C5	J8	-	-	20.2	10.7	/	/	砂底	体部下半ヘラケズリ	体部下半ヘラナデ	
44	6	13	″	土師器	甕	埋出し、G-1・C5	J5	-	-	23.8	13.8	/	/	砂底	体部下半ヘラケズリ	体部下半ヘラナデ	
44	7	13	″	須恵器	長頸瓶	G-1・B5	A	25.0	10.4	18.4	7.9	0.6	0.4	—	体部下半ヘラケズリ	—	外面自然釉、内外面煤付ハジク
44	8	13	″	須恵器	長頸瓶	G-1・B5	C	-	-	19.6	8.8	/	/	—	体部下半ヘラケズリ	—	外面自然釉
44	9	13	″	須恵器	小型壺	F-1・Y5	L	-	7.0	10.4	-	0.7	/	—	—	—	
45	1	13	RA678	土師器	小型鍋	ガマ下底部、G-1・F	J	12.5	15.4	14.8	8.4	1.0	1.2	砂底	口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ナデ、体部ハケメ	
45	2	13	″	土師器	甕	ガマ下底部、G-1・F	J	-	-	-	8.8	/	/	砂底	体部下半ナデ	体部下半ハケメ	

第２表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　古代土器（１）

				形態		出土		寸法(cm)※完形・復元のみ						底部切離等	器面調整		胎土等・特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	最高	口径	体径	底径	胴-口径/体径 最-口径/体径	口径/最高		外面	内面	
45	3	13	RA67E	土師器	甕	カマド, G-1-H7	J3	31.1	21.0	23.1	10.5	0.9	0.7	砂夜	□縦形ナデ, 体部ヘラケズリ	□縦形ヘラナデ, 体部ヘラナデ+ハケメ	輪積痕, 外面煤状炭化物
45	4	13	〃	土師器	甕	カマド, G-1-H7	J3	29.1	19.6	18.7	11.1	1.0	0.7	本葉痕	□縦形ナデ, 体部ハケメ+ヘラケズリ	□縦形ナデ, 体部ヘラナデ+ハケメ	内外面煤状炭化物
45	5	13	〃	土師器	甕	カマド, G-1-H7	K1	26.6	19.1	20.4	10.0	0.9	0.7	砂夜	□縦形ナデ, 体部ヘラケズリ	□縦形ナデ	
46	1	13	RA680	あかやき土器	坏	G-1-D6	L	5.7	14.8	–	5.5	2.7	2.6	回転糸切無調整	–	–	外面煤状炭化物, 全体に薄減
46	2	13	〃	土師器	坏	G-1-D6	J	5.0	14.6	–	6.9	2.1	2.9	ヘラナデ	–	ヘラミガキ, 黒色処理(一部剥ぎ)	
46	3	13	〃	土師器	甕	G-1-E6	A	28.1	17.2	22.0	10.5	0.8	0.6	本葉痕, ヘラケズリ	□縦形ナデ, 体部ヘラケズリ+ヘラナデ	□縦形ナデ+ヘラナデ, 体部ハケメ+ナデ	
46	4	13	〃	須恵器	大甕	G-1-D6	A	–	34.0	–	–	/	/	–	タタキ目(平行文)	タタキ目(平行文)	
46	5	13	RA681	土師器	坏	G-1-J5	C2	–	13.6	–	–	/	/	–	ヘラミガキ, 黒色処理	ヘラミガキ, 黒色処理	
46	6	13	〃	土師器	坏	G-1-J5	A	5.3	14.8	–	6.2	2.4	2.8	ヘラケズリ	体部下端ヘラケズリ	ヘラミガキ, 黒色処理	
46	7	13	RA682	須恵器	坏	G-1-K7	J	–	–	–	6.4	/	/	回転糸切無調整	–	–	
46	8	13	〃	須恵器	坏	G-1-K8	床面	–	15.4	–	–	/	/	–	–	–	
46	9	13	〃	須恵器	坏	G-1-L7	B1	4.9	14.2	–	5.5	2.6	2.9	回転糸切無調整	–	–	
46	10	13	〃	須恵器	坏	G-1-L8	A1	–	–	–	5.8	/	/	回転糸切無調整	–	–	
46	11	13	〃	あかやき土器	坏	カマド直南, G-1-K7	K	5.0	12.8	–	5.4	2.4	2.6	回転糸切無調整	口縦形下ヘラけずり	ヘラミガキ, 黒色処理(一部剥ぎ)	外面やや煤減
46	12	13	〃	あかやき土器	小型甕	カマド直南, G-1-K7	J	–	16.2	17.0	–	1.0	/	–	体部下半ヘラケズリ	–	内面煤状炭化物
46	13	13	〃	あかやき土器	甕	カマド右南, G-1-K7	K	–	22.8	20.4	–	1.1	/	–	–	体部上半カキメ	
46	14	13	〃	土師器	甕	G-1-K7	B2	–	21.0	–	–	/	/	–	口縦形ナデ, 体部上半ヘラナデ	口縦形～体部上半ヘラナデ	全体に薄減
47	1	13	RA683	あかやき土器	坏	P4.4, F-1-Y15	G	4.8	14.8	–	5.5	2.7	3.1	回転糸切無調整	–	–	
47	2	13	〃	あかやき土器	坏	P4.5, F-1-Y15	G	4.5～4.8	14.2	–	5.0	2.8	3.0～3.2	回転糸切無調整	–	–	口縁部歪み
47	3	13	〃	あかやき土器	高台付坏	G-1-A9	J	5.8	16.8	–	7.6	2.2	2.9	–	–	–	
47	4	13	〃	土師器	坏	煙道, G-1-A9	J7	4.4	14.0	–	6.2	2.3	3.2	回転糸切無調整	–	ヘラミガキ, 黒色処理	歪曲
47	5	13	〃	土師器	坏	貯蔵穴, G-1-A9	F	5.3	14.1	–	6.2	2.3	2.7	ヘラケズリ	–	ヘラミガキ, 黒色処理(一部剥ぎ)	外面煤状炭化物
47	6	13	〃	土師器	坏	F-1-Y9	E	4.7	14.4	–	6.2	2.3	3.1	回転糸切後ヘラケズリ再調整	–	ヘラミガキ, 黒色処理	
47	7	13	〃	土師器	坏	G-1-A9	L	6.6	17.1	–	5.7	3.0	2.6	ヘラミガキ, 黒色処理	ヘラミガキ, 黒色処理	ヘラミガキ, 黒色処理	
47	8	13	〃	土師器	甕	G-1-A9	E	30.0	19.2	20.9	11.0	0.9	0.6	本葉痕	□縦形ナデ, 体部ヘラケズリ	□縦形ナデ, 体部ヘラナデ	
47	9	13	〃	須恵器	蓋	G-1-A10	L	–	–	25.8	–	/	/	–	体部下半ヘラケズリ	体部上半ヘラナデ, 体部下端ヘラズリ+ナデ	
47	10	–	RA685	あかやき土器	小型甕	F-1-C8	L	–	–	–	6.6	/	/	回転糸切無調整	–	–	
48	1	14	RA686	須恵器	坏	G-1-F8	L	5.2	14.2	–	6.1	2.3	2.7	回転糸切無調整	–	–	重ね焼き痕
48	2	14	〃	須恵器	坏	G-1-G8	L	4.4	15.6	–	5.5	2.8	3.5	回転糸切無調整	–	–	
48	3	14	〃	須恵器	坏	G-1-G11	L	4.9	14.9	–	4.7	3.2	3.0	回転糸切無調整	–	–	重ね焼き痕
48	4	14	〃	須恵器	坏	G-1-G11	B	4.5	(14.2)	–	6.2	(2.3)	(3.2)	回転糸切後ヘラナデ再調整	–	–	
48	5	14	〃	土師器	坏	G-1-G8	L	–	–	–	6.0	/	/	粘土ナシ, 回転糸切無調整	–	ヘラミガキ, 黒色処理	
48	6	14	〃	土師器	坏	G-1-F10	A	5.3	13.6	–	5.6	2.4	2.6	回転糸切無調整	ヘラミガキ	ヘラミガキ, 黒色処理	
48	7	14	〃	土師器	甕	Pit.12, G-1-E11	G	–	24.0	21.6	–	1.1	/	–	□縦形ナデ, 体部ヘラケズリ	□縦形ナデ, 体部ヘラナデ	内面須成形の粘土貼付痕極薄
49	1	14	RA687	須恵器	坏	G-1-H10	煙孔	4.6	14.2	–	6.1	2.3	3.1	回転糸切無調整	–	–	重ね焼き痕
49	2	14	〃	あかやき土器	坏	G-1-K10	L	5.3	(13.4)	–	6.0	(2.2)	(2.5)	回転糸切無調整	–	–	全体に薄減
49	3	14	〃	あかやき土器	坏	G-1-J9	A2	5.1	13.8	–	(6.0)	(2.3)	2.7	回転糸切無調整	–	–	内面煤状炭化物, 全体に薄減
49	4	14	〃	あかやき土器	坏	G-1-K9	A2	(4.7)	(12.2)	–	5.8	(2.1)	(2.6)	回転糸切無調整	–	–	
49	5	14	〃	あかやき土器	坏	G-1-J10	煙土	5.1	12.0	–	5.6	2.1	2.4	回転糸切無調整	–	–	全体に薄減
49	6	14	〃	あかやき土器	小型甕	G-1-J9	A2	–	16.0	16.4	–	1.0	/	–	–	–	
49	7	14	〃	あかやき土器	甕	煙道, G-1-K9	J6	–	12.0	(23.2)	–	(0.6)	/	–	–	–	
49	8	14	〃	土師器	甕	No.1, G-1-J8	床面	–	20.0	17.8	–	1.2	/	–	□縦形ナデ, 体部ヘラケズリ	□縦形ナデ, 体部ヘラナデ	
49	9	14	RA688	土師器	坏	G-1-E9	D2	4.4	14.6	–	7.1	2.1	3.3	ヘラナデ	体部下端ヘラケズリ	ヘラミガキ, 黒色処理	内面煤状炭化物
49	10	14	〃	土師器	坏	G-1-C10	L	–	16.0	–	–	/	/	–	–	ヘラミガキ, 黒色処理(一部剥ぎ)	
49	11	14	〃	土師器	高台付坏	G-1-D10	B2	4.6	12.6	–	7.1	1.8	2.7	菊花文	–	ヘラミガキ, 黒色処理	
50	1	14	RA690	あかやき土器	坏	貯蔵穴, G-1-B14	D	5.1	14.4	–	5.8	2.5	2.8	回転糸切無調整	–	–	
50	2	14	〃	あかやき土器	坏	貯蔵穴, G-1-B14	D	–	15.2	–	–	/	/	–	–	–	
50	3	14	〃	あかやき土器	坏	G-1-A16	C	5.2	14.1	–	4.9	2.9	2.7	回転糸切無調整	–	–	口縁部歪み, 全体に薄減
50	4	14	〃	土師器	坏	貯蔵穴, G-1-B14	D	5.1	14.0	–	6.1	2.3	2.7	薄減	–	ヘラミガキ, 黒色処理	外面薄減
50	5	14	〃	土師器	小型甕	G-1-B14	L	–	10.0	9.8	–	1.0	/	–	□縦形ナデ, 体部上半ヘラケズリ	□縦形～体部上半ヘラナデ	内面煤状炭化物
50	7	14	RA692	あかやき土器	坏	G-1-L14	A	–	13.8	–	–	/	/	–	–	–	

第３表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　古代土器（２）

				形態		出土		寸法(cm)※完形・復元のみ					底部切離等	整面調整		器種等・特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	口径・体径		外面	内面	
												胴・口径・体径				
												最・口径・体径				
50	8	14	RA692	あかやき土器	坏	G-1-L14	A	-	14.4	-	-	/	/	—	—	—	
50	9	14	〃	須恵器	坏	G-1-L14	A	-	-	-	6.6	/	/	回転糸切無調整	—	—	
50	10	14	〃	土師器	甕	Pit2, G-1-L14	D2	-	19.0	(29.0)	-	1.0	/	—	口縁部ナデ, 体部上半ヘラケズリ	—	内面摩滅
50	11	14	RA693	あかやき土器	坏	G-1-G18	A	-	13.6	-	-	/	/	—	—	—	
50	12	14	RA694	あかやき土器	坏	G-1-E17	A2	-	-	-	6.0	/	/	回転糸切無調整	—	—	
50	13	14	〃	土師器	高台付坏	G-1-F17	L	-	-	-	(5.8)	/	/	ナデ	—	—	内面摩滅
51	1	14	RA695	須恵器	坏	G-1-H16	J3	-	13.8	-	-	/	/	—	—	—	
51	2	14	〃	須恵器	坏	G-1-I16	A1	-	-	-	5.4	/	/	回転糸切無調整	—	—	
51	3	14	〃	あかやき土器	坏	G-1-I16	B	-	14.0	-	-	/	/	—	—	—	
51	4	14	〃	土師器	坏	Pit1, G-1-I16	F2	-	14.0	-	-	/	/	—	—	ヘラミガキ, 黒色処理	
51	5	14	〃	土師器	坏	Pit4, G-1-I16	F1	5.0	14.0	-	6.1	2.3	2.8	回転糸切無調整	口縁部下ヘラミガキ	ヘラミガキ, 黒色処理	
51	6	15	RA696	あかやき土器	坏	G-1-K16	L	4.9	13.6	-	4.6	3.0	2.8	回転糸切無調整	—	—	
51	7	-	〃	あかやき土器	鉢	G-1-K16	L	-	20.0	-	-	/	/	—	—	—	砂土に混母含む
51	8	15	〃	須恵器	長頸瓶	床下Pit1, G-1-H15	F	-	12.1	-	-	/	/	—	—	—	内外面自然釉
51	9	-	RA697	須恵器	坏	G-1-K18	床面	-	-	-	6.0	/	/	回転糸切無調整	—	—	
51	10	15	〃	須恵器	坏	G-1-K18	D2	5.4	15.2	-	6.0	2.5	2.8	回転糸切無調整	—	—	
51	11	-	〃	あかやき土器	坏	G-1-L18	L	5.0	13.2	-	(5.8)	(2.3)	2.8	回転糸切無調整	—	—	
51	12	15	〃	あかやき土器	坏	G-1-L19	L	4.4～4.2	14.1	-	4.5	3.1	2.7～3.2	回転糸切無調整	—	—	口縁部歪み
51	13	-	〃	あかやき土器	坏	G-1-J19	L	-	14.0	-	-	/	/	—	—	—	
51	14	15	〃	あかやき土器	坏	G-1-K19	A	4.7～5.3	13.0	-	5.2	2.5	2.5～2.8	回転糸切無調整	—	—	口縁部歪み, 全体に摩滅, 砂土に砂粒多く含む
51	15	15	〃	土師器	坏	G-1-K18	C	5.0	13.4	-	5.4	2.5	2.7	ヘラケズリ, 摩滅	体部下端ヘラケズリ	ヘラミガキ, 黒色処理(黒ナビ)	内面摩滅
51	16	15	〃	土師器	甕	G-1-L18	床面	-	24.4	22.8	-	1.1	/	—	口縁部ナデ, 体部上半ヘラケズリ	口縁部～体部上半ヘラナデ	
51	17	15	〃	土師器	甕	G-1-L18	J	-	16.5	17.0	-	1.0	/	—	口縁部ヘラナデ, 体部上半ヘラケズリ	口縁部～体部上半ヘラナデ	
51	18	-	RA698	あかやき土器	坏	G-1-B23	A2	-	-	-	6.3	/	/	摩滅	—	—	内外面摩滅
52	1	15	RA699	須恵器	坏	G-1-J24	B	4.3	14.4	-	6.5	2.2	3.3	回転糸切無調整	—	—	
52	2	15	〃	土師器	坏	G-1-K24	L	-	14.0	-	-	/	/	—	—	—	内外面摩滅
52	3	15	〃	土師器	坏	G-1-K24	B	-	-	-	4.6	/	/	ヘラケズリ, 重ね焼き痕	—	ヘラミガキ, 黒色処理(黒ナビ)	
52	4	15	〃	土師器	坏	G-1-K24	B	-	14.4	-	-	/	/	—	—	ヘラミガキ, 黒色処理	
52	5	15	〃	あかやき土器	甕	No.2, G-1-K24	床面	-	24.2	24.2	-	1.0	/	—	体部下半ヘラケズリ	体部上半カキメ	
52	6	15	〃	あかやき土器	甕	G-1-K24	B	-	19.9	18.4	-	1.1	/	—	体部上半カキメ	体部上半カキメ	
53	1	15	RA700	あかやき土器	坏	No.2, G1-F4	床面	6.0	14.6	-	5.2	2.8	2.4	回転糸切無調整	—	—	内外面煤状炭化物
53	2	15	〃	須恵器	坏	No.3, G1-D3	床面	7.0	15.6	-	6.6	2.4	2.2	回転糸切無調整	火襷	重ね焼き痕	
53	3	15	〃	あかやき土器	坏	G1-D3	B	4.9	13.4	-	5.4	2.5	2.7	回転糸切無調整	—	—	砂土に砂粒多く含む
53	4	15	〃	土師器	高台付坏	G1-F2	B	-	-	-	6.9	/	/	回転糸切無調整	—	ヘラミガキ, 黒色処理	
53	5	15	〃	あかやき土器	甕	埋出し, G1-D3	J'6	-	20.6	20.3	-	1.0	/	—	口縁部～体部上半カキメ, 体部下半ハケメ(ヘラケズリ)	体部下半ヘラケズリ	内外面煤状炭化物
53	6	15	〃	土師器	甕	G1-E3	C1	-	22.6	22.8	-	1.0	/	—	体部下半ヘラケズリ	ヘラミガキ, 黒色処理	内面摩滅
53	7	15	〃	土師器	小型甕	G1-D3	A	-	9.2	5.8	-	1.6	/	—	口縁部ナデ, 体部ヘラケズリ	ナデ	
53	8	15	〃	土師器	甕	No.1, G1-F3	床面	32.6	21.3	21.6	8.9	1.0	0.7	ナデ	口縁部ナデ, 体部ハケメ+ヘラナデ+ヘラケズリ	口縁部ナデ, 体部ヘラナデ	
52	7	-	RA701	あかやき土器	坏	G1-J2	B	-	14.8	-	-	/	/	—	—	—	内外面摩滅
52	8	-	〃	土師器	坏	G1-J3	J1	-	14.0	-	-	/	/	—	—	ヘラミガキ, 黒色処理	
52	9	15	〃	土師器	坏	貯蔵穴, G1-J2	E	5.3	13.6	-	5.0	2.7	2.6	回転糸切無調整	口縁部下ヘラミガキ	ヘラミガキ, 黒色処理	
52	10	15	〃	土師器	甕	Pit1, G1-J5	H1	-	17.6	16.4	-	1.1	/	—	口縁部ヘラナデ, 体部上半ヘラケズリ+ヘラミガキ	口縁部～体部上半ヘラナデ	
52	11	15	〃	土師器	甕	カマド焚土, G1-J4	J	-	-	19.9	11.8	/	/	ヘラケズリ	体部下半ヘラケズリ	体部下半ヘラナデ	内面煤状炭化物
52	12	15	〃	土師器	甕	G1-J4	D	-	23.0	23.8	-	1.0	/	—	口縁部ナデ, 体部上半ヘラケズリ	口縁部ナデ, 体部上半ヘラケズリ	内面摩滅(黒色)
54	1	15	RD2186	土師器	甕	F-1-H8	焼面	35.9	21.0	17.5	7.9	1.2	0.6	ヘラナデ	口縁部～体部ヨコナデ+ハケメ+ナデ, 体部～ハケメ+ハケメ+ヘラミガキ, 焼面	口縁部ナデ, 体部ハケメ	器面, 内面煤状炭化物, 輪積痕
54	2	16	RD2187	土師器	甕	F-1-W8	D	-	-	16.3	7.2	/	/	木葉痕+ヘラナデ	体部下半ハケメ	体部下半ヘラナデ	器面, 内面煤状炭化物, 輪積痕
54	3	16	〃	土師器	甕	F-1-W8	C	-	17.8	15.5	-	1.1	/	—	口縁部ハケメ+ナデ, 体部上半ハケメ+ヘラミガキ, 焼面	口縁部ナデ, 体部上半ハケメ	器面
54	5	15	RD2191	あかやき土器	坏	G-1-K12	B	4.3	14.4	-	6.2	2.3	3.3	回転糸切無調整	—	—	
54	7	15	RG621	あかやき土器	小型坏	G-1-F17	A	-	-	-	4.6	/	/	静止糸切無調整	—	—	
54	8	16	—	縄文土器	深鉢	F-1-Y10	C	-	-	-	-	/	/	—	L字状節縄文	—	縄文時代敲石, 外面煤状炭化物, 内面輪積痕

第４表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　古代土器・縄文土器（３）

				形態		出土		寸法(cm)※変形・復元のみ					底部切離等	器面調整		品番号・特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	胴:口径/体径 器:口径/体径	口径/体径	外面	内面	
41	10	12	RA674	土製品	ミニチュア土器	貯蔵穴, F-1~V7	E	－	－	3.3	2.8	/	/	ヘラミガキ, 押圧	－	
41	11	12	〃	土製品	ミニチュア土器	貯蔵穴, F-1~V7	E	1.2	1.5～3.0	－	－	/	/	－	－	赤彩

第５表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　土製品（１）

				形態		出土		寸法(cm)		形状	特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	全長	断面径		
41	12	12	RA674	土製品	土錘	貯蔵穴, F-1~V7	F	4.5	0.8～1.9	杏仁型	穿孔
54	4	16	RD2187	土製品	紡錘車	F-1~W8	A2	3.5～4.5	2.5	断面台形	側面, 中央穿孔, 全面ヘラミガキ

第６表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　土製品(２)

				形態		出土		寸法(cm)			特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	全長	最大幅	断面径	
42	16	15	RA675	石製品	砥石	F-1~W8	D2	18.4	8.2	4.6～7.2	短冊形, 4面磨面, 強砂質安山岩
49	12	15	RA688	石製品	砥石	G-1~D9	B	－	8.6	3.7～4.4	短冊形(破片), 2面磨面, 切創, 砂質凝灰岩
53	9	15	RA700	石製品	砥石	G1~F3	床面	16.1	5.4	3.7～5.4	短冊形, 4面使用痕, 切創, 砂質凝灰岩

第７表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　石製品

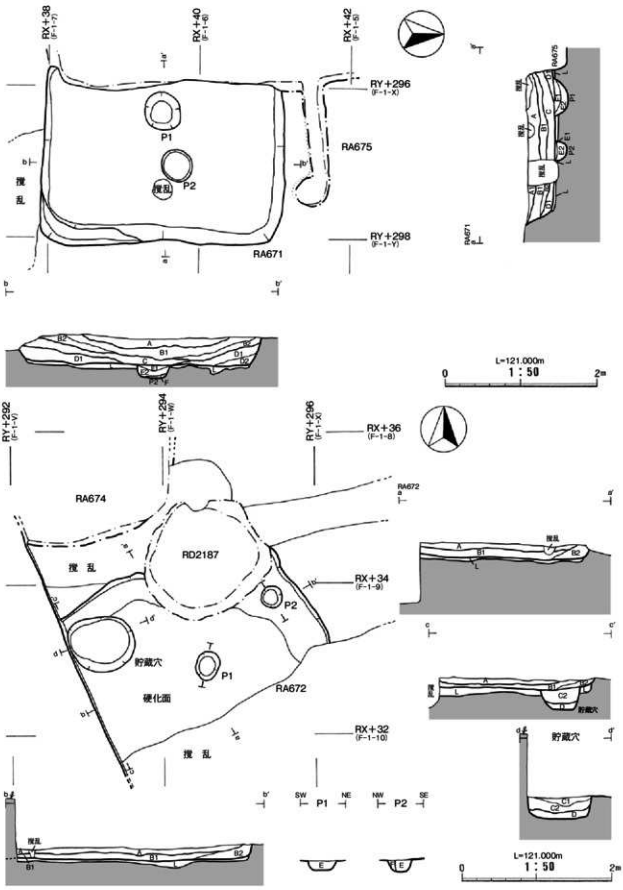
				形態		出土		寸法(cm)			特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	全長	最大幅	断面径	
50	6	14	RA691	鉄製品	小刀	G-1~F13	B	13.4	2.4	0.5	切先～刃部, 茎欠損

第８表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　鉄製品

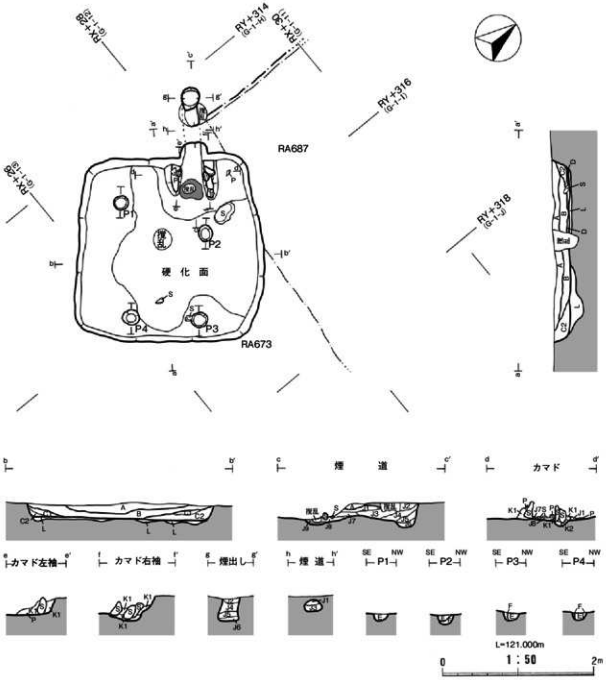
				形態		出土		寸法(cm)			特徴
図	番号	写真図版	遺構名	区分	器種	平面位置	層位	全長	最大幅	断面径	
54	6	16	RD2212	磁器	－	G1~J4	A2	2.8	2.8	1.2	朱付(「別直傾」(4面), 将棋駒状, 近世以降

第９表　台太郎遺跡第80次調査出土遺物観察表　磁器

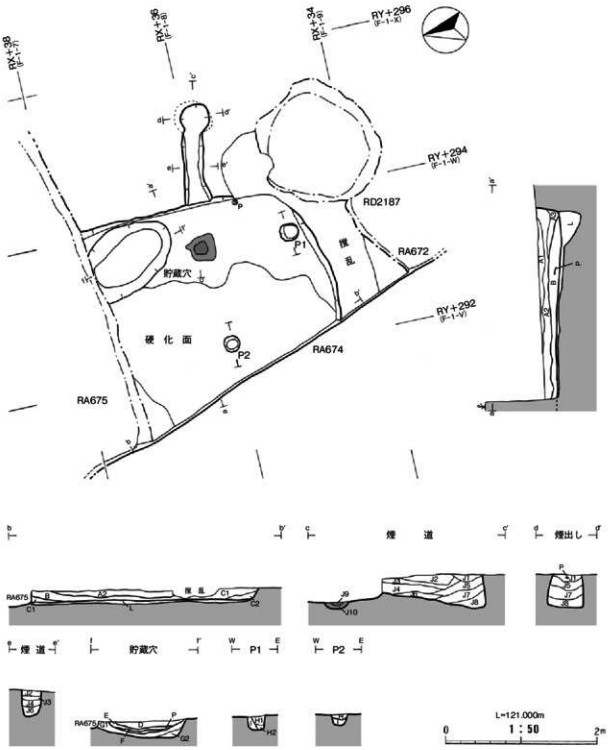
遺　構　図　版



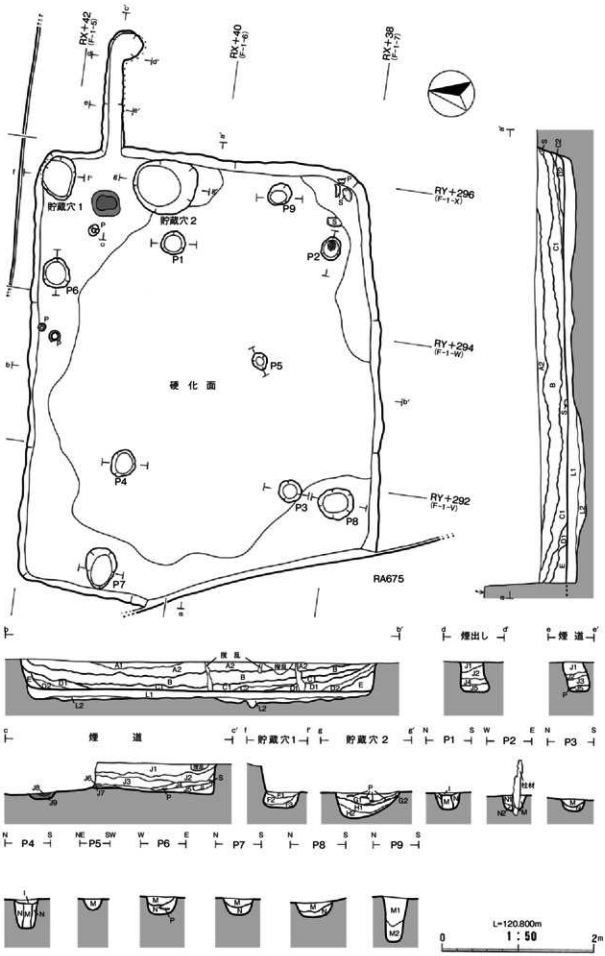
第6図　RA671・RA672 竪穴建物跡



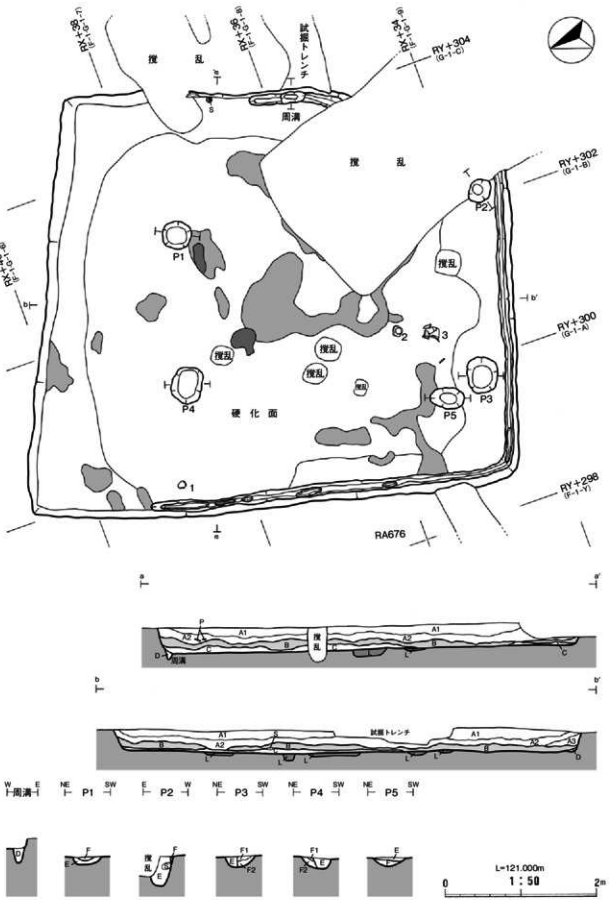
第７図　RA673 竪穴建物跡



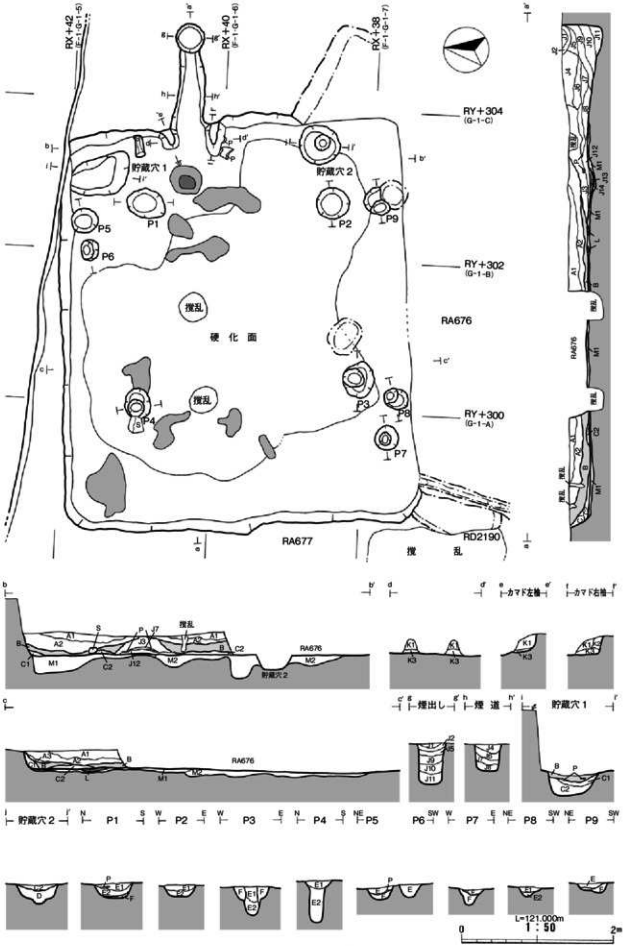
第8図　RA674 竪穴建物跡



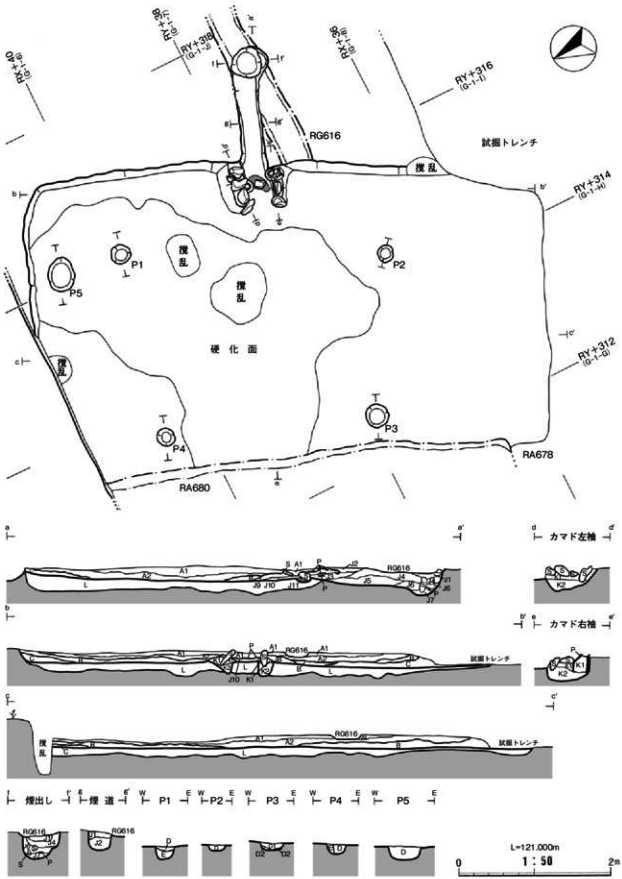
第9図　RA675 竪穴建物跡



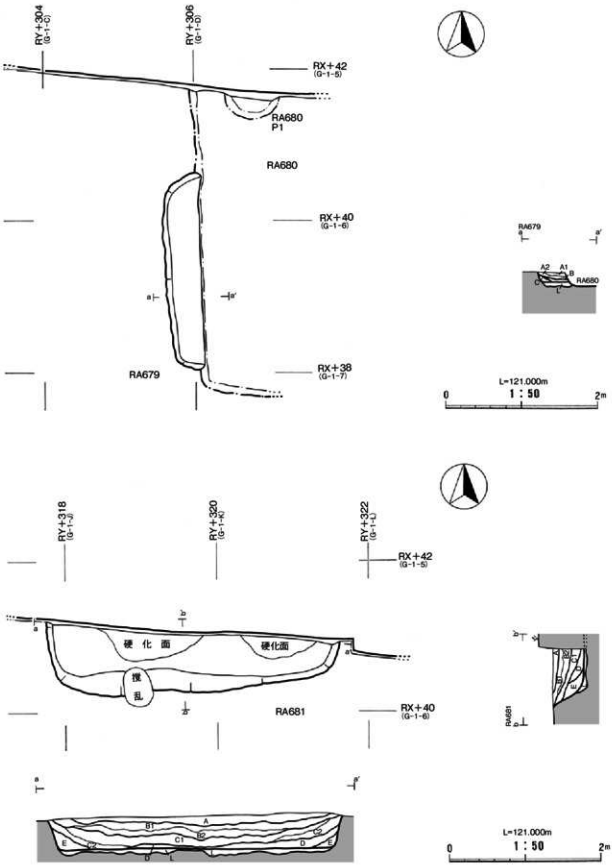
第10図　RA676 竪穴建物跡



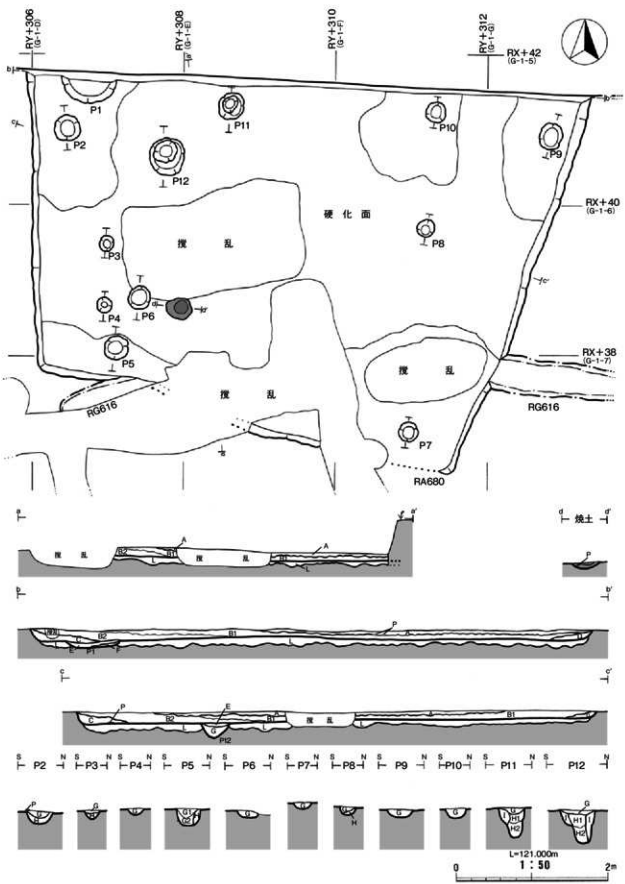
第11図　RA677 竪穴建物跡



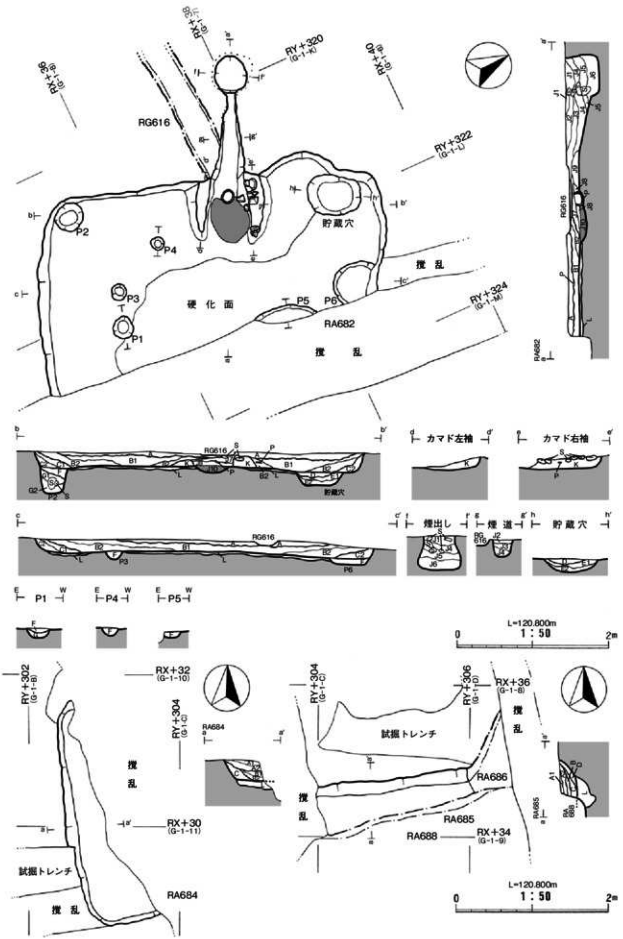
第12図　RA678 竪穴建物跡



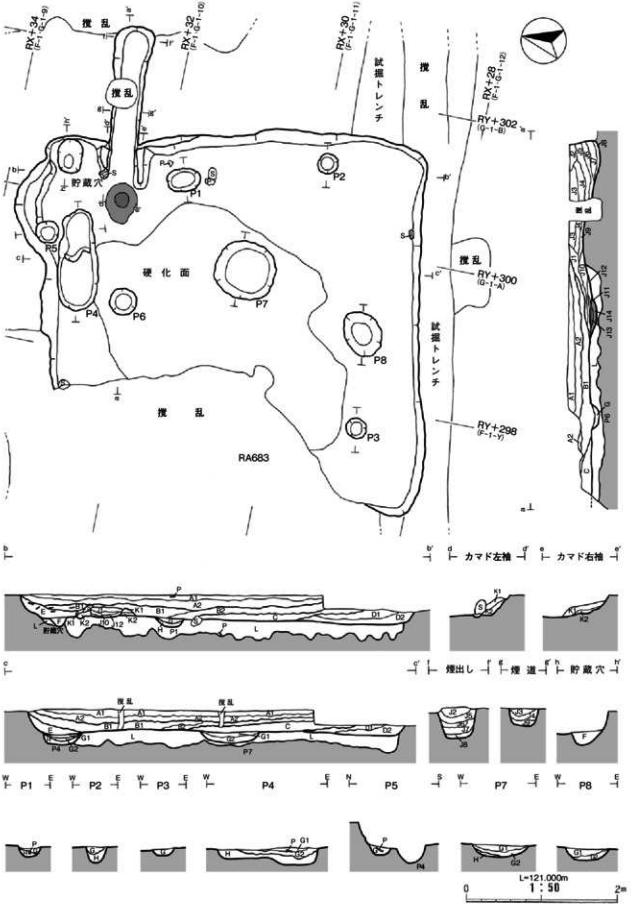
第13図　RA679・681 竪穴建物跡



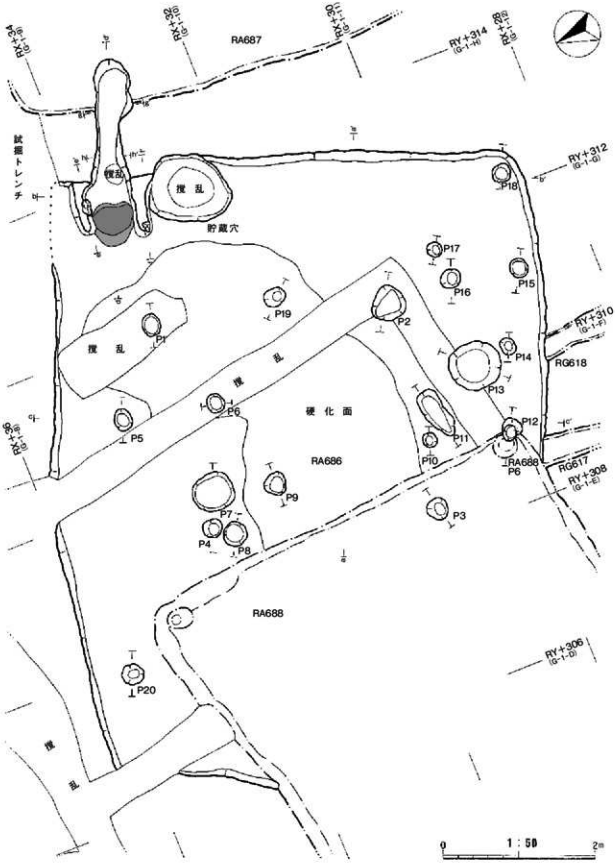
第14図　RA680 竪穴建物跡



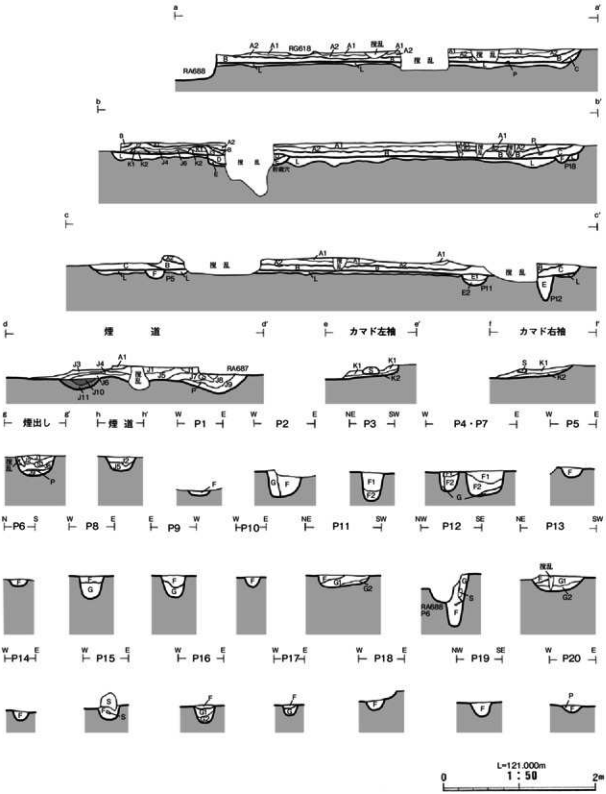
第15図　RA682・684・685 竪穴建物跡



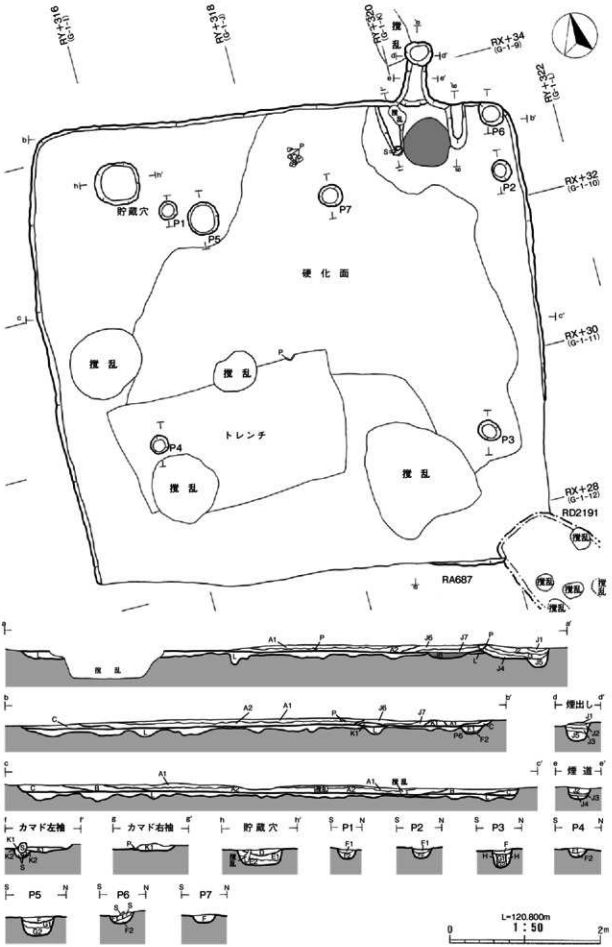
第16図　RA683 竪穴建物跡



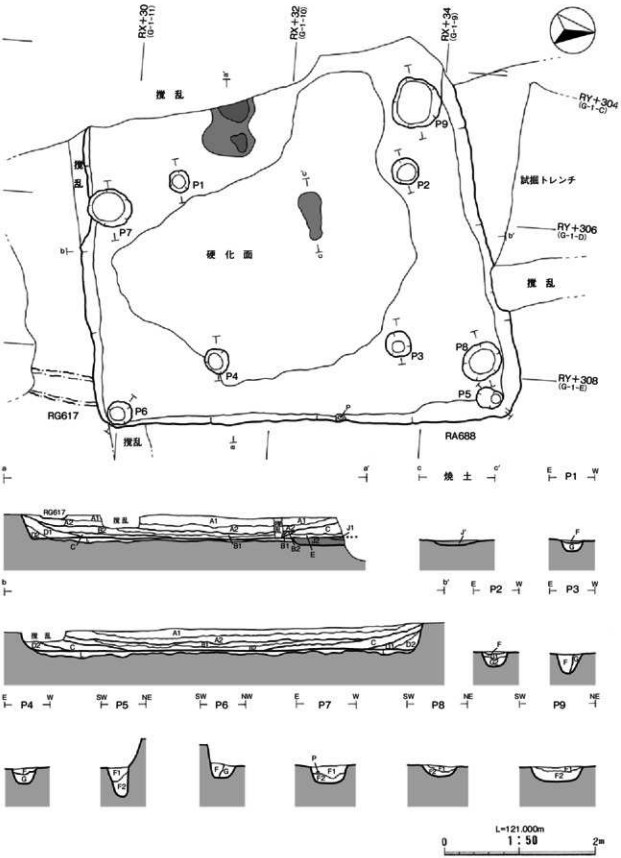
第17図　RA686 竪穴建物跡（1）



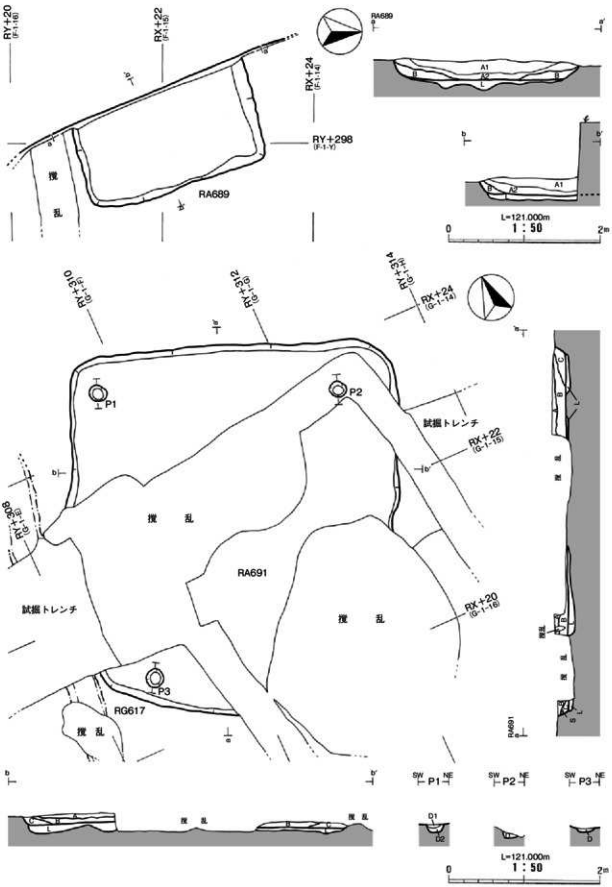
第18図　RA686 竪穴建物跡（2）



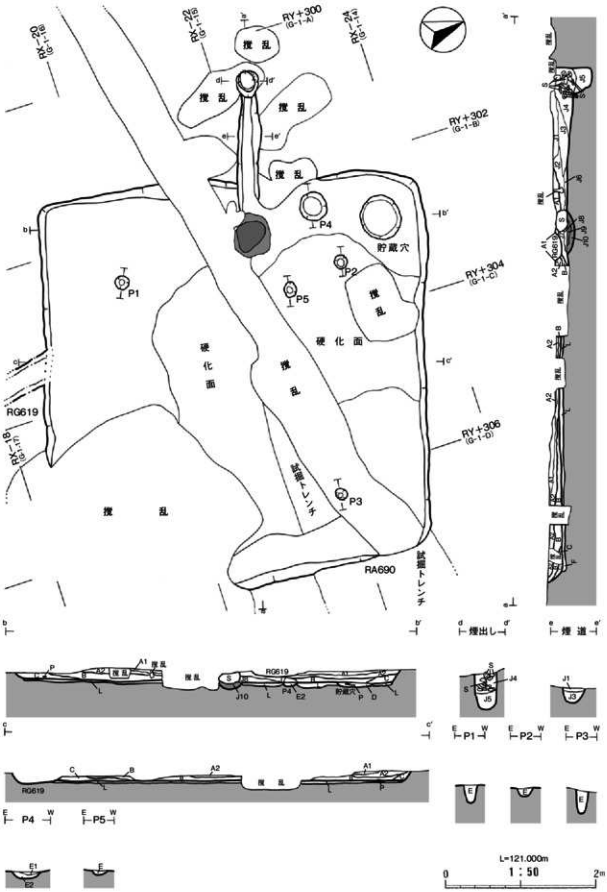
第19図　RA687 竪穴建物跡



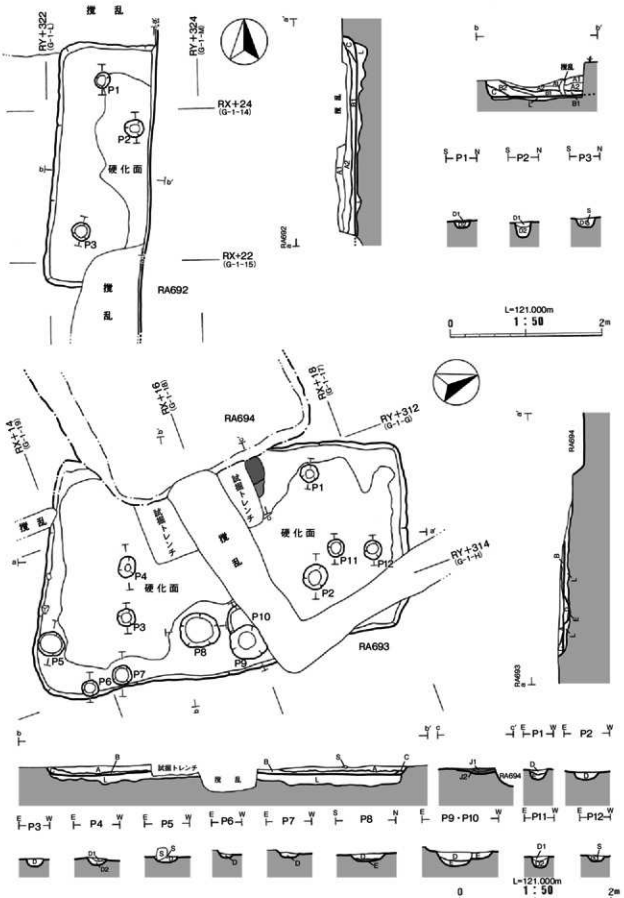
第20図　RA688 竪穴建物跡



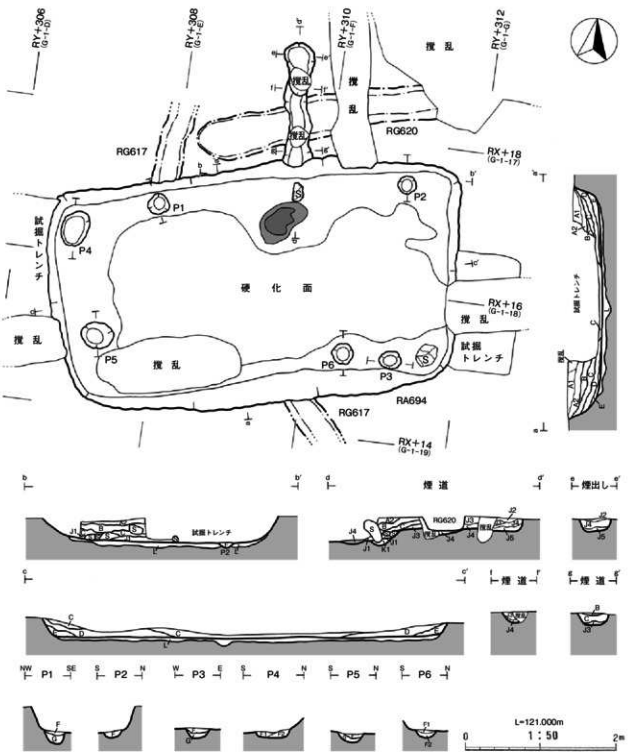
第21図　RA689・RA691 竪穴建物跡



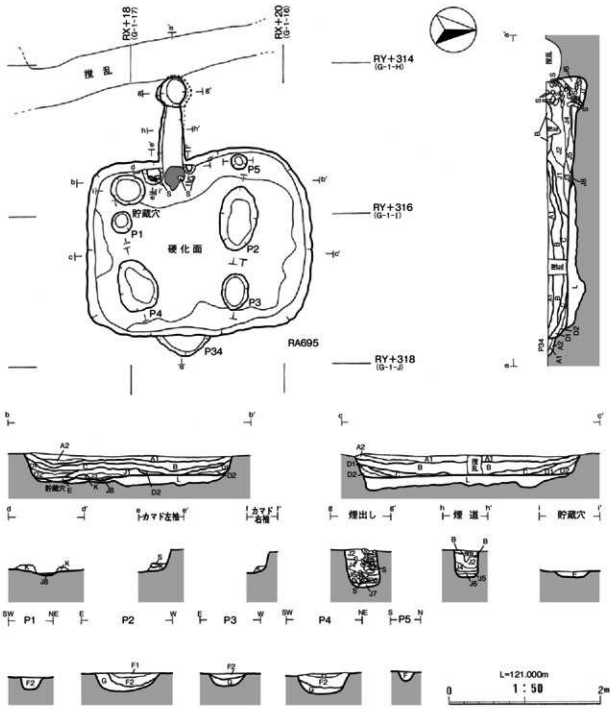
第22図　RA690 竪穴建物跡



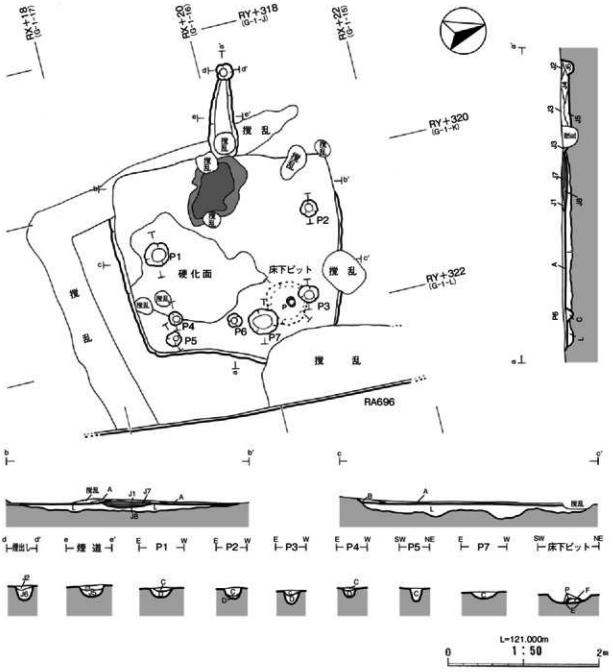
第23図　RA692・RA693 竪穴建物跡



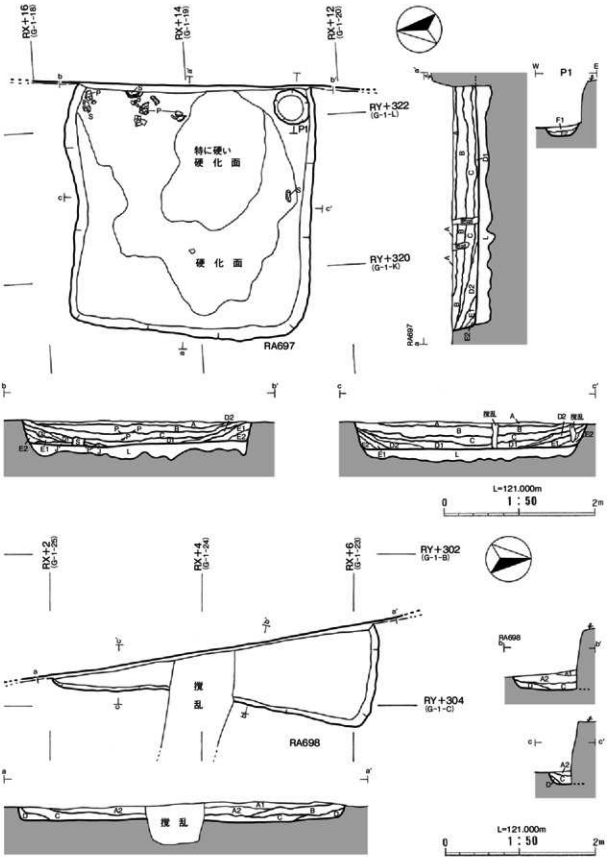
第24図　RA694 竪穴建物跡



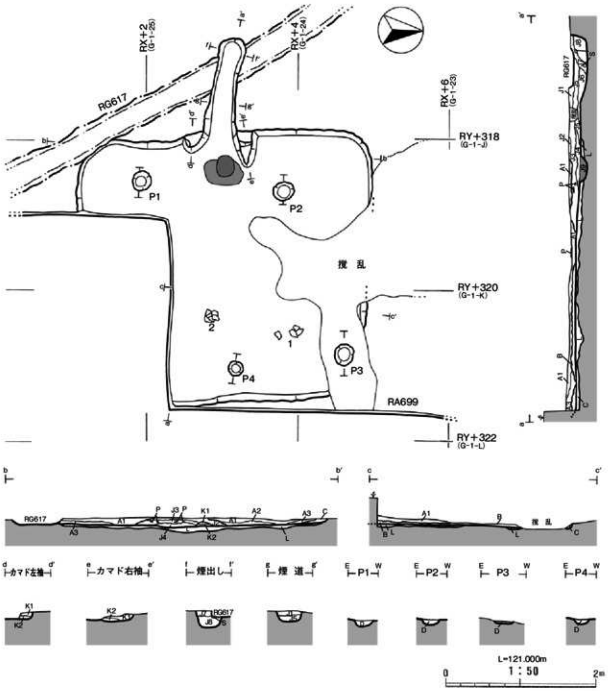
第25図　RA695 竪穴建物跡



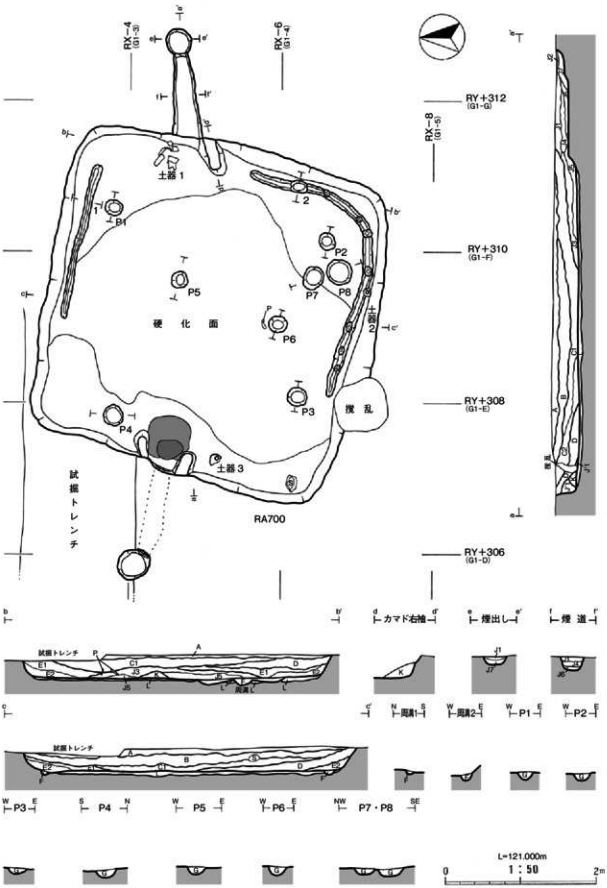
第26図　RA696 竪穴建物跡



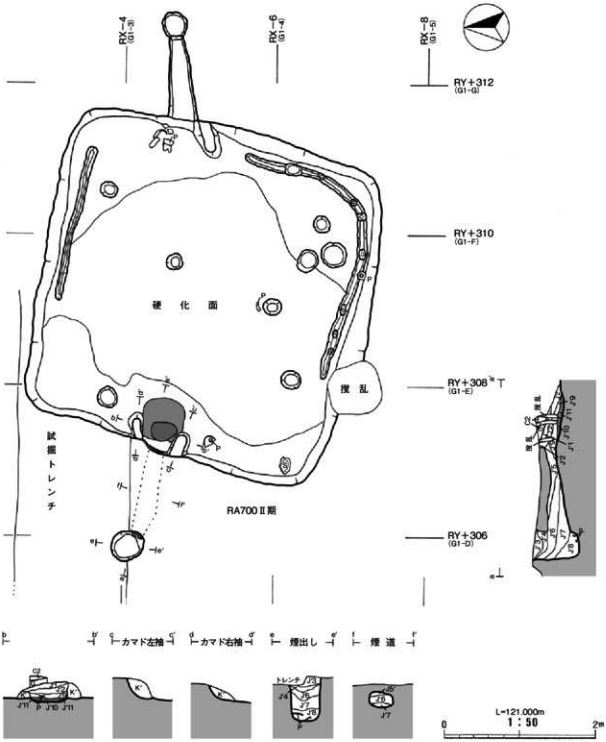
第27図　RA697・RA698 竪穴建物跡



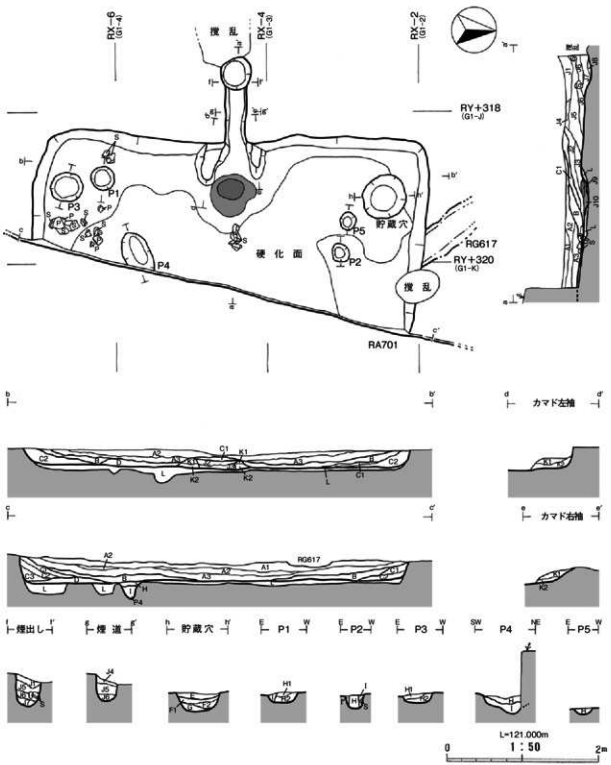
第28図　RA699 竪穴建物跡



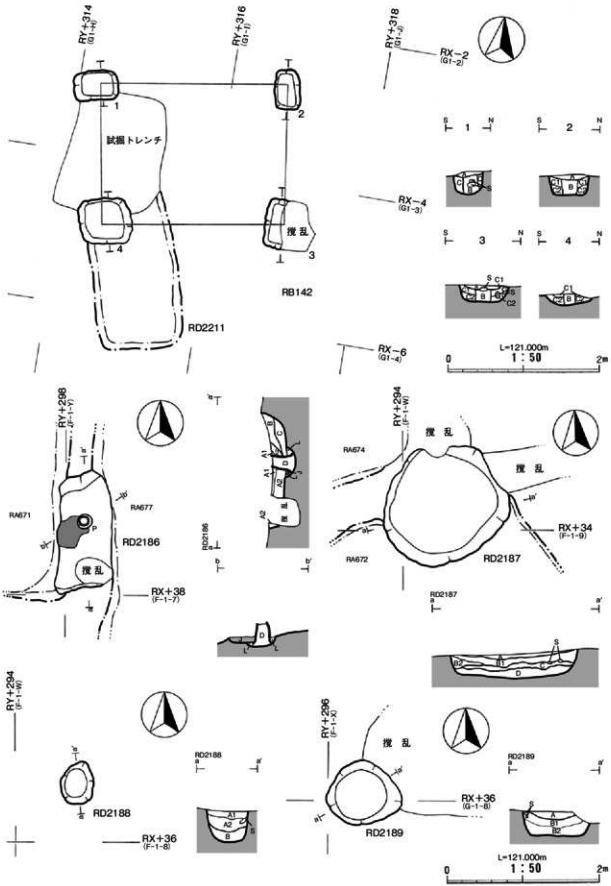
第29図　RA700 竪穴建物跡（Ⅰ期）



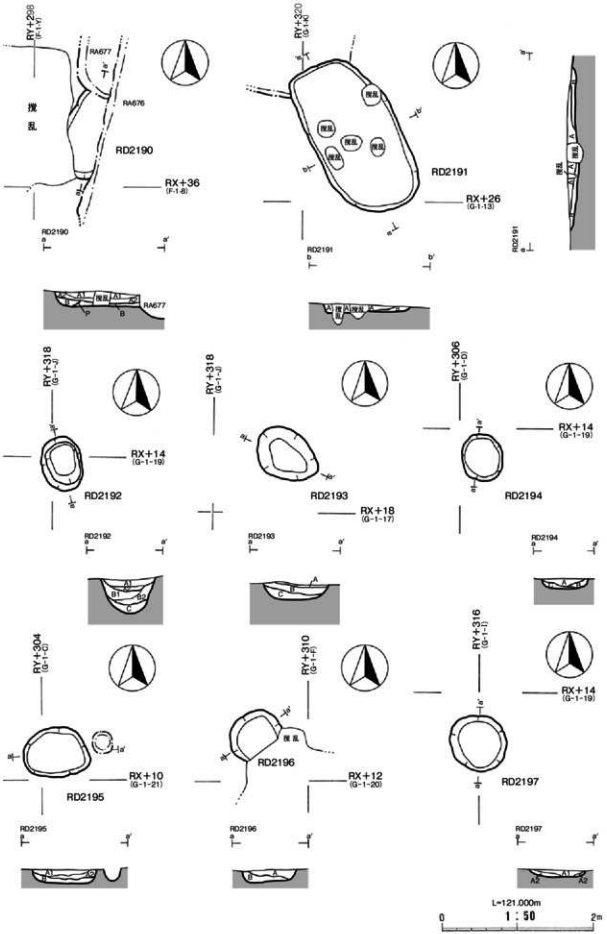
第30図　RA700 竪穴建物跡（Ⅱ期）



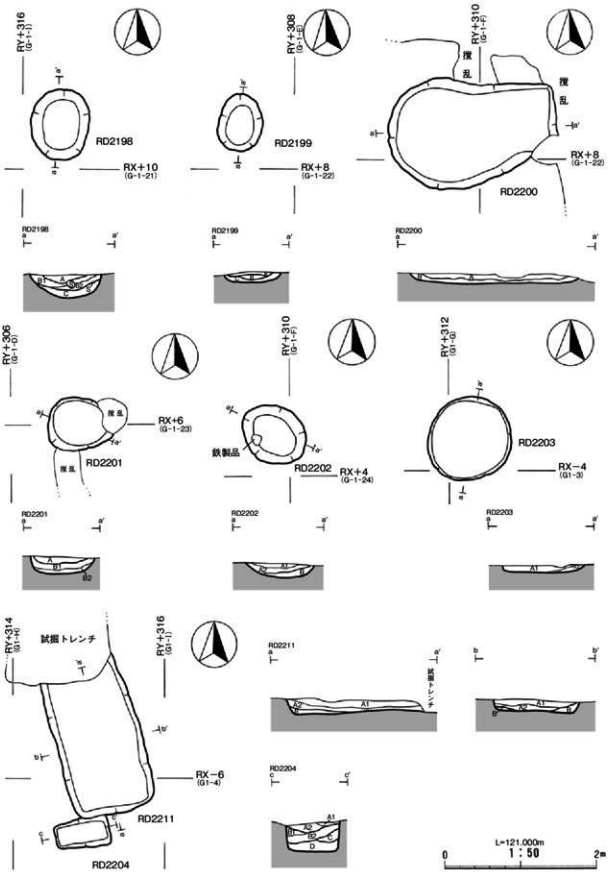
第31図　RA701 竪穴建物跡



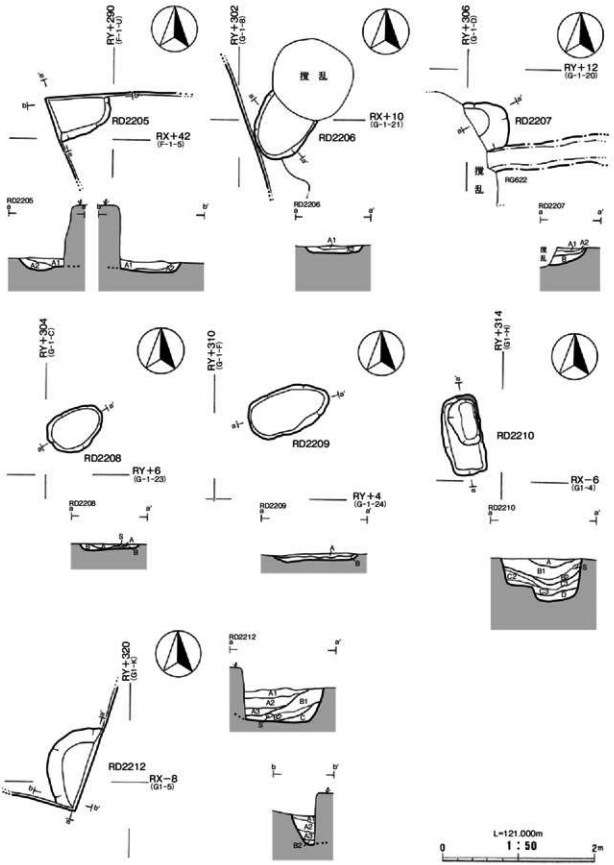
第32図　RB142 掘立柱建物跡,RD2186～2189 土坑



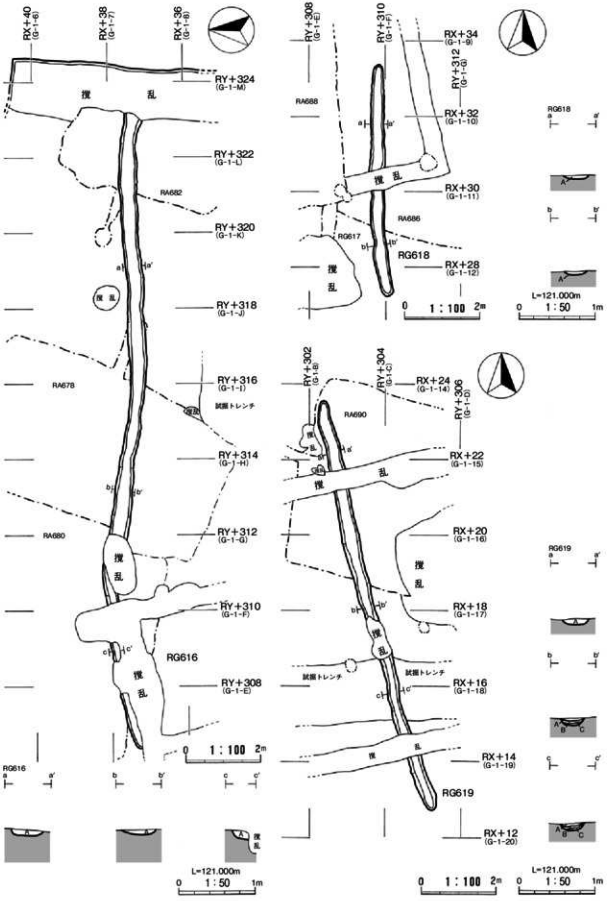
第33図　RD2190～2197 土坑



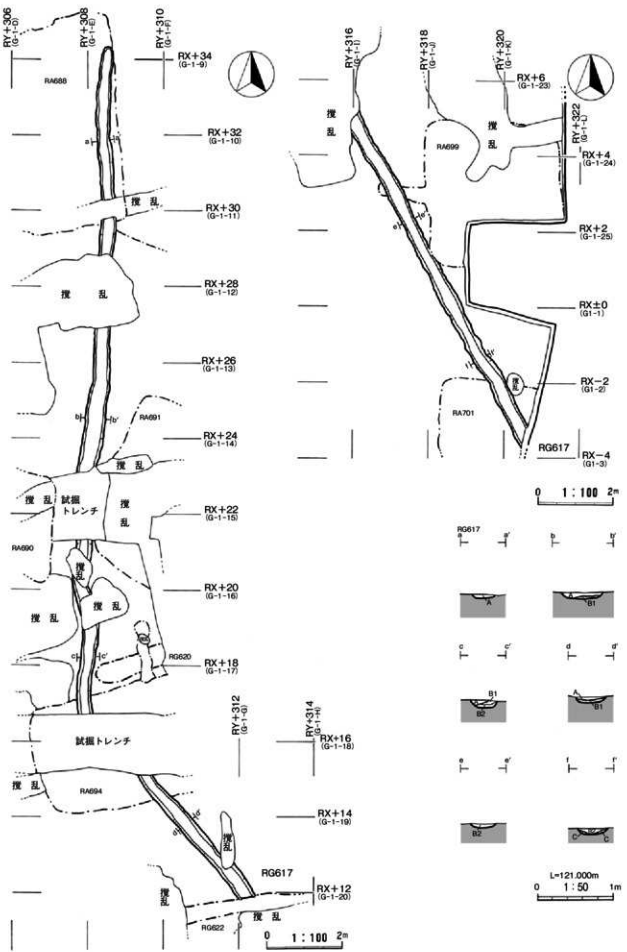
第34図　RD2198～2204・2211 土坑



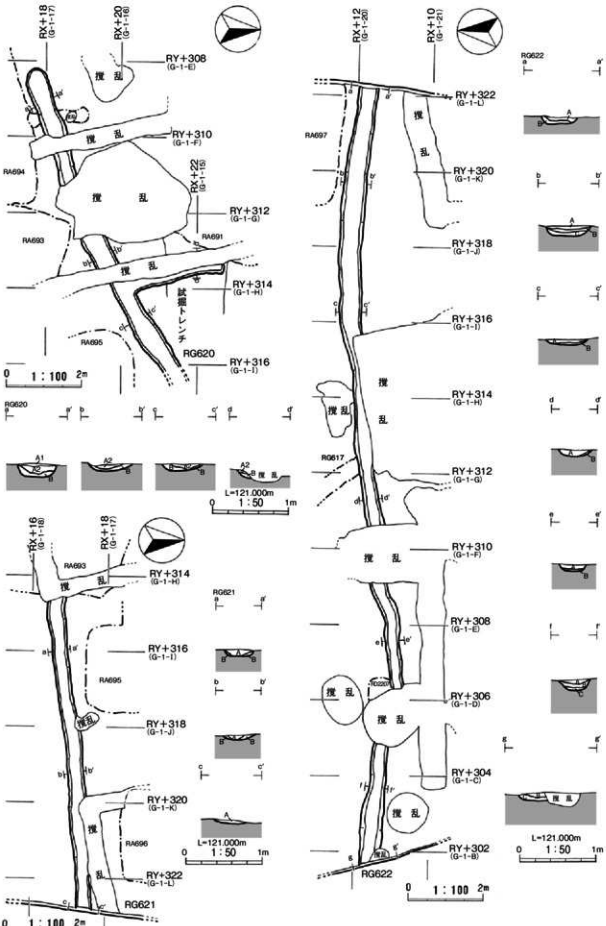
第35図　RD2205～2210・2212 土坑



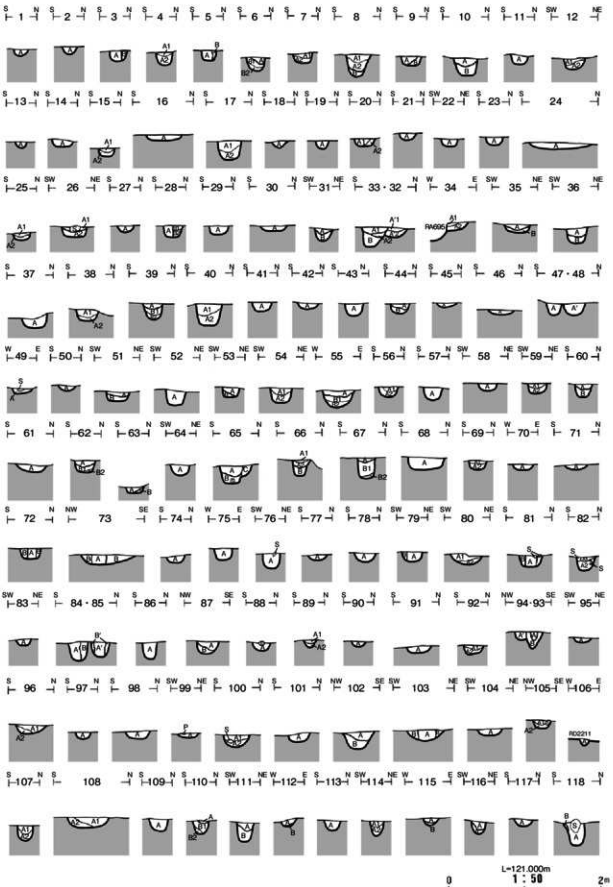
第36図　RG616・618・619 溝跡



第37図　RG617 溝跡

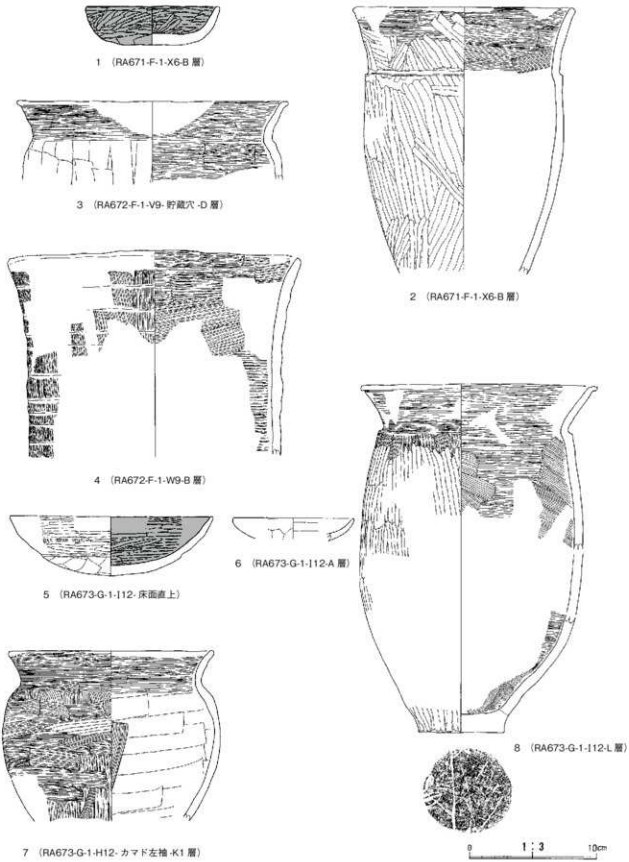


第38図　RG620～622 溝跡

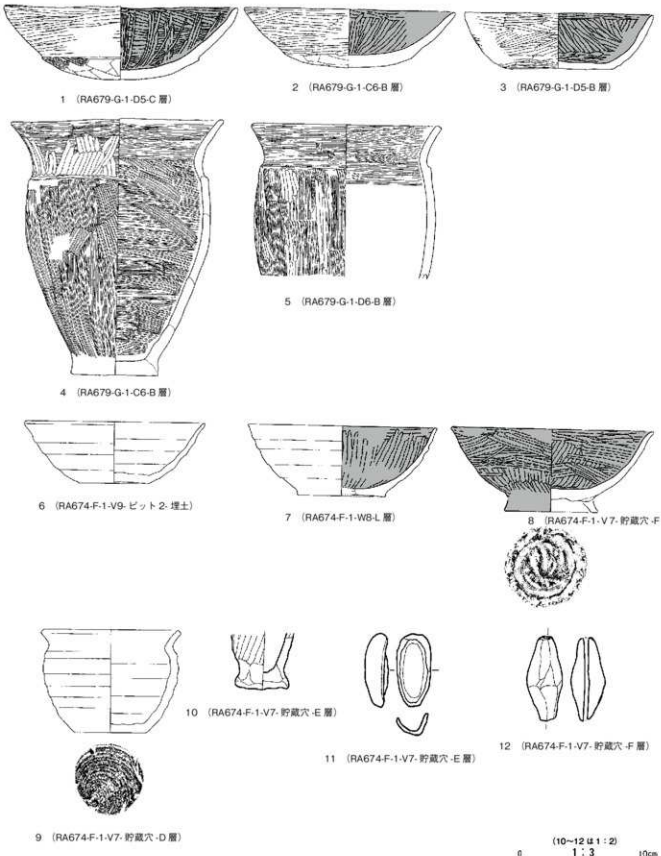


第39図　ピット土層断面

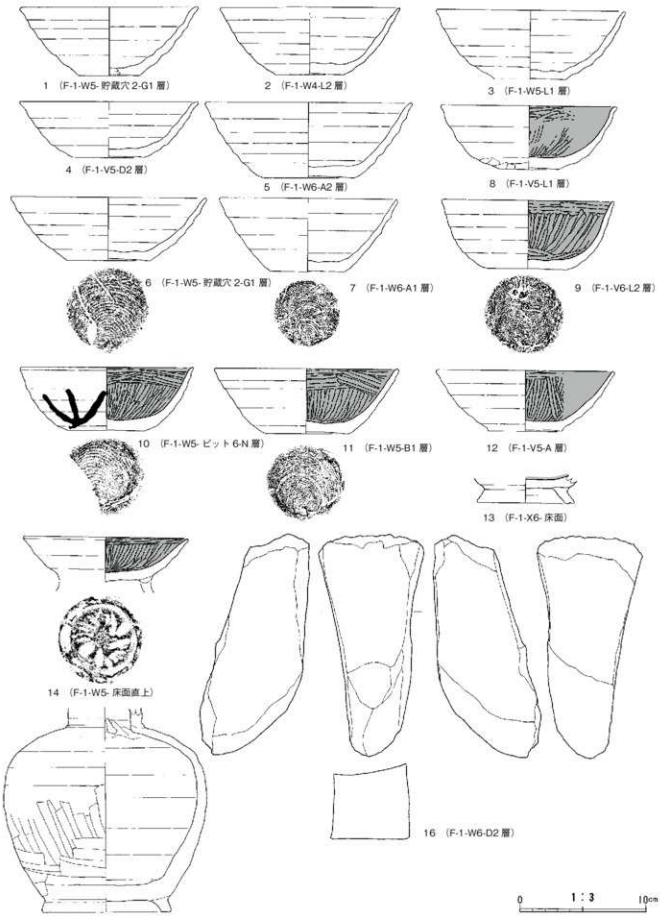
遺　物　図　版



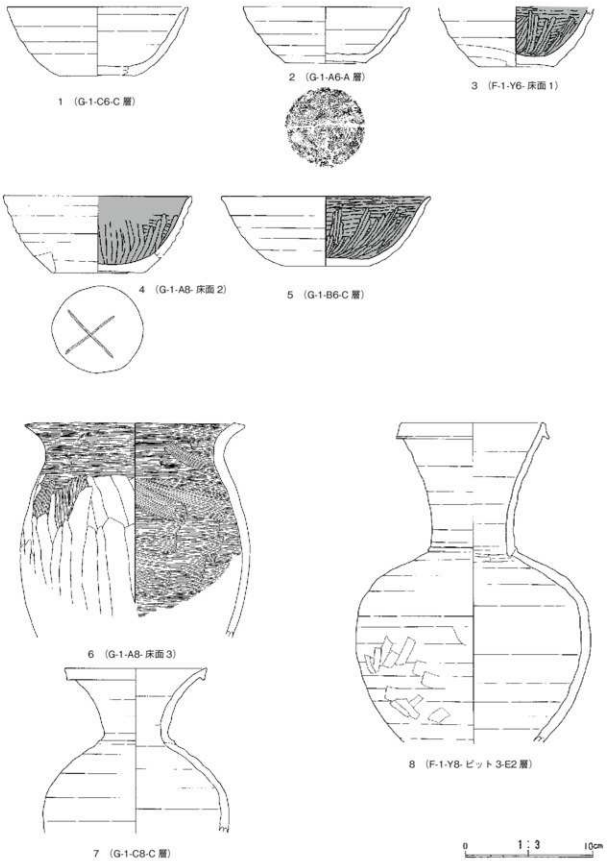
第40図　RA671～673 竪穴建物跡出土土器



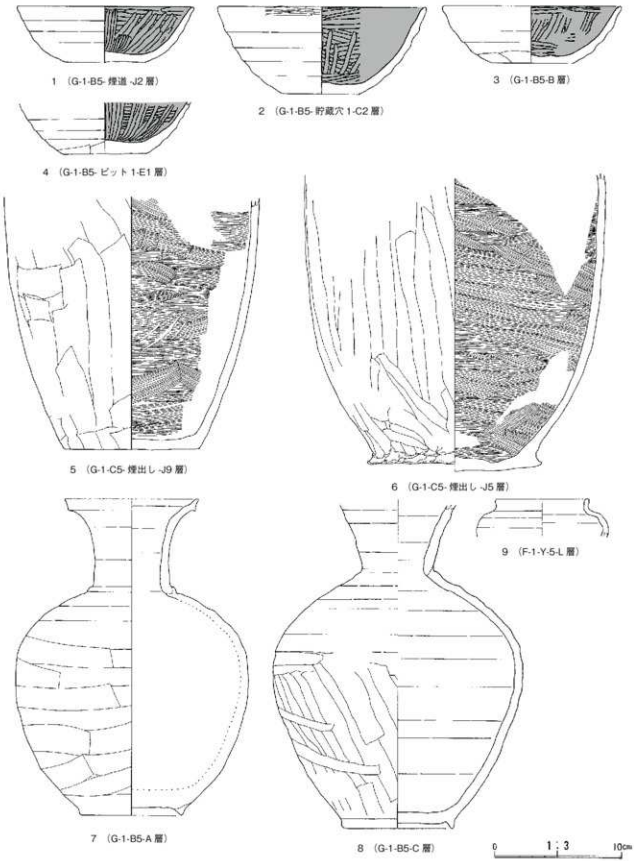
第41図　RA674・679 竪穴建物跡出土遺物



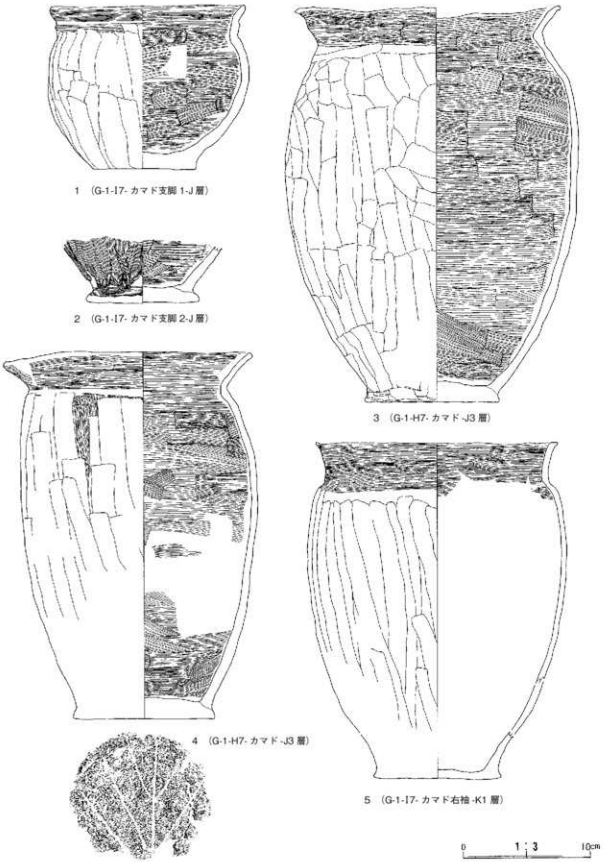
第42図　RA675 竪穴建物跡出土遺物



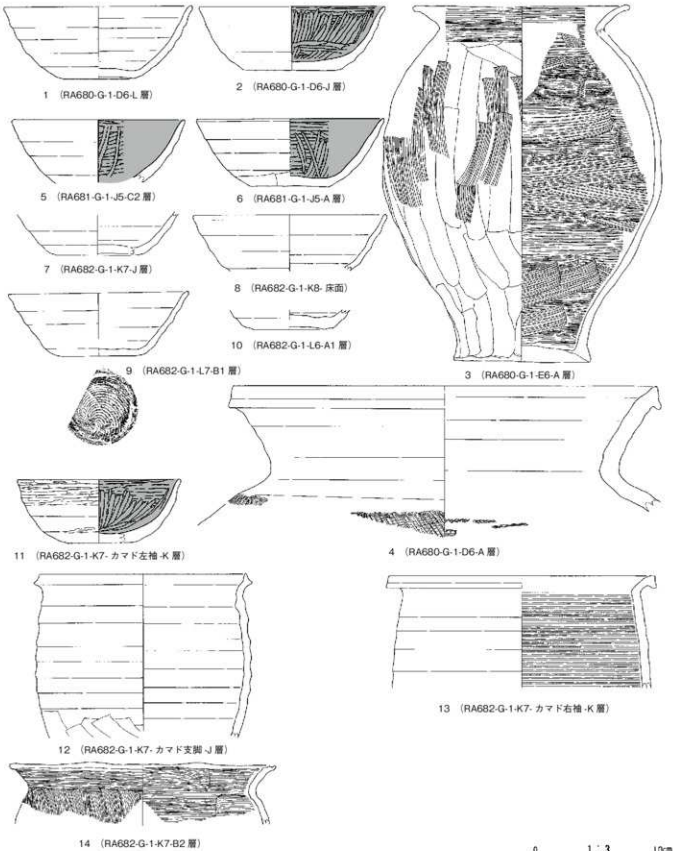
第43図　RA676 竪穴建物跡出土土器



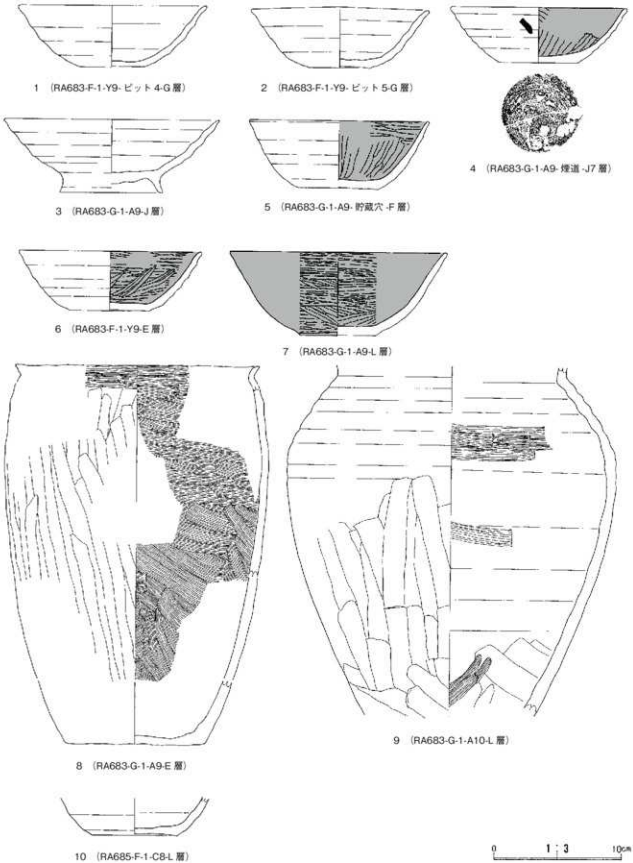
第44図　RA677 竪穴建物跡出土土器



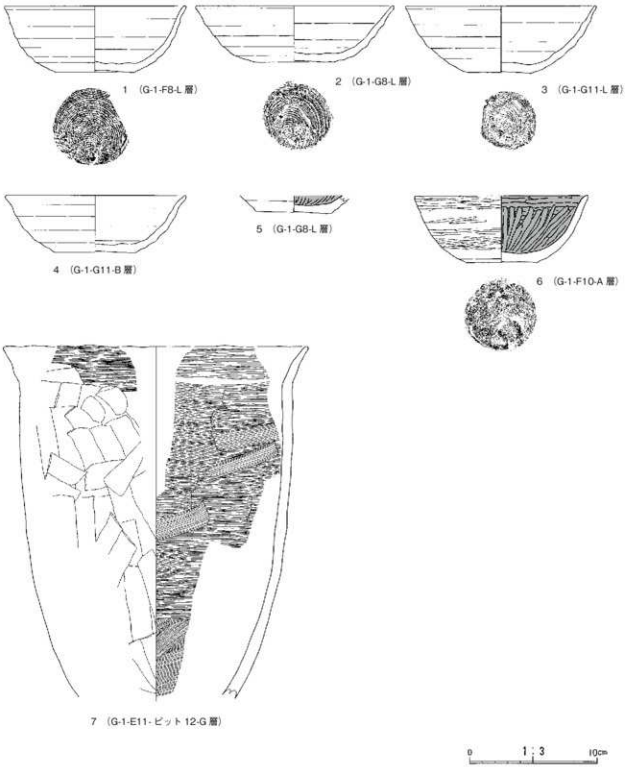
第45図　RA678 竪穴建物跡出土土器



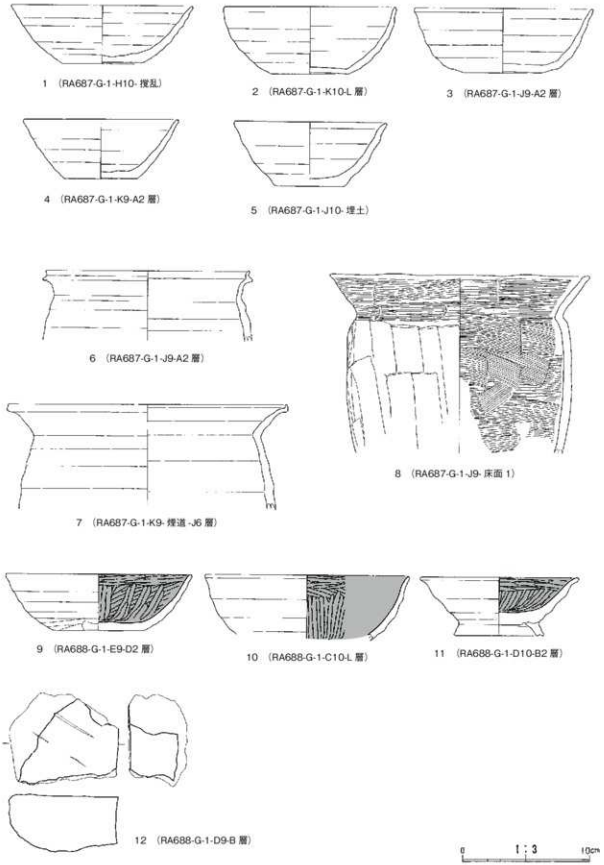
第46図　RA680～682 竪穴建物跡出土土器



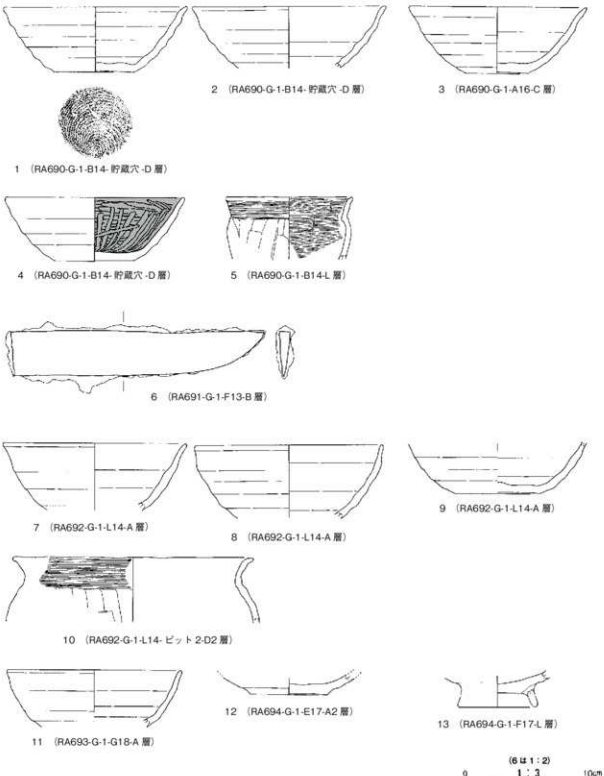
第47図　RA683・685 竪穴建物跡出土土器



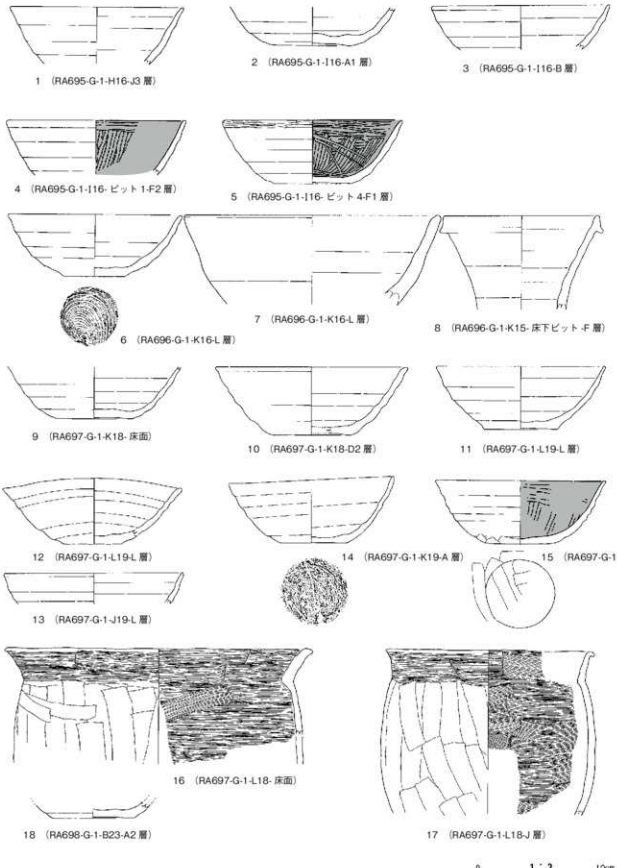
第48図　RA686 竪穴建物跡出土土器



第49図　RA687・688 竪穴建物跡出土遺物



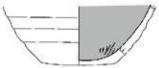
第50図　RA690～694 竪穴建物跡出土遺物



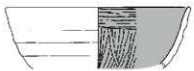
第51図　RA695～698 竪穴建物跡出土土器

1 （RA699-G-1-J24-B 層）

2 （RA699-G-1-K24-L 層）



3 （RA699-G-1-K24-B 層）

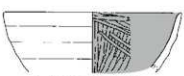


4 （RA699-G-1-K24-B 層）

5 （RA699-G-1-K24- 床面 2）

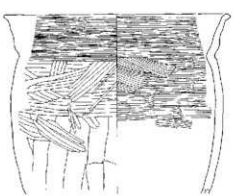
6 （RA699-G-1-K24-B 層）

7 （RA701-G1-J2-B 層）

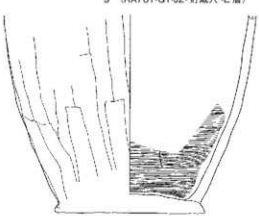


8 （RA701-G1-J3-J1 層）

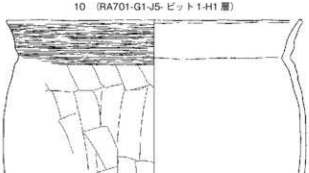
9 （RA701-G1-J2- 貯蔵穴 -E 層）



10 （RA701-G1-J5- ピット 1-H1 層）



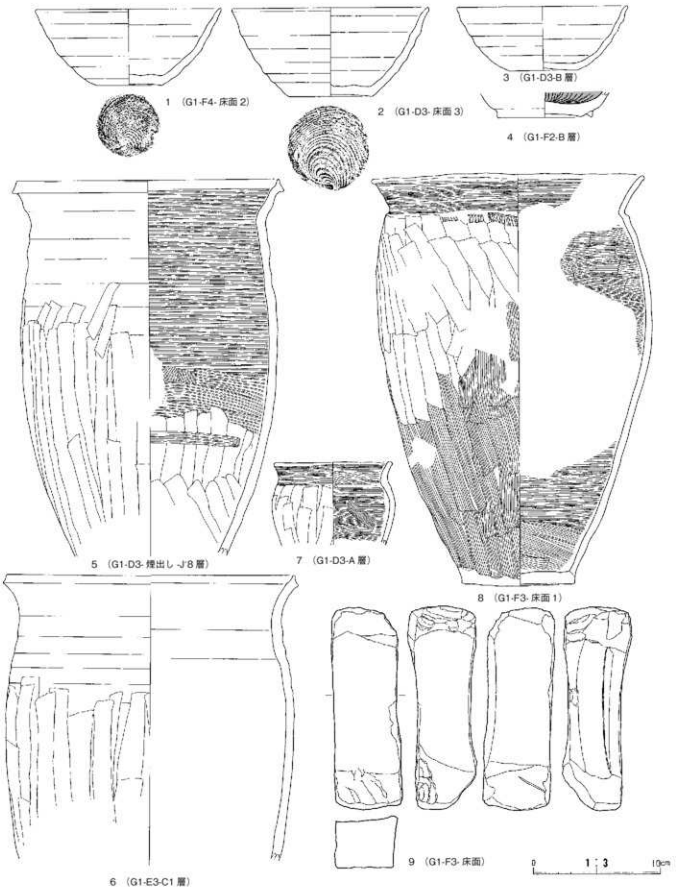
11 （RA701-G1-J4- カマド焼土 -J 層）



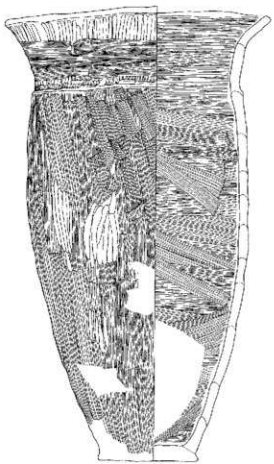
12 （RA701-G1-J4-D 層）

0 1：3 10cm

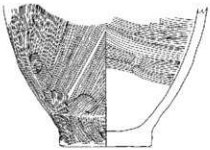
第52図　RA699・701 竪穴建物跡出土土器



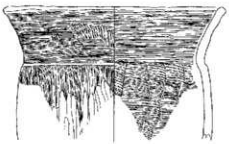
第53図　RA700 竪穴建物跡出土遺物



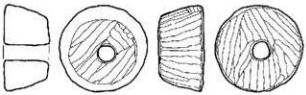
1 （RD2186-F-1-Y6- 底面）



2 （RD2187-F-1-W8-D 層）



3 （RD2187-F-1-W8-C 層）



4 （RD2187-F-1-W8-A2 層）

5 （RD2191-G-1-K12-B 層）

6 （RD2212-G1-J4-A2 層）

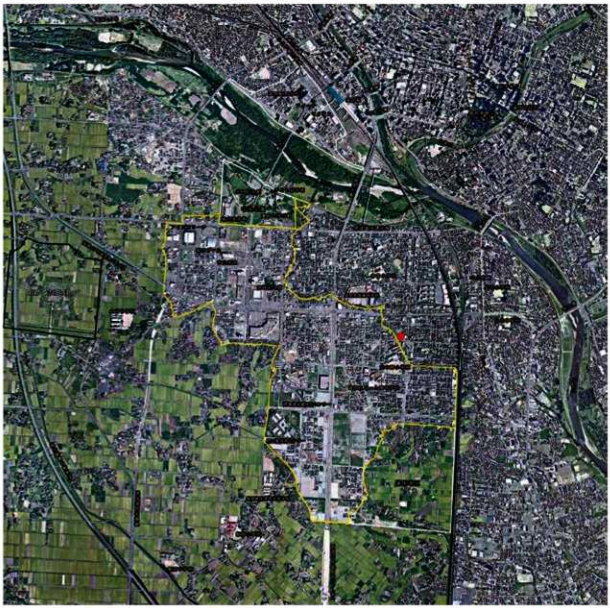
7 （RG621-G-1-F17-A 層）

8 （F-1-Y10-C 層）

（4・6・8は1：2）
0 1：3 10cm

第54図　RD2186・2187・2191・2212土坑,RG621 溝跡,遺構外出土遺物

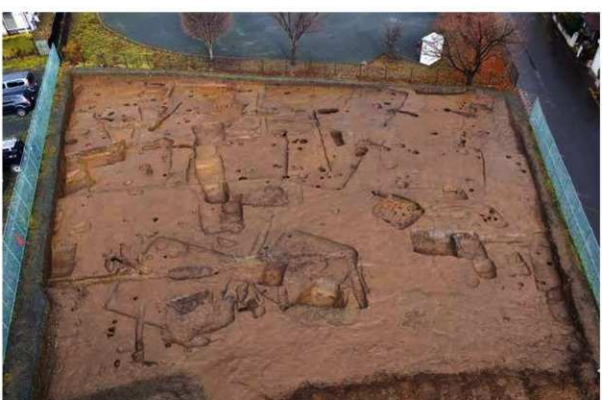
写　真　図　版



盛南開発地区航空写真（2012年9月撮影）　●調査地点

提供　独立行政法人都市再生機構 岩手都市開発事務所

第80次調査区南全景（北から）



第80次調査区北全景（南から）

RA671 竪穴建物跡全景（西から）

RA672 竪穴建物跡全景（北東から）

RA673 竪穴建物跡全景（南東から）

RA679 竪穴建物跡全景（東から）

RA674 竪穴建物跡全景（北西から）

RA674 竪穴建物跡 貯蔵穴遺物出土状況（西から）

RA675 竪穴建物跡全景（南から）

RA675 竪穴建物跡 柱材検出状況（北西から）

RA676 竪穴建物跡全景（南東から）

RA677 竪穴建物跡全景（西から）

RA678 竪穴建物跡全景（北西から）

RA678 竪穴建物跡 カマド全景（南西から）

RA680 竪穴建物跡全景（南から）

RA681 竪穴建物跡全景（南から）

RA682 竪穴建物跡全景（南東から）

RA683 竪穴建物跡全景（南西から）

RA684 竪穴建物跡全景（北東から）

RA685 竪穴建物跡全景（南から）

RA686 竪穴建物跡全景（北西から）

RA687 竪穴建物跡全景（南から）

RA688 竪穴建物跡全景（東から）

RA689 竪穴建物跡全景（北東から）

RA690 竪穴建物跡全景（南東から）

RA691 竪穴建物跡全景（南西から）

RA692 竪穴建物跡全景（西から）

RA693 竪穴建物跡全景（東から）

RA694 竪穴建物跡全景（南東から）

RA695 竪穴建物跡全景（東から）

RA696 竪穴建物跡全景（東から）

RA696 竪穴建物跡 床下ピット遺物出土状況（西から）

RA697 竪穴建物跡全景（西から）

RA698 竪穴建物跡全景（東から）

RA699 竪穴建物跡全景（北から）

RA700 竪穴建物跡Ⅰ・Ⅱ期全景（北東から）

RA700 竪穴建物跡Ⅱ期 カマド全景（北から）

RA701 竪穴建物跡全景（北から）

RB142 掘立柱建物跡全景（南東から）

RD2186 土坑全景（西から）

RD2187 土坑全景（北から）

RD2188 土坑全景（東から）

RD2189 土坑全景（南から）

RD2190 土坑全景（南東から）

RD2191 土坑全景（北東から）

RD2192 土坑全景（東から）

RD2193 土坑全景（南西から）

RD2194 土坑全景（東から）

RD2195 土坑全景（南から）

RD2196 土坑全景（南西から）

RD2197 土坑全景（東から）

RD2198 土坑全景（東から）

RD2199 土坑全景（東から）

RD2200 土坑全景（南から）

RD2201 土坑全景（南西から）

RD2202 土坑全景（南西から）

RD2203 土坑全景（東から）

RD2204 土坑全景（南から）

RD2205 土坑全景（南東から）

RD2206 土坑全景（北東から）

RD2207 土坑全景（南東から）

RD2208 土坑全景（南東から）

RD2209 土坑全景（南東から）

RD2210 土坑全景（東から）

RD2211 土坑全景（東から）

RD2212 土坑全景（西から）

RG616 溝跡全景（東から）

RG617 溝跡北全景（北から）

RG617 溝跡南全景（北西から）

RG618 溝跡全景（北から）

RG619 溝跡北全景（南東から）

RG619 溝跡南全景（南東から）

RG620 溝跡全景（南西から）

RG621 溝跡全景（西から）

RG622 溝跡全景（東から）

RA671 竪穴建物跡出土土器

RA672 竪穴建物跡出土土器

RA673 竪穴建物跡出土土器

RA679 竪穴建物跡出土土器

RA674 竪穴建物跡出土土器・土製品

RA675 竪穴建物跡出土土器

RA675 竪穴建物跡出土土師器坏 墨書「木」

RA675 竪穴建物跡 ピット2 出土柱材

RA676 竪穴建物跡出土土器

RA676 竪穴建物跡出土土師器坏 刻書「＋」

RA677 竪穴建物跡出土土器

RA678 竪穴建物跡出土土器

RA680 竪穴建物跡出土土器

RA681 竪穴建物跡出土土器

RA682 竪穴建物跡出土土器

RA683 竪穴建物跡出土土器

第14図版

RA686 竪穴建物跡出土土器

RA687 竪穴建物跡出土土器

RA688 竪穴建物跡出土土器

RA690 竪穴建物跡出土土器

RA691 竪穴建物跡出土小刀

RA692 竪穴建物跡出土土器

RA694 竪穴建物跡出土土器

RA695 竪穴建物跡出土土器

RA696 竪穴建物跡出土土器

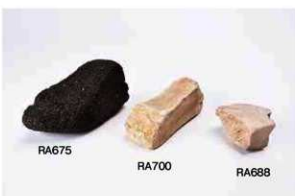
RA697 竪穴建物跡出土土器

RA699 竪穴建物跡出土土器

RA700 竪穴建物跡出土土器

RA701 竪穴建物跡出土土器

RA673 竪穴建物跡，RD2191 土坑，RG621 溝跡出土土器



RA675・688・700 竪穴建物跡出土砥石

RD2186 土坑出土土器

第16図版

RD2187 土坑出土土器，土製品

遺構外出土縄文土器

RD2212 土坑出土磁器 染付「別當塚」

調査風景

盛岡市立向中野小学校3年生見学会（平成25年10月23日）

報告書抄録

ふりがな	だいたろういせき
書　名	台太郎遺跡
副書名	「フローラルアベニュー向中野２丁目」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ番号	
編著者名	花井正香
編集機関	盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館
所在地	〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地１　電話 019-635-6600　Fax 019-635-6605
発行機関	徳清倉庫株式会社・盛岡市教育委員会
発行年月日	2015年９月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 世界測地系	東経 世界測地系	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
だいたろういせき 台太郎遺跡 第80次	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 むかいなかの 向中野二丁目 6番2	03201	LE16-2269	39° 40′ 45″	141° 08′ 38″	2013.07.22 ～ 2013.12.02	1,155㎡	宅地造成

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
台太郎遺跡	集落	奈良時代 平安時代 古代以降	竪穴建物跡　4棟 土坑　2基 竪穴建物跡　27棟 掘立柱建物跡　1棟 土坑　5基 土坑　20基 溝跡　7条	須恵器，あかやき土器，土師器，土製品（紡錘車，ミニチュア土器），石製品（砥石），鉄製品（小刀），磁器，木製品（柱材）	平安時代の竪穴建物跡内から地鎮の可能性のあるピットと埋納された須恵器が出土。竪穴建物跡の柱穴に柱材が残存。
要約	台太郎遺跡は大規模土地区画整理事業によって，遺跡西部から中央部が調査されており，古代の竪穴建物跡が約700棟確認される，北上川流域で最大規模の集落である。本調査では調査事例の少ない遺跡東部の集落の様相を明らかにすることができた。				

台 太 郎 遺 跡

—「フローラルアベニュー向中野２丁目」宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2015年９月30日 発行

編集　盛岡市教育委員会　盛岡市遺跡の学び館

〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地１

電話 019-635-6600　Fax 019-635-6605

発行　徳清倉庫株式会社　盛岡市教育委員会

印刷　株式会社　吉田印刷

〒020-0016　岩手県盛岡市名須川町23番地27号

電話 019-625-2323　Fax 019-622-1377